

特定課題研究

国際バカロレア「日本語 A：文学」の魅力あるオンライン化の設計と実装
-どこでも、一人でも、Moodle で学べるように-

Designing and Implementing an Attractive Online Version of the
International Baccalaureate "Japanese A: Literature": Learning
Anywhere and Even Alone in Moodle.

熊本大学大学院社会文化科学教育部 博士前期課程 教授システム学専攻
学生番号：245-G8845
氏名：五十嵐 敢

主指導：中野 裕司 先生

副指導：喜多 敏博先生 マジュンダール リトジット先生

2026 年 1 月 ver1.0

This research has been developed independently from and is not endorsed by the International
Baccalaureate Organization. International Baccalaureate, Baccalauréat International, Bachillerato
Internacional and IB are registered trademarks owned by the International Baccalaureate Organization.

目次

第1章 なぜこの研究に価値があるのか-P5

- 1.1 「私」は誰か、なぜ書くのか/P5
- 1.2 なぜこの研究に価値があるのか/P6
- 1.3 新規性+有用性+信頼性/P8

第2章 開発のコンセプト-P9

- 2.1 「学べる、出会える、形にできる」/P9
- 2.2 「考える機会が充分なら、面白くてもよい」/P10
- 2.3 「文学の魅力は枠の外にある意識を持つ」/P10
- 2.4 「著作権を無視した過去問使用や点取り主義に堕さない」/P11

第3章 国際バカロレアを概観する-P13

- 3.1 非営利団体が運営する世界的なコミュニティ/P13
- 3.2 プログラムの前提となる「国際的な視野」と「IB の学習者像」/P15
- 3.3 3歳から19歳までをカバーする4つのプログラム/P16
- 3.4 国際バカロレアディプロマプログラム (IBDP) の構成について/P17
- 3.5 国際バカロレアはどのくらいの規模で学ばれているのか/P18
- 3.6 海外在留邦人の子女に対する教育として/P21

第4章 「日本語 A：文学」を概観する-P23

- 4.1 「日本語 A：文学」とは何か/P23
- 4.2 学校の授業はどう進行するのか/P24
- 4.3 「日本語 A：文学」の科目要件はどのようなものか/P25
- 4.4 「日本語 A：文学」の“ねらい”/P27
- 4.5 「日本語 A：文学」の“評価目標”と実際にどう評価されるか/P29
- 4.6 「日本語 A：文学」の IB 本試験人数と評価データについて/P30

第5章 「日本語A：文学」のコースデザインを考える-P33

- 5.1 解決すべき問題の設定と、対象者を仮定する/P33
- 5.2 科目選択は本人が将来に学びたいことを示している/P35
- 5.3 指定作家リストから本を7冊選び、全体のコースデザインを考える/P36
- 5.4 コースデザインが科目要件を満たすか確認し、他の言語科目との調整を行う/P37
- 5.5 コースデザインが探究領域に対して様々な間を含んでいるかを確認する/P39
- 5.6 途中でのつまずきとオンラインならではの困難さを想定に入れる/P40
- 5.7 150時間という授業時間を分割し、割り当てとシーケンスを考える/P42
- 5.8 実際の Moodle の構造のイメージ/P43
- 5.9 「制作上の指針6か条」を意識する/P44
- 5.10 ここまでのデザインは「学習意欲をデザインする」ことではないか/P45

第6章 「オリエンテーション」のパートの条件-P47

- 6.1 なぜ「オリエンテーション」のパートが必要なのか/P47
- 6.2 オリエンテーションは具体的に何を提供するのか/P48
- 6.3 グランドルールを決めると、オンラインでもムードが決まってくる/P52
- 6.4 オンラインの教材を触ること自体が、チュートリアルになる/P53
- 6.5 オンラインだからこそ、意図してダブリ、モレを用意する/P53

第7章 ペーパー1のパートと Moodle 試作版の評価-P54

- 7.1 ペーパー1という試験形式/P54
- 7.2 実際の試作を作る際の条件/P57
- 7.3 制作の手順について/P58
- 7.4 紙版と Moodle 試作版での実際のコンテンツの比較/P59
- 7.5 Moodle 試作版の専門家レビューによる評価/P67
- 7.6 専門家レビューを受けた後の考察/P71

第8章 ペーパー2のパートと Moodle で実装する条件-P73

- 8.1 ペーパー2という試験形式/P73
- 8.2 「学習のねらい」との関連/P76

8.3 Moodle で実際の試作を作る際の課題-前半パート（作品を読む段階）/P76

8.4 実際の試作を作る際の課題-後半パート（2 作品の比較小論文を書く段階）/P81

8.5 前半パートと後半パートをどのように統合するか/P84

第9章 個人口述のパートと Moodle で実装する条件-P87

9.1 個人口述という試験形式/P87

9.2 何ができるようになればいいのか/P90

9.3 グローバルな問題とは何か、どう絞り込むか/P91

9.4 学問的誠実性を守りながらどう導くか/P92

9.5 Moodle 上で実装する時の試案/P94

第10章 結論と展望のための断章-P96

10.1 結論-「IB 日本語 A : 文学」を Moodle で実装する段階的な運用について/P96

10.2 断章-人を育てるのは人だけだ/P97

10.3 断章-今後の Moodle での教材デザインのために必要な考え方/P99

10.4 断章-ループリックを使った AI による採点の可能性/P100

10.5 断章-「学習者の孤独」という問題/P101

10.6 断章-過渡期の記録/P103

特定課題研究要旨（日本語）

題 目

国際バカロレア「日本語 A：文学」の魅力あるオンライン化の設計と実装
-どこでも、一人でも、Moodle で学べるように-

要 旨

国際バカロレアの高校生プログラム（以下 IBDP とする）では母国語を含む言語科目を二科目選択する必要がある。シンガポールからみる現状は、開講される学校が限られ学習支援の環境を得るのが難しいという考えから「日本語」を選択しない日本人高校生も多い。本研究では、よく考えられた教材とカリキュラムがあれば、Moodle でも学習が可能ではないか、そうすれば母国語を諦めずに将来の高等教育につながるのではないかと考え、試験形式から要件を整理し Moodle に実装する際の課題を展望する。

今回の研究は、IBDP の言語 A：文学の中で「日本語」という世界的にもニッチな分野を採り上げている。また、背景となる国際バカロレアや言語 A：文学という科目の知識や、日本の国語教育との差を知りたいという方もいるだろうと考えた。そのため、章ごとに単独で読めるように各章にエグゼクティブサマリーや注釈をつけた。

章立ては以下の通り。①なぜこの研究に価値があるのか②開発のコンセプト③国際バカロレアを概観する④「日本語 A：文学」を概観する⑤「日本語 A：文学」のコースデザインを考える⑥「オリエンテーション」のパートの条件⑦ペーパー 1 のパートと Moodle 試作版の評価⑧ペーパー 2 のパートと Moodle で実装する条件⑨個人口述のパートと Moodle で実装する条件⑩結論と展望のための断章

①②⑩を読むことでこのニッチな研究がなぜ実践的価値を有し、将来性があるかが伝わるよう構成した。1 年以内に全パートを Moodle で実装することを目指し、変化しつづける IBDP の学びの一瞬を切り取った海外在住講師の研究報告としてお読みいただきたい。

特定課題研究要旨 (英語)

Title

Designing and Implementing an Attractive Online Version of the International Baccalaureate "Japanese A: Literature": Learning Anywhere and Even Alone in Moodle.

Abstract

In the International Baccalaureate Diploma Programme (IBDP), students are required to select two language subjects, including their mother tongue. However, current observations in Singapore reveal that many Japanese students forgo "Japanese" due to the limited number of schools offering the course and the perceived difficulty of accessing adequate learning support. This research investigates the potential of Moodle as an effective platform for Japanese language education. It posits that with a well-designed curriculum and instructional materials, students can pursue their mother tongue online, thereby securing a foundation for future higher education. By analyzing examination formats and curriculum requirements, this study explores the challenges and prospects of implementing the IBDP Japanese curriculum in Moodle.

This study focuses on "Japanese A: Literature," a specialized and niche field within the IBDP framework. Recognizing that readers may have varying levels of familiarity with the IBDP, Language A: Literature, or the distinctions from the Japanese national education system, each chapter includes an executive summary and annotations to function as a standalone resource.

The thesis is structured as follows: (1) Research significance; (2) Development concepts; (3) IBDP overview; (4) IB Japanese overview; (5) Course design for IB Japanese; (6) Requirements for Orientation Part; (7) Moodle prototype and evaluation for Paper 1; (8) Requirements for Paper 2; (9) Requirements for Individual Oral (IO); (10) Conclusion and perspectives.

Chapters (1), (2), and (10) are designed to collectively demonstrate the practical value and future potential of this niche research. This is a research report by a lecturer living overseas that captures a moment in the ever-changing learning of IBDP with the aim of implementing all parts in Moodle within one year.

第 1 章

なぜこの研究に価値があるのか

エグゼクティブサマリー

この研究の価値は①世界に住む日本人高校生が母国語を学び続け、小論文やプレゼンテーションの形で表現できる可能性が上がること②Moodle 上で時間と場所を越えて国際バカロレアのディプロマプログラム (以下 IBPD) である「日本語 A : 文学」が学べること③「IBPD+日本語+Moodle」を組み合わせた先行研究が少なく指導者に対しても実地の情報を提供できることの 3 点にある。そのため、2007 年よりシンガポールに居住し、在留邦人に対して長年国語、日本語を指導してきた私が、塾講師の立場から IBPD の「日本語 A : 文学」を「どこでも、一人でも、Moodle で学べるように」目指した試行錯誤と未来予想図を描いたのが本研究だ。

1.1 「私」は誰か、なぜ書くのか

私はシンガポールに居住する塾講師で、小学生から高校生までの在留邦人に対し国語、日本語を 2007 年から指導している。2017 年にはインターナショナルスクールと現地校生を対象を限定した校舎を設立し、同ブランドで初めて国際バカロレアのディプロマプログラム (以下 IBPD) に沿った講座を開講した。現在は生徒が海外大学や国内大学への進学ができるよう、塾講師の立場で「日本語 A : 文学」という科目を指導している。

私はこの研究を、IBPD の科目である「日本語 A : 文学」を学ぶ世界の高校生と、国際バカロレアというコミュニティに興味を持たれ、これから学校や私企業で「日本語 : A」を担当される方のために書く。また、将来一緒に開発、運営を進めるまだ見ぬ仲間のために書く。

何のために書くかといえば、「日本語 A : 文学」を「どこでも、一人でも、Moodle で学べるように」するために書く。私が IBPD について学び指導をしてきたことは、シンガポールという特定の場所だけで活かすべきではない。つまり、この特定課題研究は、国際バカロレア「日本語 A : 文学」の魅力あるオンライン化の設計と実装を目指し、私が教室や Zoom や Moodle というプラットフォーム上で試行錯誤をした結果をまとめ、未来の完成予想図として発表するものだ。

1.2 なぜこの研究に価値があるのか

第一に、この研究の価値は世界に住む日本人の高校生が母国語を学び続ける可能性が高まり、小論文やプレゼンテーションの形で表現できる機会が増えることだ。仮にその進学先が海外の大学だったとしても¹、母国語で自らの考えを他者に伝えるように適切な書き言葉と話し言葉を育てることは日本の将来に資するものだ。

第二に、Moodle というプラットフォーム上で「日本語 A : 文学」が学べることは、学校外での学びの場を世界に住む日本人の高校生に提供できることを意味する。これにより、時間や場所を越えた学びの機会が与えられ、一人で学んでいるかもしれない高校生たちが同じく学ぶ他国の高校生たちと一緒に学ぶ機会が得られる。

第三に、「IBPD+日本語+Moodle」を組み合わせた先行研究は少なく、かつ国際バカロレア協会も将来的な学びやテスト形式をオンラインに移行することを検討しているからだ。² ニッチな世界であることは認識していたが、2025 年 9 月 11 日の段階で ERIC で調べても「IB AND English AND Moodle」が 0 件であることには驚く。

ERIC での検索例 (2025-9-11)	ヒット数
Japanese	10527
Moodle	933
International Baccalaureate	911
IB	716
IB LanguageA Moodle	216
IB AND LanguageA	71
IB LanguageA	66

¹ 筆者の勤務する学習塾では 2020 年より IBDP 生の大学進学実績があるが、その多くが海外大学を志望しており国内大学への合格実績は少ない。2020 年から 2024 年度までの通算を見ても合格実績 77 件の内、国内大学合格は 10 件で 87.0% が海外大学の合格件数となっている。

² International Baccalaureate Organization: “Digital examinations for the DP and CP”
<https://ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/digital-examinations-for-the-dp-and-cp/>
(参照 2025. 12. 21)

IB AND LanguageA AND literature	12
International Bacculaureate Japanese Moodle	11
IB Japanese	3
IB JapaneseA	3
International Bacculaureate AND Moodle	1
IB AND English AND Moodle	0
IB AND LanguageA AND Moodle	0
IB Moodle	0
IB AND Moodle	0
IB AND literature AND Moodle	0
IB Japanese Moodle	0
International Bacculaureate AND Japanese AND Moodle	0
IB AND LanguageA AND literature AND Moodle	0

CiNii Research での検索例 (2025-9-11)	ヒット数
日本語	234574
Moodle	2112
国際バカロレア	1058
日本語 Moodle	99
国際バカロレア 日本語	55
国際バカロレア 日本語 言語 A	2
国際バカロレア 日本語 Moodle	0
国際バカロレア Moodle	0
IB Moodle	0

表 1-1：ERIC と CiNii Research での検索例

よって、「IB+日本語+Moodle」について CiNii Research での結果をベン図にすると以下
 のようになる。日本語と Moodle の重なりは 99 件、日本語と国際バカロレアの重なりは 55
 件で、「IB+日本語+Moodle」の 3 者の重なりはなかった。

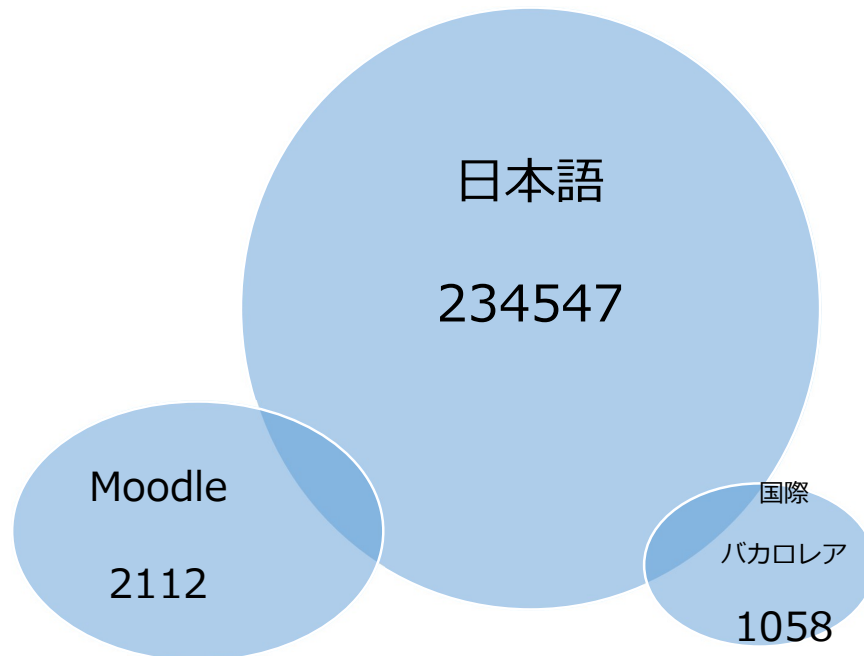


図 1-2： CiNii Research での「IB+日本語+Moodle」の検索結果をベン図にしたもの
この「Moodle」と「国際バカロレア」の間をつなぐことを目指している。

1.3 新規性+有用性+信頼性

これらをまとめると、新規性は「IB+日本語+Moodle」という仕組みで担保される。また、有用性は、「IB 日本語を時間と場所の制限なしに学べる」という新しい価値の提供にある。そして、信頼性は、「講師としての豊富な経験と実績があり、かつ Gsis での履修者が作成すること」によって担保され则认为。

要点としては、変化していく IBDP の日本語というニッチな領域で、どうにかして日本人として日本語を学ぶ海外の高校生を助けたく、そのためにはオンラインという解があるのではないかということだ。

第2章 開発のコンセプト

エグゼクティブサマリー

実際に開発する際のコンセプトは①「学べる、出会える、形にできる」②「考える機会が充分なら、面白くてもよい」③「文学の魅力は枠の外にある意識を持つ」④「著作権を無視した過去問使用や点取り主義に堕さない」とする。これらは、実際に設計を考え Moodle 上で実装していく際に、迷ったらどこに戻るかという上位のデザインとして記載している。

実際にデザインを考えていく上で、どのような背景があるか、どこを目指すかは現実的な状況によって右往左往する時がある。しかし、そのような時に元々何を目指して作ろうとしていたのかを思い出すためにこの章がある。

2.1 「学べる、出会える、形にできる」

「学べる」は、これまでに国際バカロレアのディプロマプログラム（以下 IBDP）で「日本語 A：文学」を学べなかった高校生への学習機会の提供、「出会える」は、オンラインであっても孤独ではない気づきのある環境の提供、「形にできる」は学習者がテキストを読み小論文やプレゼンテーションとして発表できる技術を表している。

ここは誰のために作るかという根本の設定だ。学習塾の講師という立場を考えると、学習者本人である高校生と保護者を視野にいれたいが、教材のデザインと実装を考えるとあくまで高校生本人のみを想定する。ただし、文学作品として選ばれるものは少なからずモチーフとしては刺激的な内容が含まれるため、この部分は保護者に納得してもらう必要があるだろう。³

³ 例えば、これまでに私が授業で扱った文学作品には『われらの時代』（大江健三郎）、『わたしを離さないで』（カズオ・イシグロ著・土屋政雄訳）、『人間失格』（太宰治）『野火』（大岡昇平）などがある。暴力、性、倫理、ドラッグ、カニバリズムなどのモチーフを直接論点にするというよりも、その奥に流れる人間性というものに触れさせたいという教師の考えがあるように思われる。

2.2 「考える機会が充分なら、面白くてもよい」

「考える機会が充分」というのは、知識習得の段階から、問をかみ砕き、必要な要素を探しながら、答えを探していくという学習者の姿勢を表している。これらの力を育てながら、学習の意欲を維持するために、面白さの提供はあってもよいと考える。これは広義のゲーミフィケーションの導入を考えているが、この講座のデザインでは全体をゲームのようなグラフィック、サウンド面の演出を考えているわけではない。また、考えることや面白さが製作者の押し付けとこだわりになってしまうものもいただけない。

だから、ここでは教材デザインとしての触りやすさ、途中でもたらされる意外性、もう少し進めたくなるというコレクション性といった、この先を知りたいと思わせる好奇心を育てることを排除しないという意味で書いている。そのため、厳密に言うのであれば「ゲームニクス」⁴を意識したデザインを考えたい。

2.3 「文学の魅力は枠の外にある意識を持つ」

教育サービスの提供としてはもちろん科目のスコアを向上させる必要があるが、その一方で、文学の面白さはスコアの外にあることを忘れないようにする。もちろん小論文やプレゼンテーションは具体例や根拠に基づいた妥当性が求められるが、文学の面白さは行間や言葉の外にあり、乱暴に言えば誤読を許す解釈の豊かさにある。だから、参考書や教科書ガイドのような「正解」は載せない。

教室で見ている限り、高校生たちが学習に充てられる時間は、保護者が思うよりも限られている。最終的な到達地点が小論文やプレゼンテーションだとして、私たち大人は漢字・語句・論理・読解・表現・推敲・完成…のような段階的なステップを考える。しかし、高校生たちの考えにあるのは、「限られた時間の中で、どうやって満点を取るサンプルに近づけるか、そのための方法は何か」ということだ。言い換えれば、大人が過去の経験から文学という科目を分析し、ボトムアップで考えるのに対し、高校生たちはテストの満点を頂点としたトップダウンから自分の位置を考えるということだ。そこで現実と理想をつなぐ橋の役割

⁴ 著者は、本文 16P の『『そそぐ愛』ではなく『ささげる愛』』という項目で、製作者のエゴについて戒めている。

サイトウ・アキヒロ：“ビジネスを変える「ゲームニクス」”，日経 BP, 東京(2013)

を人間ではなく、ChatGPT や Gemini が担っている⁵というのが現実だ。

その一方で、若い魂を持つ高校生たちは、面白いものや自分を成長させてくれるものに飢えている。そこは自明で、もし根拠が必要なのであれば、本研究を読んでいる皆さんがご自身が十代だったころを想起されたい。好きと嫌い、自分を受け入れてくれるものに対していかに敏感な年代かということと、進学のためにスコアが必要だという現実と両天秤に置いた時に、彼ら彼女らがそこを打ち破るのは「私はこっちに興味がある」という面白さだ。

だから、講師ができることは、妥当な論評をするという現実的な技術（＝生きていくためのハサミ）の使い方を身に着けさせることと同時に、人間の世界は面白いと伝えることだ。そのため、講師は勇気をもって自ら枠の外に出る必要がある。

2.4 「著作権を無視した過去問使用や点取り主義に堕さない」

忌憚なく言えば、IBDP「日本語 A：文学」が教育サービス業として発展を見ないのは、現在はニッチな世界であるということと、著作権に配慮しながら展開することができていないからだ。例えば、正規に購入した過去問を使用した授業展開ができるのは学校だけであり、それ以外の組織で同等の権利は与えられるはずもないから、IBDP に関連する教育サービス業はどうしてもアンダーグラウンド化し、個別化してしまう。

しかし、本来的には学ぶことは良いことのはずであり、効率的に学ぶことは学習者の利益になるはずだ。ここに、「教育のサステイナブル化」という視点が欠かせないのではないかと考える。国際バカロレア機構も学校もそして教育サービス業もそれぞれが良い関係を保ちながらお互いが発展しあうような循環ができれば望ましいが、日本語という環境ではそれはまだ作られていない。だから、それを目指したものを作ろうということだ。

⁵ 高校生の小論文ではAI利用の特徴的な例としては、本文にない表現の引用が散見され、その都度そつと指摘している。

国際バカロレア機構も AI の利用を禁止しておらず、むしろ先の世界を想定しているように読める。

International Baccalaureate organization:“ Artificial intelligence (AI) tools – common questions and concerns”,<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/shared-resources/pdfs/artificial-intelligence-questions-and-concerns-en.pdf> (参照 2025.12.31)

例えば、日本だと一般的に入試過去問を購入し解くことで、その学校の考え方を間接的に知ることがある。いわゆる傾向と対策を知るという考え方だ。IBDP「日本語 A：文学」でも、過去問は”follett” という組織が販売を行っており私でも購入が可能だ。⁶しかし、国際バカロレア機構は非常に著作権使用に対し非常に公正かつ厳密な立場を取っており、学習塾などのサードパーティが問題を授業で利用することは難しい。⁷

結論としては、オンライン上の教材は、そのメディア特性から複製と拡散について恣意的な行動を制御することが難しいため、教材制作は認められた引用以外は著作権に配慮しつつ、高校生たちが効果的に学べる仕組みづくりが必要になるだろう。あるいは、日本語の教材として初めて国際バカロレア機構に認可を得ることだ。他の科目では過去問だけではなく教材が販売されているのだから、近い将来には実現できる可能性がないとは言えない。

⁶ Follett Content Solutions:<https://www.follettibstore.com/> (参照 2025. 12. 30)

⁷ International Baccalaureate organization:“Rules for use of IB Intellectual Property”,
<https://www.ibo.org/terms-and-conditions/intellectual-property/> (参照 2025. 12. 30)

第3章

国際バカロレアを概観する

エグゼクティブサマリー

私が本研究で扱っている領域は、国際バカロレアのディプロマプログラム (IBDP) の「日本語 A: 文学」という科目についてだが、この章ではもう少し広い範囲までカメラを引いて、国際バカロレアがどのような教育を標榜しているのかを概観する。

国際バカロレアは、学校、教育者、児童生徒を含んだ世界的なコミュニティであり、運営する国際バカロレア機構が非営利団体であるところに特徴がある。前提として「国際的な視野」と「IB の学習者像」という考え方を設定している。プログラムは、ディプロマプログラム、中等教育プログラム、初等教育プログラム、キャリア関連プログラムという4つに分かれ3歳から19歳までをカバーする。

IBDP は高校2年生から2年間で修了する大学入学資格が取得可能なプログラムだ。計9科目45ポイントで成績がつき、24点以上で合格となる。教科は6科目で42点、コア科目として「課題論文」、「知の理論」、「創造性・活動・奉仕」に計3ポイントが与えられる。

全世界でIBの4つのプログラムを学んでいる生徒を合計した人数は「195万人以上」、IB認定校 (IB World School) の合計は164か国で5900校にわたる。日本では、2025年9月30日現在で271校の認定校があり、ディプロマカリキュラムよりも初等教育プログラムの方が認定校の数が多いという特徴がある。

子供の教育の一貫性と保護者の勤務先のグローバル化という悩ましい点の両立を考えると国際バカロレアのデザインは理解しやすくなる。保護者が海外に長期で在住し、他国の転勤があってもこれまでの学びを引き継げるプログラムだからだ。

3.1 非営利団体が運営する世界的なコミュニティ

私が本研究で扱っている領域は、国際バカロレアのディプロマプログラム (IBDP) の「日本語 A: 文学」という科目についてだが、この章ではもう少し広い範囲までカメラを引いて、国際バカロレアがどのような教育を標榜しているのかを概観する。

国際バカロレア機構が直接『国際バカロレア (IB) の教育とは』という資料を発表しているので、まずはその冒頭より引用する。

より良い、より平和な世界を創造するための価値観、知識、スキルを若者に与えるという、ひとつの使命を共有した学校、教育者、児童生徒の世界的なコミュニティを想像してみてください。それが国際バカロレア (IB: International Baccalaureate) です。

IB のプログラムのねらいは、児童生徒が自身のまわりの世界のもつ複雑性を理解し、未来のために責任のある行動をとるために必要なスキルと性質を身につけられるような教育を提供することにあります。学問領域、文化、国家、地理的な境界を越え、また批判的な取り組みを重視することで、新しい発想や有意義な関係の構築を刺激するような教育を提供しています。⁸

学校や教育者側だけでなく、児童生徒も含んだコミュニティであるという考え方や、プログラムの狙いとして最初から科目が設定されているわけではないことに驚く方もいるかもしれない。私の理解では、IB は抽象的な概念を階層状に分け、それぞれの役割を言語で定義していくという特徴がある。例えば、ここで設定されているのは、IB というコミュニティが目指す理想であり、そのためにどのようなプログラムを作るかという指針だ。理想の部分が抽象で、それを具体化するためにプログラムが設定されている。言葉で定義することは、構成員全体が同じ理解を得られるとは限らないから、その都度の協議と改善が必要になるだろうことは想定できる。

次に、国際バカロレア機構は「非営利団体」だ。学校の運営母体を、例えば日本のように国公立か私立かという基準で考えると、この点が理解しにくいかもしれない。

IB とそのプログラムは、さまざまな点において独創的です。IB は非営利団体であるため、株主がおらず、収入の余剰がすべて事業に投資されることを意味します。また、政治的・商業的な利権に依存せず独立の立場を保っていて、IB プログラムは世界各地の非常に多様な学校で提供されています。これには、大小さまざまな規模の公立校、私立校、国立校、そしてインターナショナルスクールが含まれます。⁹

⁸ 国際バカロレア機構:” 国際バカロレア (IB) の教育とは” , PP.1 (2019)

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/what-is-an-ib-education-ja.pdf>

(参照 2025. 12. 30)

⁹ 同上, PP. 8 (2019)

ここでは、IB というコミュニティーとプログラムを「誰が管理し、運用するのか」と考えるとその意図が理解しやすい。個人や国などに代表される、特定の利益共同体が発信する教育内容と敢えて差別化をしているということだ。日本の教育と比較すると、私学には建学の理念や校風があり、公教育は国民や国に資するものであるべきだろう。それらは多義的な価値を含みながら、多様な教育環境がある中で学習者に選択されていくものだ。一方で、前に引用した「より良い、より平和な世界を創造するための価値観、知識、スキルを若者に与える」という、ひとつの使命を決めるための主語は、独立していなければその意義を失ってしまう。組織として独立性があり、プログラムとしては国や文化などの特定の価値観に依存しないことは、前掲の理想と指針を普及させるために必要な条件だったのではないか。

3.2 プログラムの前提となる「国際的な視野」と「IB の学習者像」

「国際的な視野」と「IB の学習者像」はプログラムを設計する前提となる考え方だ。例えば、「国際的視野」とは「世界に対して心を開き、また人間というのは互いに深くつながった存在なのだ」と認識するような考え方、あり方、行動を指し、「すべての IB プログラムのねらいは、人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識した国際的な視野をもった人間を育てること」とされている。そして、「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニケーションができる人」「信念をもつ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」という 10 の「IB の学習者像」が設定されている。¹⁰

ここまで見てくると気づくことがないだろうか。これだけ素晴らしい人物を育てるといふ目標がありながら、使われていない言葉がある。それは、「リーダー」と「正義」という言葉だ。「こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティーの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています」¹¹という表現はあるが、

¹⁰ 同前, PP. 2-3 (2019)

¹¹ 国際バカロレア機構:” IB の学習者像” (2022), (参照 2025. 12. 30)

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/ib-learner-profile-brochure-j.pdf>

むしろ注意深く言葉を選びながら、人間関係での上下や優劣を表す言葉を避けたように見える。おそらく、様々な国籍、民族、考え方を持つ集団の中で、他者を尊重しつつ自分が活かされるような仕組みを考えた際に、これらの前提となる考え方が生まれてきたのではないか。

3.3 3歳から19歳までをカバーする4つのプログラム

国際バカロレアは高校課程であるディプロマプログラム (DP) が 1968 年に創設され、その後 1994 年に中等教育プログラム (MYP : Middle Years Programme)、1997 年に初等教育プログラム (PYP : Primary Years Programme) が作られて 3 歳から 19 歳までの一貫教育が完成した。¹²現在は 2012 年に作られたキャリア関連プログラム (CP : Career-related Programme) とディプロマプログラム (DP) を合わせて 16 歳以上の教育プログラムの見直しが進み 2030 年から新しくなることが示唆されている。¹³

ここで注意が必要なのは、PYP/MYP/DP/CP の 4 つのプログラムは、一校の中で全てを導入する必要はないということだ。だから、例えばシンガポールのインターナショナルスクールを見ても、中等教育プログラム (MYP : Middle Years Programme) の代わりに国際的な中学卒業資格である「Cambridge IGCSE」¹⁴を組み合わせ構成している学校もあり、学び方は一様にデザインされているわけではない。¹⁵

¹² 国際バカロレア機構:” 国際バカロレア (IB) の教育とは”, PP. 1 (2019)

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/what-is-an-ib-education-ja.pdf>

(参照 2025. 12. 30)

¹³ International Baccalaureate Organization:“ Collaborative review of the DP and CP”,

<https://www.ibo.org/programmes/collaborative-review-of-the-dp-and-cp/> (参照 2025.12.31)

¹⁴ Cambridge University Press & Assessment:”Cambridge IGCSE”,

<https://www.cambridgeinternational.org/jp/programmes-qualifications/cambridge-igcse/> (参照 2025. 12. 30)

¹⁵ 海外教育マガジン Spring:” 特別企画 国際 AS&A Level、IGCSE とはなにか”,

<https://www.spring-js.com/global/6350/> (参照 2025. 12. 30)

3.4 国際バカロレアディプロマプログラム (IBDP) の構成について

さて、本研究の中心となる国際バカロレアのディプロマプログラム (IBDP) について概観する。IBDP は高校 2 年生から 2 年間で修了する大学入学資格が取得可能なプログラムで、9 科目合計 45 点満点で成績がつき、24 点以上で合格となる。教科 6 科目は 7 段階評価で計 42 点、コア科目として「課題論文 (EE: Extended Essay)」、「知の理論 (TOK: Theory of Knowledge)」、「創造性・活動・奉仕 (CAS: Creativity/Activity/Service)」に計 3 点が与えられる。

グループ 1：言語と文学 (母国語)
言語 A：文学
言語 A：言語と文学
言語 A：文学と演劇 (SLのみ) (※)

グループ 2：言語習得 (外国語)
言語 B
古典言語
初級言語 (SLのみ)

グループ 3：個人と社会
地理、歴史、経済、ビジネスと経営、
情報テクノロジーとグローバル社会、
哲学、デジタル社会、心理学、
社会・文化人類学、グローバル政治、
世界の宗教 (SLのみ)、環境システムと社会 (※)

グループ 4：理科
生物、化学、物理、コンピュータ科学、
デザインテクノロジー、
スポーツ・エクササイズ・健康科学、
環境システムと社会 (※)

グループ 5：数学
数学：解析とアプローチ
数学：応用と解釈

グループ 6：芸術
音楽、美術、ダンス、
フィルム、演劇、文学と演劇 (SLのみ)
(※)

(※) なお、「文学と演劇」はグループ 1 と 6 の横断科目。「環境システムと社会」はグループ 3 と 4 の横断科目で、どちらかのグループとしての登録ができます。

(表 3-1) 文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム「DP (ディプロマ・プログラム) とは」¹⁶より引用

¹⁶ 文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム:” DP (ディプロマ・プログラム) とは” ,

<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/dp/> (参照 2025. 12. 30)

教科 6 科目については、前ページのような選択肢があり基本的には 1 つのグループから 1 科目を選択する。IBDP では母国語を含む二か国語の言語科目が必修で、一般的には母国語であるグループ 1 から 1 科目と外国語であるグループ 2 から 1 科目を選択する。ただし、グループ 1 で異なる言語を 2 科目受講する場合はグループ 2 の科目選択は不要である。同様に、グループ 6 の芸術系科目は他のグループへの置き換えが可能だ。これら 6 科目はハイヤーレベルとスタンダードレベルに分かれ、ハイヤーレベルで最低 3 科目を履修する必要がある。ハイヤーレベルは 240 時間、スタンダードレベルは 150 時間と、必要な授業時間が異なり課題も増える。そして、学校によって開講科目は異なり、全ての科目が開講されているわけではないので注意が必要だ。例えば、言語 A で日本語が開講されていない学校もあり、仮に開講されていても、「文学」と「言語と文学」の両方が選択できることは稀で、学校が開講している科目を選択する必要がある。

言語科目以外は英語、フランス語、スペイン語で授業を行う必要があるが、日本では「日本語 DP (Dual Language Diploma Program: DLDP)」と言って、文部科学省と国際バカロレア機構が協力することで、一部の科目を日本語で実施可能になっている。¹⁷

最終試験は卒業時の 1 回で、南半球と北半球の学校年度に対応できるよう、5 月、11 月に設定されている。シンガポールの場合、いわゆるインターナショナルスクールは 5 月実施で、現地校スケジュールで進行する学校は 11 月に試験を行うという両方のケースがある。

3.5 国際バカロレアはどのくらいの規模で学ばれているのか

3 歳から 19 歳までの全学年について、IB の 4 つのプログラムを学んでいる生徒を世界で合計した人数は「195 万人以上」¹⁸とされている。また、2024 年 10 月のデータをもとに国際バカロレア機構と Hachette Learning (元 Hodder Education) が協力して公式資料として“IB WORLD SCHOOLS YEARBOOK 2025”が出版されているので、世界のデータを参照する。1980 年代からの IB 認定校数と採用プログラム数の劇的な伸びは各自ご覧いただきたい。

¹⁷ 文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム:” DP (ディプロマ・プログラム) とは” ,

<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/dp/> (参照 2025. 12. 30)

¹⁸ International Baccalaureate Organization:“ Facts and figures”,

<https://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/> (参照 2025. 12. 30)

IB 認定校 (IB World School) の数

IB 認定校 (IB World School) の合計は 164 개국で 5900 校 (2024 年 10 月時点のデータ)

地域別内訳

アフリカ、欧州、中東	103 개국	認定校数 1671
アジア太平洋	28 개국	認定校数 1290
南北アメリカ	33 개국	認定校数 2939
合計	164 개국	認定校数 5900

欧州プラットフォーム校は含まず、MYP パートナー校は含んでいる。

(表 3-2) IB 認定校の地域別内訳¹⁹

プログラム別内訳

	PYP 初等教育プログラム	MYP 中等教育プログラム	DP ディプロマプログラム	CP キャリア関連プログラム	合計
アフリカ、欧州、中東	675	547	1321	108	2651
アジア太平洋	770	359	765	77	1971
南北アメリカ	943	925	1682	221	3771
合計	2388	1831	3768	406	8393

欧州プラットフォーム校は含まず、MYP パートナー校は含んでいる。

(表 3-3) IB 認定校のプログラム別内訳²⁰

¹⁹ Hachette Learning“IB WORLD SCHOOLS YEARBOOK 2025” P12 のデータに基づき筆者作成・翻訳

<https://www.ibyb.org/ib-world-schools-yearbook-2025-digital-edition> (参照 2025. 12. 30)

²⁰ Hachette Learning“IB WORLD SCHOOLS YEARBOOK 2025” P12 のデータに基づき筆者作成・翻訳

<https://www.ibyb.org/ib-world-schools-yearbook-2025-digital-edition> (参照 2025. 12. 30)

翻って日本の現況は、文部科学省 IB 教育推進コンソーシアムが令和 7 年（2025 年）9 月 30 日段階のデータをまとめているので引用する。

国内の国際バカロレア認定校等数:271 校(令和 7 年 9 月 30 日時点)

PYP	認定校	82 校	候補校	46 校
MYP	認定校	44 校	候補校	16 校
DP	認定校	77 校	候補校	5 校
CP	認定校	1 校	候補校	0 校

注 1) 上記は IB 認定校等をプログラム単位で数えた校数であり、IB 機構が公表している校数とは異なります。

注 2) 認定校により、キャンパスが複数ある場合や、PYP では 3~5 歳対象の Early Years 又は 6~12 歳対象の Primary のどちらか一方を対象にする場合もあります。詳細は各認定校にお問い合わせください。

(表 3-4) 日本国内の IB 認定校等数とそのプログラムごとの内訳²¹

世界的に見れば他のプログラムより DP を導入している学校が多いことが読み取れるが、日本の場合は PYP の方が多く、候補校も他のプログラムより突出しているのがわかるだろう。この要因は様々考えられるだろうが、「誰が通っているのか」を考えると答えはシンプルになる。前述の「日本語 DP (Dual Language Diploma Program: DLDP)」の恩恵を受けられるのは主に日本人であり、これは中学受験や高校受験から日本語 DP を採用している学校を受験する形で入学する。国内外の大学に IBDP で進学するために選択するのだ。一方で、PYP や MYP 段階では他国から日本へ駐在員として勤務する家庭が中心となる。インターナショナルスクールは、海外から日本で働く家庭が元の国に戻る際に教育の一貫性を求めて選べる現実的な選択肢だからだ。日本人の家庭の場合は、義務教育段階の子供を学校教育法第 1 条に規定される「一条校」に就学させる義務を負っている。²²

²¹ 文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム:” IB 認定校・候補校” ,

<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/school/> (参照 2025. 12. 30)

²² 文部科学省:” 11. 学齢児童生徒をいわゆるインターナショナルスクールに通わせた場合の就学義務について” ,

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shugaku/detail/1422252.htm (参照 2025. 12. 30)

なお、2025 年 9 月 30 日時点で日本国内の IB 認定校 271 校の中、一条校は 87 校ある。²³ 其中で、IB 認定校のインターナショナルスクールでかつ一条校という条件を満たすのは、「ビオンディア・インターナショナルスクールやまた幼稚園」（神奈川県、PYP）、「ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン」（長野県、DP）、「サニーサイドインターナショナルスクール」（岐阜県、PYP）、「国際高等学校」（愛知県、DP）「AIE 国際高等学校」（兵庫県、日本語 DP）、「AICJ 高等学校」（広島県、DP）の 6 校しか調べられなかった。これらの学校は、それぞれ採択しているプログラムが異なり、一条校として小学校から高校生までずっと通えるという形にはなっていない。頓智を使わない限り半袖でかつ長袖の洋服が作れないように、多国籍の生徒がいて初めて成立するはずのインターナショナルスクールでありながら、そこで学ぶことで日本の小学校、中学校、高等学校まで一貫して卒業できるような魔法の処方箋はあり得ないだろう。

3.6 海外在留邦人の子女に対する教育として

子供の教育の一貫性と保護者の勤務先のグローバル化という悩ましい点の両立を考えると国際バカロレアのデザインは理解しやすくなる。

例えば、シンガポールで生活する日本人の家族を想定してみよう。かつてアジアは「日本人学校」²⁴が非常に強かった。それは、日系企業から海外に駐在員として海外に出て、いずれは日本に帰るという想定に基づくものだった。だから、保護者の関心はいかに学力を落とさずに子供を日本に戻すかということだった。ここでの学力とは、日本の学校の勉強についていける力と置き換えてもよい。そのため、シンガポールでは日本人小学校は 2 校あり、日本人中学校は 1 校あり、高等部としては早稲田渋谷シンガポール校²⁵という早稲田大学の系

²³ 文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム:” IB 認定校・候補校” ,

<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/school/> (参照 2025. 12. 30)

²⁴ 欧米は現地校が優勢で、赤丸で示される日本人学校は世界地図の中でアジア地区に集中していることがわかる。

文部科学省:” 海外で学ぶ日本の子供たち” ,

https://www.mext.go.jp/content/20250408-mext_kyokoku-100002004_02.pdf (参照 2025. 12. 30)

²⁵ 早稲田渋谷シンガポール校は文科省認定の私立在外教育施設。高等部のみで 1991 年設立、寮生が 40%を超える。

<https://www.waseda-shibuya.edu.sg/> (参照 2025. 12. 30)

属校が設置されている。

一方で、外務省が発行する「海外在留邦人数調査統計」を見ると、海外在留邦人数推計は2019年の1,410,356人を最高値として、2025年10月現在は1,298,170人と6年連続で減少している。²⁶また、日本の高校卒業資格が得られる日本人学校や私立在外教育施設は、現在は世界5か国で6校にとどまる。²⁷つまり、海外で働く日本人が減れば日本人学校が減少するのはやむを得ず、長く駐在した場合も高校生になる子女は日本に戻すか、多くの場合は現地校やインターナショナルスクールを選ばざるを得ない。

保護者の側も必ずしも任期後に国内勤務が確定しているわけではない。帰国せず他国へのスライド転勤の可能性もある。だから、保護者が海外に長期で在住してもこれまでの学びを引き継げるプログラムは何か、同様に将来外国で子供が働くにはどのような経験をさせればよいかという思考が働くことは想像に難くない。これらを踏まえると、プログラムの自由度とある程度の連続性を持っている国際バカロレアというコンセプトが理解されやすいのではないか。

²⁶ 外務省：“海外在留邦人数調査統計 令和7年（2025年）10月1日現在”，PP.5（2025）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100957047.pdf>（参照 2025. 12. 30）

²⁷ 日本人学校の高等部は2011年に設立の上海日本人学校のみに限られる。私立在外教育施設は、立教英国学院、帝京ロンドン学園、早稲田渋谷シンガポール校、西大和学園カリフォルニア校（ただし小学部・中学部のみ）、慶應義塾ニューヨーク学院がある。日本人の高校生の学びは地域に左右されるため、帰国し国内で高校受験を目指すのが一般的だった。文部科学省：“認定した在外教育施設一覧”，

<https://www.mext.go.jp/content/000352298.pdf>（参照 2025. 12. 30）

第 4 章

「日本語 A：文学」を概観する

エグゼクティブサマリー

国際バカロレアのディプロマプログラム（以下 IBDP）の「日本語 A：文学」とは、一言で言えば「分析・論述・プレゼン」だ。この科目に教科書と正解はなく、採択される文学テキストは学校、年度、指導者によって異なる。そして、授業時間内での割り当ても自由度が高いため、授業が指導者の裁量と力量に委ねられる点が日本の「国語」と大きく異なる。

学校での授業形式は文学テキストごとに先生がワークシートを作成し、生徒間でディスカッションをさせ、答えを出しながら主題・結論に向かって内容理解を深めていくが、生徒側は、自分で作品を下読みし、授業中は問に対して相互に発言しながら、最後に課題を提出するという流れが求められる。そのため、この科目を魅力ある時間にするには、その“ねらい”と“評価目標”の理解、そして試験形式を含めた科目の要件把握が欠かせない。

一方で、生徒側から見ると、大学進学に必要な評価を得るのは学校への努力か、IBDP の本試験かその両方か、さらに他の試験が必要なのかなど一様ではない。自由度が高く、多様な中での授業デザインをどこに設定するかは、指導者側の勇気も求められるのではない。

「日本語 A：文学」の最終試験の受験者数は、2024 年度に全世界で 458 人、「日本語 A：言語と文学」との合計数でも 1019 人という少なさだ。しかし、2015 年度は受験者の合計は 506 人であり 9 年で受験者は倍増しているため、将来の受講者のために本研究を進める。

4.1 「日本語 A：文学」とは何か

一言で言えば、IBDP の「日本語 A：文学」とは「分析・論述・プレゼン」だ。

IBDP で提供される「言語と文学」というグループは、「言語 A：文学」「言語 A：言語と文学」「言語とパフォーマンス」という 3 科目に分けられる。その中で、日本語で学ぶ「言語 A：文学」という科目をここでは「日本語 A：文学」と呼称している。

具体的には、学校の先生が選択した文学テキストを読み、内容の妥当な理解、作者の意図と技法・効果のつながり、当時の時代的背景などを分析し、その成果を論述するかプレゼンテーションする必要がある。学校の提出課題については、ワードやパワーポイントなどのソフトウェアを使えるが、試験は 2026 年現在では原稿用紙にペンで手書きか、音声によるブ

レゼンテーションとなる。そのため、以下 3 点の能力があることが前提になるだろうと私は考える。

- ・自力で小説や評論を 1 冊読む力
- ・自分の意見をまとめ、プレゼンテーションができる力
- ・日本語で論理を組み立て、漢検 3 級程度の漢字を使い文章を書ける力

4.2 学校の授業はどう進行するのか

まず、誤解を解いておかなければいけない。この科目に教科書と正解はない。本研究の読者は日本で教育を受けた方が多いだろうと思う。だから、高校生のカリキュラムは「検定教科書」のようなものを元に授業をして、その内容を元にテストを行うと考えるのではないだろうか。しかし、「日本語 A：文学」に決まった教科書はなく、正解もない。だから、授業は指導者の裁量に委ねられ、その力量に左右される。ここがスタート地点だ。

次に、採択される文学テキストは学校、年度、学校の先生によって異なる。スタンダードレベルで最低 7 冊、ハイヤーレベルで最低 10 冊の文学作品を読むが、同じ学校内の他言語で同じ文学テキストが選ばれることはない。例えば、村上春樹の『ノルウェイの森』が校内の日本語と英語の「言語 A：文学」で同時に選ばれることはない。有名な作家の作品は年によって英語、日本語のどちらかで使うか調整が入ることを塾の立場からは経験しているし、生徒からのアウトプットを鑑みずに毎年同じ本を選び続ける学校の先生もいないだろう。

そして、規定の授業時間内での割り当ても自由度が高い。シラバスでは、「時間、作者、テキスト」、「時間と空間」、「テキスト間相互関連性」という三つの探究領域にそれぞれ 1/3 ずつの時間を充てることが想定されているが、これは時間の指定や制限でないことが明記されている。²⁸この自由度の高さは、IBDP の 2 年間全てをそっくりそのまま文学テキストを読む時間に充てるか、最低冊数よりも多く読むかどうか、採択テキストをどのような順番でよむかが学校の先生に委ねられていることを意味する。例えば、過去問演習のような点数志向のアウトプットを嫌い、授業だけで IBDP の試験形式が克服できるような授業を構築する先生もいるだろう。指定された冊数以上の文学テキストを読むことで、幅広い理解や表現方

²⁸ 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，

Geneva, pp. 21 (2019)

法を知ることが有効だと考える先生もいるだろう。一方で、1年半で読了し残り半年は進学のため模擬試験に挑戦するカリキュラムを組む考え方もあるだろう。

これらの前提を踏まえ、学校での授業形式は文学テキストごとに先生がワークシートを作成し、具体的な問題について生徒間でディスカッションをさせ、それぞれに答えを出しながら主題・結論に向かって内容理解を深めていくのが一般的ではないかと考えられる。そして、生徒の側は、自分で作品を下読みし、授業中は問に対して相互に発言しながら、最後に課題を提出するという流れが求められるだろう。²⁹提出課題は学校の成績という形で学習者にフィードバックされるが、アウトプットを自ら省察としてまとめ、最終的にペーパー1、ペーパー2、HL 小論文という形式に昇華させていくことが生徒側の二年間の学びとなる。

4.3 「日本語 A：文学」の科目要件はどのようなものか

『「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験』³⁰と、2026 年度試験より改変予定のカリキュラム³¹から筆者がまとめた要件は図 4-1 の通り。

²⁹ 著者は IBDP の講師用ワークショップに計 5 回参加しているが、ファシリテーターの指導は実に様々だった。ただし、共通しているのは「実際にやらせてみて、その実践を通じて理解を深める」という方法論だった。オンライン、対面型ともに基本的な資料は事前に全て読んでいることが推奨され、グループで時間内に見解をまとめるスタイルが多かった。

³⁰ 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp. 9-10, pp19-20, pp40-42 (2019)

³¹ 筆者は 2025 年 4 月のワークショップに参加し、今回の変更内容について理解する機会を得た。

Diploma Programme language A curriculum team: “Diploma Programme language A: literature and language and literature Summary of changes for teachers” International Baccalaureate Organization, pp.2-3(2024)

学習する文学テキスト	SL	HL
翻訳作品（指定作品リスト内）	最低 2 作品	最低 3 作品
日本語原作の作品（指定作品リスト内）	最低 3 作品	最低 4 作品
自由選択（指定作家リスト外でも可）	2 作品 *セルフポートは自由選択なし	3 作品
作品合計数	7 作品以上	10 作品以上
文学形式（ノンフィクション、小説、詩、戯曲など）	3 ジャンル	4 ジャンル
時代（世紀が変われば、違う時代とする）	3 つの時代	3 つの時代
場所（舞台となる国や大陸の選択）	3 カ国で	3 カ国で
	2 大陸以上	2 大陸以上
総授業時間	150	240
テスト（IB の本試験）	SL	HL
試験問題 1：設問つき文学分析 初見の文学作品の抜粋について、設問に応じて分析し小論文を書く形式	2 つの設問の中から 1 つ分析を行う 1 時間 15 分	2 つの設問に対して 両方分析を行う 2 時間 15 分
	35%分の評価、 20 点満点	35%分の評価、 40 点満点
試験問題 2：比較小論文 4 つの一般的な質問で構成され、学習した 2 作品について比較小論文を書く形式	1 時間 45 分 全体の 35%の評価、 25 点満点	1 時間 45 分 全体の 25%の評価、 25 点満点
	なし	全体の 20%、20 点満点
HL 小論文（HL のみ） 学習した文学作品について、自ら問を立てて探究し学術的な小論文の枠組みにしたがって 2400 字から 3000 字で書く。	なし	全体の 20%、20 点満点
内部評価について	SL	HL
個人口述（15 分） 翻訳作品一つを含む 2 作品からの抜粋を元に、生徒が 10 分間で発表する。その後 5 分間グローバルイシューとの関連について教師から質問を受ける。セルフポートは 15 分で発表し、先生からの質問はない。	全体の 30%、 40 点満点	全体の 20%、 40 点満点

（図 4-1）「日本語 A : 文学」の科目要件について（脚注 30.31 の資料をもとに筆者作成）

通常は IBDP のカリキュラムや科目の要件は 10 年に満たない頻度で更新されるが、2024 年 9 月には『指導の手引き』が更新されない中で、2 年間で読むべき文学テキスト数の削減と「試験問題 2」について採点規準の改定が発表された。特に「試験問題 2」の規準改定は、コロナ禍で「試験問題 2」が 2023 年 5 月まで行われなかったため、全世界的に試験が再開された現在のタイミングで採点の規準を見直したことが FAQ に挙げられていた。³²

4.4 「日本語 A : 文学」の“ねらい”

IBDP では全員が同じ到達地点を目指すような「学習目標」という言葉は採用されていない。例えば、前掲の『「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験』で「学習目標」という言葉は一ヶ所しか存在しない。それは、生徒が「言語と文学」のコースを学ぶために正式な要件はないという文脈で、「どのコースを選択するかは、生徒や教師の関心、そして生徒が希望する今後の学習目標などによります」³³という表現に限定されている。だから、科目を考える際にセットで考えがちな「学習目標」という言葉はこの科目では忌避されていると考える。

その分、“ねらい”“評価目標”“評価目標の実践”が設定されており、これらは現実的には指導目標、評価理念、試験との対応を示している。だから、カリキュラム全体を考える指標としてこの“ねらい”を使い、練習問題を作っていく際にはこの“評価目標”を念頭に考えるとぶれない授業提供とその評価ができるだろう。“ねらい”はカリキュラムのデザインを考える際に特に重要なためここで引用する。

³² Diploma Programme language A curriculum team: “Diploma Programme language A: literature and language and literature Summary of changes for teachers” International Baccalaureate Organization, pp.7 (2024)

³³ 国際バカロレア機構: “「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp. 14 (2019)

「言語と文学」のねらい

「言語と文学」のすべての科目はいずれも、以下を学習のねらいとしています。

1. さまざまな媒体や形式、異なる時代、スタイル（文体）、文化からの多様なテキストに触れる
2. 話す、読む、書く、見る、発表する、およびパフォーマンスのスキルを伸ばす
3. 解釈や分析、評価のスキルを伸ばす
4. テキストのフォーマルで美的な性質への感性を磨き、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる
5. テキストと多様なものの見方、文化的文脈、地域とグローバルな問題との関わりについて理解を深め、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる
6. 「言語と文学」と他の教科の関係性への理解を深める
7. 自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する
8. 言語と文学に対して、生涯にわたって関心と喜びをもつように促す³⁴

ここで注目すべきは、「主題」や「正しい」という言葉が一度も使われていないことだ。

そして、「多様」という言葉が四度も使われていることだ。前者は、このコースが唯一無二の「正答」というものを設定せず、文学テキストで「読むべきテーマ」のようなものを規定しないことを示している。後者は、選ばれるテキストの多様性、視点の多様性、受容と解釈の多様性を示していると読み取れる。これらは、日本での「国語」という科目の指導に携わった者であれば、震えるほどの自由を手に入れたように感じるか、震えるほどの不安を抱えてしまうかのどちらかだろう。自分で本を決め、読む方向性や読み方の許容の幅といった、到達地点の設定と舵取りを一人で行わなければいけないからだ。しかし、何でもありになってしまうのかといえばそうではない。理念的な面では「IBの学習者像」³⁵が規定され、IBDP

³⁴ 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp. 17 (2019)

³⁵ 国際バカロレア機構：“IBの学習者像”，

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/ib-learner-profile-brochure-j.pdf>

(参照 2025.12.29)

のコア科目では「知の理論」(TOK: theory of knowledge)³⁶で、知るとはどういうことかを考察させるように作られている。だから、この科目のデザインで求められているのは、読むということに対する寛容さと、表現に対する妥当さの判断と、最後に指導者側の勇気だ。若者が育つには、ある程度の広さで見ることが必要で、一方で絶対に許してはいけない狭さがあるということだ。

4.5 「日本語 A：文学」の“評価目標”と実際にどう評価されるか

前項の“ねらい”は指導の手引きの次のページにある“評価目標”になると、「1. 知識、理解、解釈」「2. 分析と評価」「3. コミュニケーション」という3点で括られる。³⁷だから、前述の“ねらい”、採択した文学テキストの特徴、“評価目標”の三点を丁寧に噛み砕いていき、生徒に理解してもらい発揮してもらいたいという一つの輪ができる。つまり、指導者が授業で何を仮定し、生徒がどう読んでいくかというインプット面に対して、生徒にどのようなアウトプットを期待するか、そして指導者がどのように評価するかというフィードバックまでの循環を作ることができるということだ。

一方で、学校内の学び-生徒の中での読み・理解し・表現するという循環と同様に、生徒は大学で学ぶに足る資質を持っていることを表現しなければいけない。具体的には、IBDPの2年間の学びが修了した時点での「日本語 A：文学」の本試験は、外部評価と呼ばれる「ペーパー1」と「ペーパー2」、内部評価と呼ばれる「個人口述」という三本柱でできている。ペーパー1、ペーパー2ともに、試験の形式は「手書きの小論文」が課され、個人口述は「プレゼンテーション」の形式になっている。ハイヤーレベルのみ、追加で外部評価に「HL 小論文」という探求を目的とした小論文作成が課される。

ただし、ここも誤解を解いておかなければいけないが、IBDPの本試験結果だけで大学の合格判定を行うケースは限られている。日本であれば、学校の成績が悪くても入学試験で高

³⁶ 国際バカロレア機構：“国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要 DP の「コア」: 知の理論 (TOK) 2022 年第 1 回試験”、

https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/core-tok-2022_jp.pdf (参照 2025.12.30)

³⁷ 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”、非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp.18 2019 年

得点を取ればよい大学に入れるというイメージがあるかもしれない。しかし、IBDP による大学進学は、「プレディクテッドスコア」³⁸と呼ばれる学校の試験結果の積み重ねと、IBDP 修了後の本試験の組み合わせで判断されるケースが多い。他方で、学校の成績だけでなく課外活動を含めた本人自身を評価するパターンや、本試験の結果に加え二次試験として大学独自の選考内容を課す大学など、多岐にわたる。³⁹学校の成績は学校の先生が付けるから、プレディクテッドスコアが重視される国や大学に進む生徒は、学校の先生のストライクゾーンを見抜く必要があるだろう。一方で、プレディクテッドスコアで合格内定を出し IBDP の本試験結果で本合格を決めるようなイギリスの大学への進学を考える生徒は、学校の成績もとりつつ本試験でも成果が求められる。これらは、不公平や理不尽ということではなく、行きたい進路がどのような条件になっているかという理解を高校生たちに求める。だから、学校の勉強を積み重ねればいいのか、IBDP の本試験が必要か、それ以外の条件が必要かというのは、生徒側が自分の将来に必要なものを自ら調べるしかないという意味で、IBDP が別の顔を見せてくるのだ。

4.6 「日本語 A : 文学」の IB 本試験人数と評価データについて

国際バカロレア機構は“Diploma Programme and Career-Related Programme statistical bulletins”というウェブサイトで、2005 年からの各試験の結果について統計を公表している。その資料を 10 年分にわたって調べてまとめたのが以下の図だ。

³⁸ プレディクテッドスコア (Predicted Score) は、大学志願時に使われる IBDP を一年半修了した時点でのスコア。

³⁹ 国や大学、学部によっても条件が異なるため、一律の基準を出すことは難しかった。IBDP の本試験が年二回あり、入学月も世界一律ではないので、統一基準というものが幻想ではないか。

科目名/年月	日本語 A 言語と文学 HL	日本語 A 言語と文学 SL	日本語 A 文学 HL	日本語 A 文学 SL	総受験者数
2015年5月	120	71	120	114	141,828
2015年11月			70	11	11,882
2016年5月	133	89	95	104	147,843
2016年11月			55	27	13,893
2017年5月	125	97	115	155	157,488
2017年11月			85	36	16,535
2018年5月	121	104	99	126	163,173
2018年11月	24	17	111	39	18,342
2019年5月	137	115	102	153	166,278
2019年11月	16	18	152	52	19,102
2020年5月	136	130	103	147	170,335
2020年11月	25	24	167	62	19,621
2021年5月	124	113	85	131	165,884
2021年11月	71	60	178	53	16,804
2022年5月	118	123	96	121	173,880*
2022年11月	127	63	140	89	18,038
2023年5月	130	133	64	123	179,922*
2023年11月	106	81	168	87	20,266
2024年5月	129	163	49	133	192,866*
2024年11月	153	116	165	111	21,806
2025年5月	126	181	52	170	202,102*

(図 4-2) IBDP の日本語科目の受験者数 (脚注 40 の資料を元に筆者が作成、2015.5 月-2025.5 月まで)

(*) 2022 年から毎年 5 月の統計に Career-Related Programme (CP) が含まれるようになった⁴⁰

⁴⁰ International Baccalaureate Organization: “Diploma Programme and Career-Related Programme statistical bulletins” より筆者がデータを抽出して作成。 <https://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/statistical-bulletins/diploma-programme-and-career-related-programme-statistical-bulletin/> (参照 2025.12.31)

世界全体で見たときには 8 月や 9 月が学年の初めになる国が多いため、IBDP の総受験者数は 5 月度の方が 11 月度より格段に多いことが見て取れる。一方で、日本の一条校で IB の本試験が行われるのは 11 月が中心であり、近年は日本語 A の「言語と文学」、「文学」ともに 5 月試験と 11 月試験で受験者数の差がなくなってきている。これは日本から受験する層が増えてきたからだと捉えられる。日本の状況が変わってきたのは、2013 年の閣議決定で IB 認定校等を 200 校以上にするという政府目標が掲げられ、同年に国際バカロレア機構との協力で日本語 DP 課程の開発が始まり、その後急速に IBPD の普及が進んだことが挙げられるだろう。⁴¹

それでも、厳然たる事実として「日本語 A：文学」の受験者は、2024 年度では全世界で 458 人しかいない。「日本語 A：言語と文学」の 2024 年度が 561 人だから、2024 年度で日本語 A の IBDP 本試験を受験した合計数でも全世界で 1019 人という少なさだ。しかし、あきらめてはいけない。2015 年度で「日本語 A：文学」と「日本語 A：言語と文学」の受験者の合計は 506 人だったから、9 年で受験者は倍増している。さらに、受験者数の記録を追跡できる最古の 2006 年資料では、日本語 A の受験者は 180 人しかいなかった。この時はまだ「日本語 A：言語と文学」は科目として設定されていなかった。だから、現在はニッチな領域ではあるが、世界で IPDP の受験者が増え、日本でも IB 認定校が増えることを期待している。その時に、より多くの日本人に「日本語 A：文学」という科目を選択してもらえるように本研究を進めている。

⁴¹ 文部科学省：“国際バカロレアの普及促進に向けた検討に係る有識者会議取りまとめ”(2023),

https://www.mext.go.jp/content/20230328-mxt_kokusai01-000022346_1.pdf (参照 2025.12.30)

第5章

「日本語 A：文学」のコースデザインを考える

エグゼクティブサマリー

国際バカロレアのディプロマプログラム（以下 IBDP）の「日本語 A：文学」を教室以外の時差のあるところから学べるようにするにはという問題に対し、架空の存在としてイタリアに住み医療・科学系に進学を希望する高校生、漣 遊（さざなみ ゆう）さんを想定しコースデザインを行う。

具体的なコースデザインは以下の通り。IBDP 6 科目の選択は本人の進学先希望や難度の高さを表すので気に留めておくこと、指定作家リストから文学テキストを採択しながら科目要件を満たすか確認すること、探究領域を学ぶ中で多様な問が出てくるかどうかを想定することが豊かな学びにつながるデザインにすること。そして、150 時間の授業時間は文学テキストを読む時間に 120 時間をかけ、テスト形式に習熟する時間をそれぞれ 10 時間ずつで 30 時間とすること。ただし、進行上のつまずきは想定しつつも、文学テキストを読んで考えるということと、試験への技術を高めるというのは、時間に対してトレードオフの関係になっていることに留意する。

最後に Moodle 上で科目全体を、オリエンテーション/ペーパー 1 / ペーパー 2 / 個人口述という 4 つのパートに分けて構成した全体像を次章のために示し、ここまでの考察が ARCS-V モデルを援用し、学習意欲をどのように刺激、維持するかを意識しながらデザインしていたことかを説明する。

5.1 解決すべき問題の設定と、対象者を仮定する

では、問題を具体的に設定し、どのように解決していくかを考える。国際バカロレアのディプロマプログラム（以下 IBDP）の「日本語 A：文学」をどうしたら教室以外の場所から学べるようにするかというのが本研究での問題だった。

ここで私は、距離や時間がシンガポールと異なり、実際に対面型で会うことが難しく、かつ一人で学ばなければいけない高校生という対象者を仮定する。そして、インターナショナルスクールで「日本語 A：文学」が開講されておらず、セルフトート (School-Supported Self-Taught (SSST)) という仕組みで、私が学校から承認を受けて指導しなければいけないこと

になったというケースで考える。⁴²

場所はシンガポールと時差が7時間あり、10,000 キロ離れたイタリアのフィレンツェとした場合を想定しよう。生徒はインターナショナルスクールに通い、一度も日本の学校に通ったことはないが、フィレンツェには日本語補習授業校があるので、ここで小学1年生から中学生卒業まで日本語を学んできた経験があるものとする。架空の生徒の名前は漣 遊（さざなみ ゆう）さんという方で、高校一年生のためあと半年でIBDPが始まるため準備を進めているという設定でデザインを考えていく。⁴³

シンガポールで行っている指導は塾のものであり、そのまま学校のセルフトートにはできず、しかも時差がある。また、時差の少ないヨーロッパ圏から同様の要望が来た際に、個別の指導では対応が仕切れない可能性が高い。他方で、国際バカロレアのディプロマプログラム（以下IBDP）の“ねらい”にある「7. 自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する」という項目と、“評価目標”にある「3. コミュニケーション」の「明確で論理的、説得力のある方法で考えを表現する」「さまざまなスタイルや言語使用域（レジスター）を用い、多様な目的と状況に応じて表現する」という項目を満たすためには、学びは一人一人のものであっても、一緒に学べ成長しあえる同世代がいることが望ましいだろう。⁴⁴

ここまでの仮定を踏まえ、まず漣 遊（さざなみ ゆう）さんがこれからIBDPの「日本語 A：文学」をどうやれば最後まで学べるようになるか、そのあり方を考えていく。時差と場所を越えて、それぞれの高校生たちが最後まで折れずに学ぶ方法は何か。その答えは、「国際バカロレア「日本語 A：文学」の魅力あるオンライン化の設計と実装-どこでも、一人でも、Moodle で学べるように-」で変わらない。

⁴² セルフトート（School-Supported Self-Taught (SSST)）は学校で指導できない科目をチューターが指導する仕組み。国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp. 31 (2019)

⁴³ 私は実際にイタリアに住む日本人の保護者から「日本語 A：文学」を指導してくれないか電話を受けたことがある。その当時はオンラインでの教育ノウハウがなく、力になりたかったがなれなかったという経緯が今に活きている。

⁴⁴ 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp. 17-18 (2019)

5.2 科目選択は本人が将来に学びたいことを示している

さて、漣さんはフィレンツェのインターナショナルスクールで学んでおり、この学校は PYP/MYP/IBDP と全学年で IB プログラムを導入している。そして、日本語補習授業校で漢検 3 級までの漢字の読み書きや中学生卒業相当の作文の書き方は習得している。学校では IB コーディネーターや進路指導の担当の先生が科目の選択についてアドバイスを送り、最終的に以下のような科目選択が行われたと仮定する。

ハイヤーレベル	数学：解析とアプローチ	化学	生物
スタンダードレベル	日本語 A：文学（セルフポート）	英語 A：文学	歴史

(表 5-1) 架空の漣 遊さんが選択した科目

IB 日本語の講師だったら、何を思うだろうか。漣さんは、おそらく学校で最も難しい科目選択をしており、将来の希望進路は海外と日本の両面張りで、医療系か科学系統だろうと
いうことを予期する。それは、ハイヤーレベルで数学に加えてグループ 4 の理科系等を 2 科目取っているからだ。また、文系科目で言語 A を 2 科目取るということは、問題の難易度が下がる言語 B を選ばなかったということだ。英語 A：文学のスタンダードレベルで最高位の 7 を取得した生徒は、2025 年 5 月試験でたったの 7.0%、日本語 A：文学は同様に 4.7%しか
いない。仮にイタリア語 B のスタンダードレベルだったら 17.8%が 7 になる。⁴⁵だから、漣さんは、敢えて難易度の高い方を選び、最終的に日本で小論文なども書く可能性を考えて科目を選択している可能性がある。現実的には家庭や本人との面談の上で様々相談しながら考えていく流れになるが、ここでは学校では十分な進路指導が受けられているという前提とする。これらが、次の文学テキスト選択につながっていく。

⁴⁵ International Baccalaureate Organization:“ Diploma Programme and Career-Related Programme statistical bulletins”(2025) より 2025 年 5 月の IBDP 試験の結果を参照して引用した。

https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/about-the-ib/pdfs/dpcp-final-statistical-bulletin-may-2025_en.pdf

(参照 2025.12.30)

5.3 指定作家リストから本を 7 冊選び、全体のコースデザインを考える

前提として、セルフポートはスタンダードレベルしか選択できず、全ての本は指定作家リスト (Prescribed reading list) ⁴⁶から選ばなければいけない。そして、漣さんの 2 年間の学びの中で様々な概念に触れながら、スキルとしては最終的な試験問題 1 (ペーパー1)、試験問題 2 (ペーパー2)、個人口述という試験形式に対応できるように、各種要件を満たすように本を選んでいく必要がある。

文学テキストは、これまでのシンガポールのインターナショナルスクールで選ばれ指導経験の豊富なものや IB ワークショップで先生方に選ばれたことの多い本を参考にしながら選択する。実際は 7 冊選択すればよいのだが、本当は事前に漣さんと話し合っ 2 冊程度追加で本を選ばせたい。それは、本人の学びの中で、関心がはっきりとしてきて、焦点が絞られてきた際に挑戦する本を作っておきたいからだ。もちろん、読んだ本の中で十分な問題意識が持てれば、そのあとは試験形式に慣れる時間を作ればよい。ここでは、以下のように本の候補を設定した。その多くがシンガポールの学校で採択され実績のあるものを参考にさせて頂いた。

- ・『献灯使』(多和田葉子)
- ・『砂の女』(安部公房)
- ・『吉野弘詩集』(吉野弘)
- ・『華岡青洲の妻』(有吉佐和子)
- ・『こころ』(夏目漱石)
- ・『異邦人』(カミュ)
- ・『人形の家』(イプセン)
- ・『日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で』(水村美苗)
- ・『ペルセポリス』(マルジャン・サトラピ)
- ・『われらの時代』(大江健三郎)

漣さんにとっては、ここが文学を分析的に、あるいは比較横断的に読み、自分の中に立ち上がってくる考えを言葉にしていくという世界の入口になる。これをお読み頂いている方

⁴⁶ Prescribed reading list <https://ibpublishing.ibo.org/prl/> (参照 2025.12.30)

の中でも、学校の教科書に載っている作品を、懐かしくあるいは退屈に思い出すだろう。⁴⁷
全ての作品が漣さんの中で根を下ろし、評価や批判的な考えの種が芽吹くとは限らないが、その作品がまずは違和感や刺激を与え、こういう世界があるんだという認識につながる
ことが第一歩になる。

そして、今回は 2020 年代のイタリアのフィレンツェを想定しているが、選ばれる本は指導者の都合になってはならない。だから、漣さんの反応、あるいはヨーロッパ各国から受講してくれる同世代の反応を見ながら、2 年間で読む本は大胆に入れ替えを行っていく必要はあるだろう。それは、時代に合わせるという考えもあるかもしれないが、セルフトートの場合は指定作家リストという文学史の伝統上にある作家から選ばないといけなないので、新規なものは選びにくい。むしろ、指導者が一緒に成長していくことで、もっと文学の世界の扉を開けるのに必要な「鍵」となる本を選びたくなっていくのかもしれない。

5.4 コースデザインが科目要件を満たすか確認し、他の言語科目との調整を行う

次に、本を絞り込みながら、選んだ本がコース要件を満たしているかの確認を行う。例えば、スタンダードレベルでは、翻訳作品は 2 作品以上、文学形式は 3 ジャンル、時代は 3 つの異なる世紀、場所は 3 カ国以上で 2 大陸以上という条件があるので、表ではこれが満たされていることが確認できる。翻訳作品は『人形の家』、『異邦人』、『ペルセポリス』を選択しており、このうち 19 世紀の作品である『人形の家』と 21 世紀の作品である『ペルセポリス』は時代という条件を満たすためには欠かせないが、もしも学校側のスーパーバイザーから英語 A やイタリア語 A、あるいは言語 B で作家が重複することを伝えられたら、再考せざるをえない。その場合は、19 世紀に書かれたチェーホフの戯曲などに変える必要があるだろう。

⁴⁷ シンガポールで選ばれている本を見るときに、日本の学校で読まれている本を読んだ上で大人になってほしいという意図を感じることもある。確かに近代文学や詩集を教養として知らずに「国際的な視野」を得るのは難しいだろう。

タイトル	作家	文学形式	時代	国	大陸
華岡青洲の妻	有吉佐和子	小説	20	日本	アジア
こころ	夏目漱石	小説	20	日本	アジア
異邦人	アルベール・カミュ	小説	20	アルジェリア	アフリカ・ヨーロッパ
人形の家	ヘンリック・イブセン	戯曲	19	ノルウェー	ヨーロッパ
吉野弘詩集	吉野弘	詩歌	20	日本	アジア
日本語が亡びるとき			20-		
英語の世紀の中で	水村美苗	評論	21	日本	アジア
ペルセポリス	マルジャン・サトラピ	グラフィック ノベル	21	イラン	アジア

(表 5-2) 選んだ本がコース要件を満たしているかの確認

これらの洗い出しは、2年間という時間を楽園にも地獄にもしないという好奇心や動機の維持のための工夫といえる。あまりに簡単すぎると成績は取りやすいが科目への没入度は下がり、最後に試験問題2(ペーパー2)を組み上げる時に必要な思考の深さが得られない恐れがある。同時に、あまりに過酷だとこの科目ばかりに時間が取られ、他の科目との時間のバランスが取れないかもしれない。すなわち、状況によって、難しすぎても、退屈すぎても、「この本は捨てた」と諦められてしまう可能性がある。学校の半期ごとの成績は1年半後のプレディクテッドスコア⁴⁸に関わるが、学校の成績で必要だから頑張ろうという動機だけではなかなか動機は維持されにくいだろう。だから、甘すぎない、辛すぎない、熱すぎない、ぬるすぎないバランスが大切で、他の科目がどのように進行しているかも横目に見る必要がある。⁴⁹

⁴⁸ プレディクテッドスコア (Predicted Score) は、大学志願時に使われる IBDP を一年半修了した時点でのスコア。

⁴⁹ どの科目が一番つらいかは選択した科目による傾向が出てくるが、生徒に聞くと共通して最も多い叫びは「間に合わない、わかってくれない」というものだ。よって、科目選びの段階では裏ガイドンスのような話まで出てくる。

5.5 コースデザインが探究領域に対して様々な問を含んでいるかを確認する

さらに並行して、“シラバスの概要”で示される「読者、作者、テキスト」、「時間と空間」、「テキスト間相互関連性：テキストをつなげる」という3つの探究領域に対して問が豊かに含まれているかという確認を行う。⁵⁰

「読者、作者、テキスト」では、小説・詩歌・戯曲・評論といった様々な文学形式を扱うことで、なぜ文学を学ぶのか、作家の意図、読者に与える意味、文学形式や言語の差はどのように意味に影響するかなど本質に触れることができているかを考える。この探究領域は、初見の文章を分析する試験問題1（ペーパー1）を考えるときに必要なスキルを習得することにもつながっている。例えば、今回であればスタンダードレベルながら5つの文学形式を選んでいる。そして、小説でも一人称や三人称で語り手の視点が異なり、プロット上で過去への移動を含むものや、方言を含む語り口の豊かさを経験することが意図されている。

「時間と空間」では、「文学テキストが創作され読まれた文化的文脈を、時間と空間を越えて探究し、また文学そのものの内容が社会を映し出す鏡になる」⁵¹という点が特に重要だ。これは、過去としての文化的、歴史的な理解にとどまらず、ではなぜ今読むのか、なぜ文学テキストが時間と空間を超越することができるのかという考えをもたらす。だから、この探究領域は、翻訳作品と日本語原典の作品を比較しながら現代の諸問題を考察する「個人口述」という試験問題と強く関連するだろう。今回であれば、5か国の場所としての広さと江戸時代から現在までの時間を含みつつ、現代につながる題材として倫理、自立、孤立、戦争、時代による生き方の変化が選択されている。具体的には、『人形の家』と『華岡青洲の妻』の組み合わせや、『ペルセポリス』と『日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で』、あるいは『異邦人』と『こころ』などの組み合わせを生徒によっては選ぶかもしれない。このあたりはセルフポートだと指定作家リストの中からしか本を選べないため、現代的なテーマを含んだ本を直に選択することは難しい。だから、授業の中で作品の普遍性や if という視点を入れて読むことで、読む視座を変えるように生徒を刺激することも必要になる。

「テキスト間相互関連性：テキストをつなげる」は、「文学テキストの比較研究に焦点を

⁵⁰ 国際バカロレア機構：“「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp. 21, pp. 25-29 (2019)

⁵¹ 同上 pp. 26 (2019)

あて、個々の文学テキストの特性と複雑な関連性についてより深く洞察⁵²することが求められる。具体的には、同じ小説でも語り方が異なるのはなぜか、異なる作品でも扱われる題材や主題に共通点が見いだせるのはなぜか、他の作品を読んだ後には異なる解釈が生まれてくるのではないかなどだ。ここまでの探究領域は別個に存在しているわけではなく、相互に関連しあうと気づく力自体もこの項目に入るだろう。この探究領域は、これまでに学んだ 2 作品を比較し、論点に対して共通点と相違点を交差する試験問題 2（ペーパー 2）に結びつく。今回であれば、『華岡青洲の妻』、『こころ』、『異邦人』、『人形の家』の中で選択の幅が生まれるだろう。これでコースデザインとしては完成したことになる。

5.6 途中でつまずきとオンラインならではの困難さを想定に入れる

ここからは読む順番を定めて、漣さんが 2 年間の学びで育っていくようにカリキュラムを作っていくが、大切なことが 3 つある。それは、①指導者が考えているようには生徒は伸びていかない②オンラインの学びは途中でやる気が下がる時期が必ず来る③物理的な距離があるときに精神的な距離は詰めにくいという 3 点だ。つまり、つまずくことを想定してデザインを組むべきであり、途中で追いつけるように考えておき、簡単なレベルに戻れるような考え方が必要になる。

この 3 点に出典がないのは、筆者の体験に基づくものだからだ。私はある日突然、オンラインで授業をしなければいけなかった経験を持つ。そう、世界を襲ったコロナ禍により、シンガポールでは「サーキットブレイカー」という施策が取られ、政府から突然職場への立ち入りを禁止されたためだ。⁵³同様に、私は熊本大学の現専攻にシンガポールから入学し、物理的な距離が 4500 キロあるため、多くの先生にはお会いすることがないまま卒業する。⁵⁴だから、遠距離のオンラインの学びの大変さは指導者としても学習者としてもわかる。

⁵² 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp. 21, pp. 28 (2019)

⁵³ 授業は完全に自宅からで、独身が多い講師の精神衛生上の問題も考え、毎日講師とも ZOOM ミーティングを行った。

松村 貴由：“シンガポール - COVID-19 対策の優等生？それとも？”

<https://www.covid19-jma-medical-expert-meeting.jp/topic/4566>（参照 2025.12.30）

⁵⁴ オンラインのみでインフォーマルな場がほとんどない環境で学ぶという人体実験を自身で行っているともいえる。

さて、IBDP の学びは 6 科目で同時に締め切りが来ることで生徒に負担がかかる。日本でも高校生の定期テストはそうじゃないかと思う方もいるだろうが、IBDP の場合はテストにも種類があったり、あるいは課題提出に置き換わったりと、常に締め切りに追われているのが生徒の実情だ。だから、本人が授業に来ず連絡が取れないということも、その背景がわかっているならば待ち、どうしても連絡が必要な時は保護者に一報を入れてという我慢の姿勢が指導側にも必要になる。勤勉で真面目な生徒ほど、課題が複数並行で出されると追い込まれる傾向があるので、課題が出ていないことを一律に指摘すればよいというものでもない。

ここは、実際に IBDP で他に選んだ 5 科目を聞き出しておくと、その大変さを助けることができる。例えば、漣さんの場合はイタリア語 B を選ばずに、他国の大学進学を考え英語 A を選んでいるから、「日本語 A と英語 A の『文学』は同じカリキュラムだから相互に役立つ」ということを伝えればやる気の維持につながるかもしれない。すくなくとも試験の評価規準は同じなので、向上するコツがつかみやすいだろう。自分の担当科目だけ考えていると、アドバイスが的を射ていない時があるのだ。アドバイスのコツは、重たい内容は短く伝え、相手にとって嬉しい内容は丁寧に書くことだ。画面上の言葉は受け取る側にとって伸び縮みするので、言葉の音声のコードが載らないオンラインでのテキストデータこそ、相手に書ける言葉を考えなければいけない。そして、すぐ送らずに我慢して、翌日出すことだ。オンラインだからこそ、わざと時間を取ることが有効なことがある。

これらは、もし学ぶということが機能し、成功するには、その科目のデザインだけではなく、本人とその周囲の環境も大切な要因になるのではないかという考え方を基本にしている。⁵⁵そして、失敗から立ち直る方法、「失敗に強くなる」方法を伝えることすら、現在の学びでは不可欠だ。⁵⁶学ぶということをマクロな面で「未知の世界に入っていくこと」だと捉えれば、それは人によっては恐怖の体験かもしれないからだ。本人は入りなくなくて、保護者や周りの意思で選択したのかもしれない。あるいは逆に、本人だけ意欲があつて、保護者や周りは無関心かむしろ障壁になっているのかもしれない。オンラインで学ぶということは、これらの画面外の情報を捨象しているかもしれないことに自覚的であることもまた、科

⁵⁵ 鈴木克明：“学習経験の質を左右する要因についてのモデル”，教育システム情報学会研究報告,24(4), pp.74-77 (2009)

<https://idportal.gsis.jp/~idportal/wp-content/uploads/a91120jsise.pdf> (参照 2025. 12. 30)

⁵⁶ 鈴木克明・美馬のゆり編著：“学習設計マニュアル 「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン”，北大路書房，京都，pp.103-113 (2018)

目をデザインする指導者に求められることではないか。

5.7 150 時間という授業時間を分割し、割り当てとシーケンスを考える

次に、150 時間という単位を 60 分×150 コマと分割し、実際の割り当てとシーケンスを考える。ここでは、文学テキストを読む時間に 120 時間をかけ、テストに習熟する時間をそれぞれ 10 時間ずつで 30 時間とする。つまり、全体の 80%の時間が文学テキストを読み、それぞれの本に対して答えを出していく時間だとすると、残りの 20%が最終試験のためにそれまでの成果を磨き上げるというバランスだ。各コマの授業は週に 1 回 1 コマ分に Zoom で同期型の時間を作り、それ以外はオンライン上で読める教材を用意する。漣さんは 1 週間に 2 コマを進め、1 年半で 120 コマを学べばその後は本試験対策として使える。

これは現場の講師の実感として、IBDP という課題は 2 年間ではなく、実際は 1 年半であるというところから逆算している。つまり、2 学期制の学校であればプレディクテッドスコアが出る 12 年生の前期までで全ての本が読み終わっており、残り半年が各科目の最終試験に向けて残してあるというイメージだ。 2 年間で四分割して、授業時間で割り振ると 40 時間、40 時間、40 時間で、最後の半年が 30 時間で試験対策ということだ。IB 日本語全体の知識を得るオリエンテーションの時間は 3 時間で想定し、これは事前学習や復習として授業時間の外に出しておく。

すると、文学テキスト 1 冊に掛けられる時間は 13.3 時間、9 冊の合計は 119.7 時間となる。13 コマあれば体感的にも 1 冊の本を読み、到達度を確認する試験や課題を課すのにちょうどよいくらいの時間になる。授業本体が 10 コマで、最初の導入が 1 コマ、課題とテストで 2 コマというイメージだ。ただし、漣さんが本を読んでくる時間が一冊 1-5 時間程度あるので、新しい本に入る時期とテストや課題を準備する時間に余裕を持つ必要がある。

今回は敢えてつまづきや途中の進行が遅くなった場合の想定もして、文学テキストは 9 冊で見積を立ててある。もしも順当に進み、早めに文章を読み終え、間に対して答えを積み上げられた場合は、その分ペーパー 1、ペーパー 2、個人口述のために時間を使ってよいからだ。同等に進行が思わしくない場合、2 冊分の余剰の時間をそのまま読む時間として進行する 2 段構えとする。基本的に、計画は遅れるのが普通で進捗が早まるケースは少ないが、漣さんが意欲が上がった際に応えられるようにしておくのも大切だ。

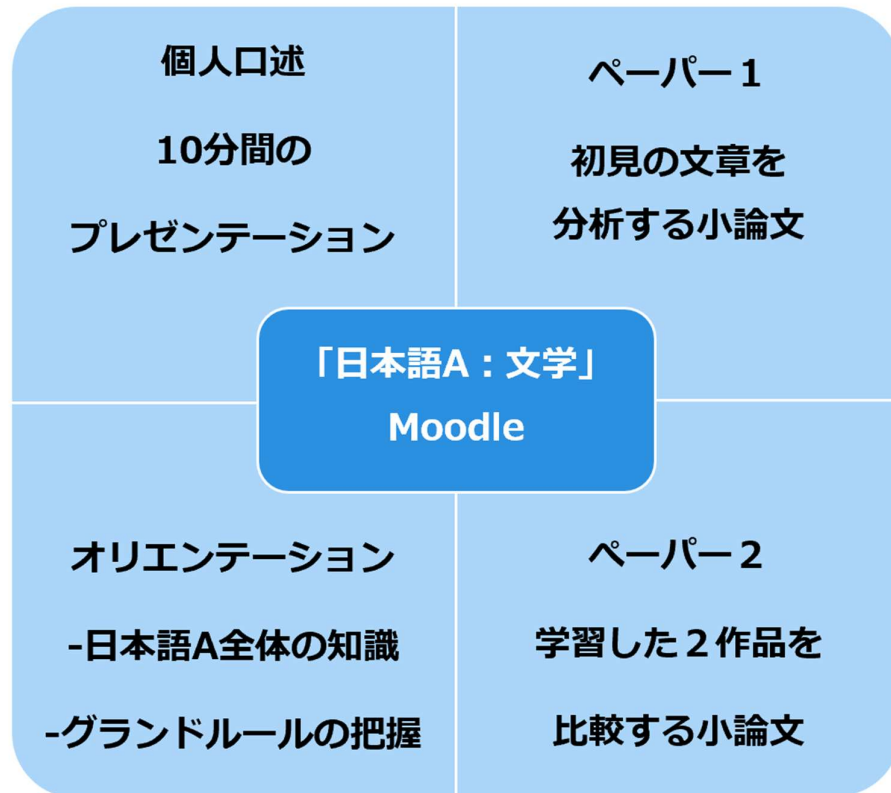
ここで注意すべきは、進行の遅れではない。文学テキストを読んで考えるということと、

試験問題について技術を高めるというのは、時間に対してトレードオフの関係になっていることだ。文学テキストを読んでディスカッションをするのに時間を掛けるほどペーパー 2 型試験や個人口述に対しては考察が進み材料が集まるが、実際に試験形式のためその材料を磨き上げるための時間は失われる。だから、文学テキストを深く読み続ければよいというわけではなく、問題ばかりずっと解けば技術が上がるのかといえば考察が浅くなるためそうはいかない。そのため、ここは読む-解くが一連のシーケンスになっていながら、別個のパートになっているようなデザインが望ましい。そこで、次項のようにモザイク型に試験形式で分けるというアイデアがある。試験項目で 4 つにパートを区切り、各パートはモザイク状の構成にし、本の長さが一緒でも学ぶ時間は変えないという作りだ。ペーパー 2 の中で実際の文学テキストを読んでいくので、右下のパートが全体の 80% を占める。

本を読む順番は漣さんと作品の相性もあるが、「吉野弘詩集」か「異邦人」から始めたい。前者は言葉に対する感覚とレトリックを磨くことや、言葉から情景をイメージする訓練になる。後者は自分という主語と社会との距離の中でドラマが起きるといふ小説の基本を読み、アイデンティティについての考察を始めてほしいからだ。そして、制作自体は一冊の本を読んだらその間に次の本の Moodle を作るというような、最初は自転車操業になるだろうが、一緒に学ぶという形成的評価を得ながら、デザインのでこぼこにカンナがかかっていくだろうと想定している。

5.8 実際の Moodle の構造のイメージ

まず、「日本語 A : 文学」という科目全体を、オリエンテーション/ペーパー 1 / ペーパー 2 / 個人口述という 4 つのパートに分けて Moodle を構成する。それぞれのパートの中で、知識の習得、分析視点の育て方、共通点と差異点の比較、ディスカッションなど、評価目標に応じた要素を細かく洗い出す。各コマに難易度に応じた小問を作成し、学習意欲を維持させながら、最終試験の形式に習熟させる。現行では、ペーパー 1、ペーパー 2 型試験は手書きの課題提出のため小論文はルーブリックに基づいた講師による手採点が必要だが、中期的な未来では学習者側が AI にルーブリックを読み込ませ自己採点ができるようになり、指導者の側はどうやって伸ばすかというアドバイスとメンタリングが中心になるだろう。



ペーパー1とペーパー2は外部評価と呼ばれIBの採点官が採点する。
個人口述は内部評価と呼ばれ、学校の教師が採点し、IBの採点官が調整する。
ハイヤーレベルでの受講者のみ、HL小論文という探究課題が追加される。

(図 5-3) パートごとに4つに「日本語A：文学」を分けたイメージ図 (筆者作成)

5.9 「制作上の指針6か条」を意識する

これまで挙げてきた条件から考えると、実際の制作上の課題は無数に挙げられそうだが、以下の6点を大切にしながら細部を作りこみ、押し付けにならように最後はこだわりを消す予定だ。

- ①意欲を維持し、刺激がマンネリにならないこと
- ②一つ一つが小さいサイズで作られていること
- ③できそうで、簡単な課題がたまにあること
- ④諦めても他に学べるパートがあること
- ⑤指導者からのフィードバックをしっかりと返すこと

⑥困難なものに立ち向かう時には同期型の時間を取るブレンド型の構成であること

これらは、グランドデザイン>コースデザイン>制作時の指針という関係で、下位ではあるが守るべきルールを記載するものだ。すなわち、第2章の「開発のコンセプト」が全体のグランドデザインとしての設定、この章自体がコースデザインのための具体的な条件洗い出し過程の記録になり、最後の「制作上の指針6か条」が実際の制作で迷ったときに戻る道しるべとなっている。

5.10 ここまでのデザインは「学習意欲をデザインする」ことではないか

この章をお読みいただいた方には、「日本語 A：文学」のコースデザインを考えつつ、漣遊（さざなみ ゆう）さんの学習意欲をどう刺激し、維持するかという視点が含まれていたことに気づくかと思う。これは、『学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン』⁵⁷をずっと参考にしながら書いてきたからだ。

具体的には、「5.3 指定作家リストから本を7冊選び、全体のコースデザインを考える」では「日本語 A：文学」という科目に対して、マクロモデル修正版では「好奇心（注意）」と「動機（関連性）」の部分で刺激できる文学テキストの選択を考えていた。⁵⁸特に、ARCS モデルの「注意」での下位分類における「A1 知覚的喚起：彼らに興味を持たせるために何をしたらよいだろうか」と、「関連性」についての下位分類である「R1 目的志向性：どうしたら学習者のニーズを最も満たすことができるだろうか」の部分に着目し、漣さんが将来医療系、科学系に進むことを考えたときに『華岡青洲の妻』を選択したつもりだ。⁵⁹

次に、「5.5 コースデザインが探究領域に対して様々な問を含んでいるかを確認する」と「5.6 途中でのつまずきとオンラインならではの困難さを想定に入れる」の部分では、漣さんの途中での失速を想定した。それは学び続けたいという「努力の持続性」は、単に成果が上がったという「達成感（パフォーマンス）」からもたらされるのではなく、他者からのフォローがあること、そして自分が何かに気づいて考え方が変わっていくという自己からの刺

⁵⁷ J.M.ケラー著 鈴木克明監訳：『学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房、京都（2010）

⁵⁸ 同上、pp11（2010）

⁵⁹ 同上、pp49-53（2010）

激が左右するのではないかと考えたからだ。その時に、「コミットメントと意志を組み込んだケラーのマクロモデル修正版」に注目した。「このモデルにはまた、自己規制スキルが十分に発達していない学習者を支援するために、激励や足場がけ、あるいは中間的なゴール設定などの環境要因をどう組み入れていくかも示されている」とあったからだ。なりたいたいのために必要なことに努力し続けられる場合は、従前の ARCS モデルでもよいのかもしれないが、高校生という年齢とオンラインという環境が生む、揺れの要素が考慮する必要性を考えた。⁶⁰

最後に、私にとって誰が勉強するかというのは教材制作やコースデザインのために必要な情報だった。IBDP を2年間オンラインだけでは走り切ることはそうそう簡単なことではなく、その経験は私が熊本大学大学院社会文化科学教育部 博士前期課程 教授システム学専攻でオンラインで学ぶ経験とつながっていた。だから、この章を書くことは架空の高校生のことを考えつつ、かつ自分がオンラインで学ぶ時の困難さと、これまでの指導経験を考えながら、解決すべき課題と途中での問題点になるべくリアルに伝わるように書いたつもりだ。

実は、この章は元々書く予定がなかった。しかし、研究の中間審査でマジュンダール リトジット先生より「デザインの狙いはわかるが、全体としてはどのようなものになっているか、カリキュラムを見えるようにするべきではないか」という意見を頂いた。つまり、全体を見据えた上で初めて細部のデザインは本来決まってくるのではないかということだ。実際にコースデザインをしてみると、次々と課題が見つかり、そして魅力あるデザインというのは Moodle の設計だけでないことに気づいた。むしろ、ここであれば漣 遊さんという相手を想定しながら本を選ぶ段階や、ディスカッションでの質問の作り方、相手へのコメントの付け方でコンテンツの魅力が大きく変わる可能性がある。今までは、良い Moodle のデザインというところだけを考えていたのだ。そうではなくて、個というものも考え、そして教材全体を決めるという「ミクロとマクロの両方がそろふこと」の大切さがあるとわかった。この章が一番の難所でもあったが、厳しい指摘をして頂いたマジュンダール リトジット先生には心から感謝している。

⁶⁰ J.M.ケラー著 鈴木克明監訳：“学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン”，北大路書房,京都,pp10-11 (2010)

第 6 章 「オリエンテーション」のパートの条件

エグゼクティブサマリー

知識分野だけを身につけるパートは「オリエンテーション」と呼び、国際バカロレアのディプロマプログラム (以下 IBDP) の「日本語 A：文学」の他のパートと独立させて提供する。それは、この科目で何が求められ、どのように試験が行われ評価されるかを俯瞰的に知ることが、2年間の長い学びの事前情報として必要だからだ。同様に、2年間の国際バカロレアの課程の途中で「日本語 A：文学」という科目を選択した場合のキャッチアップにもなると想定している。つまり、この後に各パートを学んでいく上で、全体の中で今はどの段階におり、今後はどのようになっていくのかという位置を認識しながら学べるように、科目の要件を紹介しそれを言語情報として、あるいは認知的方略として習得することを意図して設けている。

6.1 なぜ「オリエンテーション」のパートが必要なのか

このパートが必要な理由は、「日本語 A：文学」を学ぶ人にとって、この科目がどのようなものか俯瞰するためだ。これまでお読みいただいた方は、この科目には穴埋め問題や記号選択などがなく、基本的には小論文とプレゼンテーションで評価されることを理解されているだろう。しかし、独力で本を一冊読むということ、ディスカッションが行われるということ、そして、二年間に何冊の本を読むかということ、本当の試験はどういうものかということ、これらをプログラムが始まってから知るのでは遅いのだ。

だから私の場合は、もともと紙の教材として「IB『日本語 A：文学』オリエンテーション」を作っている。現職の学習塾の講師として、「日本語 A：文学」に興味のある保護者から受ける質問は、「この科目は難しいですか、日本の国語とどう違いますか」というものだ。それに答えるため、そして実際に学ぶ高校生が IBDP に入る前に、これまでの学びとの違いを理解してもらうため、Moodle 上ではこのパートは独立させた構成を考えている。

6.2 オリエンテーションは具体的に何を提供するのか

何をもって知識分野というのか。読んでいる方の中には、日本語に大切な漢字・語句や技術としての小論文の書き方などをイメージする方もいらっしゃるかもしれない。しかし、それらはこのオンライン化の外でも有用な情報が手に入るため、ここでは扱わない。

このオリエンテーションのパートは、「日本語 A：文学」という科目をおよそ一時間でわかる情報量に整理する。その上で、ペーパー 1 / ペーパー 2 / 個人口述という試験形式に分けて、それぞれがどのような要件なのか、どのように採点されるのかを提示する。最終的には、自分の書いたものやプレゼンテーションがどのように評価されるのかを知識として習得したことを確認するための小テストの形で確認する。ここは、紙版の教材を作る際に、鈴木克明『教材設計マニュアル 独学を支援するために』（北大路書房）⁶¹と鈴木克明・美馬のゆり編著『学習設計マニュアル 「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』（北大路書房）⁶²を参考にさせて頂いた。このパートは、ガニエの学習成果の 5 分類でいう「言語情報」の習得に当たるが、「日本語 A：文学」をどのように学んでいけばよいのかという見通しを得るという意味では「認知的方略」も含んでいると考える。⁶³

簡単なイメージとしては、「45 分の授業を受けた後に、伝達したい知識内容が身についているか 15 分でテストを行う」というものだ。ただし、動画視聴の方が理解しやすい人、PDF を紙で印刷して書き込んで理解したい人、画面上だけで携帯電話で学びたい人というそれぞれの楽な方法を想定しておく必要がある。そのため、①PDF ファイル②VOD による説明③PDF を Moodle 上にテキストとして打ち直したもの④受講後の小テストという 4 種類の内容をこのパートでは作成する予定だ。

次ページには、紙教材である「IB『日本語 A：文学』オリエンテーション」より「全体のまとめ」をサンプルとして提示する。ここまで全てお読みいただいた方には、第 4 章の『『日本語 A：文学』を概観する』と重複するので次節をご覧いただければと思う。

⁶¹ 鈴木克明：“教材設計マニュアル 独学を支援するために”，北大路書房，京都（2002）

⁶² 鈴木克明・美馬のゆり編著：“学習設計マニュアル 「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン”，北大路書房，京都（2018）

⁶³ 同上，pp.147-154（2018）

全体のまとめ

「IB文学：日本語A」の要点をまとめたものです。
以降のページに具体的な説明がありますので、今は全て覚える必要はありません。
全体像をつかむためにご覧ください。

■学校の授業と、求められる資質

- ・IB文学：日本語Aでは、「文学テキスト」が授業で使用するテキストとして選ばれる。
- ・文学形式には、「フィクション、ノンフィクション、詩、戯曲」などがある。
- ・文学テキストは、学校の先生が採択するため「学校と学年」ですべて異なる。
- ・文学テキストは、「自分で読んで」、生徒同士で「ディスカッション」し、「小論文やプレゼンテーション」で成果が求められる。
- ・「文学」「言語と文学」という科目は、英語などの他の言語であっても、「カリキュラム」は変わらない。

■本試験の形式について

- ・IBの本試験は、外部評価と呼ばれる「ペーパー1」と「ペーパー2」、内部評価と呼ばれる「個人口述」という三本柱でできている。
- ・ペーパー1、ペーパー2ともに、試験の形式は「手書きの小論文」が課される。
- ・個人口述は、小論文の試験ではなく、「プレゼンテーション」の形式になっている。
- ・学校での試験は「プレディクテッドスコア」に使われ、問題はIB本試験に類似したものを「学校の先生」が作成する

■試験内容について

- ・ペーパー1は、設問に沿って「初見の文章を分析」する小論文。
- ・ペーパー2は、「授業で採択された2作品を比較」する小論文。
- ・ペーパー1とペーパー2は、「IB協会」によって採点される。
- ・個人口述は、「学校の先生」が採点しIB協会が得点を調整する。
- ・個人口述では、「ペーパー2で使用しない」授業で採択された2作品を比較し、「グローバルイシュー」と関連させて語る必要がある。
- ・個人口述で使用する2作品は、必ず一方が「翻訳作品」、もう一方が「原語で書かれた作品」でなければいけない。

■スタンダードレベルとハイヤーレベルの違い

- ・スタンダードレベルとハイヤーレベルの差は、「質ではなく量」の差になっている。
- ・スタンダードレベルでは「7冊」、ハイヤーレベルでは「10冊」を読む。
- ・スタンダードレベルは「3種類」、ハイヤーレベルでは「4種類」の文学形式を読む。
- ・ハイヤーレベルの生徒のみ、「HL小論文」の提出が求められる
- ・ハイヤーレベルの生徒のみ、ペーパー1で「2題とも」回答する必要がある。
- ・スタンダードレベルの生徒は、ペーパー1で「1題」選択して回答する必要がある。
- ・スタンダードレベルでも、ハイヤーレベルでも、試験の評価規準は「変わらない」

■IB「言語 A：文学」科目概要

https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/cb-lit-2021_jp.pdf

■試験問題のサンプル (IB協会より-2011年度形式のため参考)

<https://www.ibo.org/contentassets/93f68f8b322141c9b113fb3e3fe11659/japanese-a-lit-specimen-and-marking-notes.pdf>

(図 6-1)「全体のまとめ」(「IB『日本語 A：文学』オリエンテーション」より-筆者作成)

「IB文学：日本語A」はどんなものか

■「IB文学：日本語A」とは何か？

一言で言えば、「IB文学：日本語A」とは「分析・論述・プレゼン」です。

具体的には、文章を自力で読み「普遍的なテーマ」「筆者の意図」「技法と効果のつながり」「作者、時代、社会的背景」を、論述し口頭でプレゼンテーションする必要があります。学校の提出課題については、ワードやパワーポイントなどのソフトを使えます。**しかし、学校の半期ごとの試験やIBの本試験は、ペンを使って原稿用紙に手書きです。**そのため、IBDPに入る前に、以下3点の能力があることが前提になります。

■IBがスタートする前に必要な国語力

- ・自力で小説・評論を1冊読む力
- ・自分の意見をまとめ、プレゼンテーションができる力
- ・日本語で論理を組み立て、漢検3級程度の漢字を使い文章を書ける力

■「IB文学：日本語A」の科目の要件はどのようなものか

学習する文学テキスト	SL	HL
翻訳作品	最低2作品	最低3作品
日本語原作の作品	最低3作品	最低4作品
自由選択（指定作家リスト外でも可）	2作品・セルフポートは自由選択なし	3作品
作品合計数	7作品	10作品
文学形式（評論、小説、詩、戯曲など）	3ジャンル	4ジャンル
時代（世紀が変われば、違う時代とする）	3つの時代	3つの時代
場所（舞台となる国や大陸の選択）	3力国で	3力国で
	2大陸以上	2大陸以上
総授業時間	150	240
テスト（IBの本試験）	SL	HL
試験問題1：設問つき文学分析	2つの選択肢の中から 1つ分析を行う	2つの設問に対して 分析を行う
初めて読む文学作品の抜粋や 文学テキストについて、 設問に応じて分析を行う	1時間15分 35%分の評価、 20点満点	2時間15分 35%分の評価、 40点満点
試験問題2：比較小論文	1時間45分	1時間45分
4つの一般的な質問で構成され、 学習した2作品について小論文を書く	全体の35%の評価、 25点満点	全体の25%の評価、 25点満点
HL小論文（HLのみ）	なし	2400字から3000字の 制限あり 全体の20%、 20点満点
学習した文学テキストが作品に 関連した探究に取り組んだもの。		
内部評価について	SL	HL
個人口述（15分）		
翻訳作品一つを含む2作品からの 抜粋を元に、生徒が10分間で発表、 その後5分間グローバルイシューとの 関連について教師から質問を受ける。	全体の30%、 40点満点	全体の20%、 40点満点

■学校の授業はどう進行するのか

採択される文学作品は学校、年度によって異なります。学校での授業形式は、「自分で作品を下読みし、その上で授業中に討論をして、課題を提出」という流れです。学校の評定は授業中に出される課題と半期ごとの試験でつきます。最終学年前期の評定は、大学出願のためプレディクテッドスコアとして使われるので特に重要です。

サンプルA校での採択文学テキスト

『われらの時代』大江健三郎、『欲望という名の電車』テネシー・ウィリアムズ
 『鼻』『地獄変』芥川龍之介、『中原中也詩集』中原中也、『野火』大岡昇平など

サンプルB校での採択文学テキスト

『人形の家』イブセン、『智恵子抄』高村光太郎、『竹取物語』作者不詳
 『羅生門、藪の中、地獄変』芥川龍之介、『華岡青洲の妻』有吉佐和子など

■ハイヤーレベル（HL）とスタンダードレベル（SL）はどう違うのか？

スタンダードと、ハイヤーレベルの差は、難易度の差ではなく、授業時間の長さや扱う課題の数によって区別されています。また、ハイヤーレベルのみ「HL小論文」という追加課題があります。海外の学校では多くの場合、日本語担当の講師は一名しか在籍していないと思われ、スタンダード、ハイヤーレベルで講師が分かれることはないかと思えます。そして、全員がスタンダードレベルの授業には参加し、ハイヤーレベルの生徒は別途に授業コマが設けられており、ここで追加分の作品を読んでいくという形になっています。

■「IB文学：日本語A」はどのように評価されるのか

- ・IBの本試験は、外部評価と呼ばれる「ペーパー1」と「ペーパー2」、内部評価と呼ばれる「個人口述」という三本柱でできています。
- ・ペーパー1、ペーパー2ともに、試験の形式は「手書きの小論文」が課されます。
- ・個人口述は、小論文の試験ではなく、「プレゼンテーション」の形式になっています。
- ・学校での試験は「プレディクテッドスコア」に使われ、問題はIB本試験に類似したものを「学校の先生」が作成します。
- ・ハイヤーレベルのみ「HL小論文」という探求を目的とした小論文作成が課されます。

■どうすれば、小論文が書けるようになるのか？

論理と主張のパターンは型が決まっていますから、書いて、添削されるという流れを繰り返せば、必ず書けるようになります。ただし、漢字・語句は漢検などで復習が必要です。そして、小学生なら季節講習会の作文講座、中学生なら通常授業の国語を取るのが近道かと思えます。小論文は感覚や才能ではなく、技術の問題ですから経験と時間で必ず上達します。

■事前にどのような学びを進めていけば良いのか？

学校や塾で中3まで国語のカリキュラムを履修しているか、補習校で中3内容を修了していることは有利に働きます。塾では、ジャンルごとの読み方を指導していますし、補習校では「書く」ことに対して明確な指導があるからです。

残念ながら、日本人であり日本語がネイティブだからという条件だけでは、IB日本語Aで7（最高得点）を取れることはありません。むしろ、IBスタートの学年に近づくにつれ、科目選択で日本語をあきらめることもあります。それは他の外国語を取った方がIBスコアがよいだろうという見通しと、将来の就職のために中国語等の外国語を身に着けた方が有利だという、きわめて現実的な判断によるものです。

それでも、IBの理念でも母国語の習得は重要なものと位置づけられており、将来海外で働くことを考えても、母国語でのレポート制作や、論理的なプレゼンテーションが求められる可能性は高いため挑戦する価値があります。また、他の外国語を選択しても、日本語と全く同様の難易度、カリキュラムで構築されていることを踏まえる必要があります。

■類似科目との差異点

ネイティブ向けの科目である日本語Aには「文学」「言語と文学」の2種類があり、外国語学習としての日本語には、「初級外国語」（ab initio）と「言語B」があります。開講科目は学校により異なります。この教材では、「IB文学：日本語A」と扱いますが、「文学」は、小説・戯曲・詩・評論、「言語と文学」は文学プラス、広告・新聞・演説等の他メディアの分析を含むのが大きな違いです。英語などの他言語でも、同じ科目名であれば基本的にカリキュラムは同一です。日本でイメージするような検定教科書はありません。学校の先生が「指定作家リスト」の中から作品を選択し授業を行いますので、学校の先生や年度によって読まれる作品が異なるのが特徴です。また、英語と日本語で同じ本を選択されることはありません。

（図 6-2）『IB文学：日本語A』はどんなものか？

（「IB『日本語A：文学』オリエンテーション」より-筆者作成）

6.3 グランドルールを決めると、オンラインでもムードが決まってくる

教室での私は Google ドライブを使い、オンライン上で高校生たちが情報を編集できる Google ドキュメントを使用している。私は、紙メディアの授業からオンラインに移る際に、「グランドルール」を設定した。これは、端的に言えば著作権と他者に配慮した授業を進めるための基準だ。以下はそれを一部改変し掲載する。これは教室で対面型の授業を基本としているため、今はある程度のユーモアをもって伝わるが、Moodle で実装した際にはユーモアが強制、おしつけとして伝わる可能性も考慮して書く必要があるだろう。ただし、いわゆる約款や学生規則は別に設定されているので、ここではあくまで指導者側の指針として書くことが大切だ。

私から守って頂きたいルールはこれだけです。

皆さんはフォルダ内のファイルのダウンロードが可能になっています。将来的にはワードファイルは共有ファイルとして同時編集ができるようにしようと考えています。つまり、皆さんが書いた言葉は、後輩たちによっても読まれ参考となります。紳士・淑女として皆さんを扱うのは早いかもしれませんが、個人情報、他者を批難する内容、法に反する内容を書き込むことを許しません。

私も含め他者が書いたものや作ったものを参考にするのは構いませんが、皆さんの著作物ではないものは、そのまま学校や本番で提出することはできません。学校や本番で提出できるのは、皆さんの頭と手を通ったものだけです。他者の思考と作品をそのままコピーして提出する方は、学問的誠実性に反しているので私の教え子ではありません。

この授業では講師が答えをもっていない、間は自分で立て、答えも自分で探るのが一番の面白みです。一方で、沈黙は金ではなく、アイデアを出して、話しあうことが大切。自分の意見が批判されることと、自分が否定されることは分けて考えること。言葉はナイフだから、使い道を覚えていってください。自分と他者とこの環境を大切に、明日も学べるようにお願いします。

6.4 オンラインの教材を触ること自体が、チュートリアルになる

オリエンテーションのパートは、「日本語 A：文学」がどういうものかがわかるまでのパートだが、実際には Moodle というものを触ることのチュートリアルでもある。どこに何が設置されているのかという画面上のデザインを、体感的にわかるためにこの時間がある。

動画を撮るなどして、実際のビデオゲームのようなチュートリアルを作ることも可能だが、それはむしろ学習者のためにならない。むしろ触り方がわからなければ、彼ら彼女らが直接 Youtube など検索するか、同じ高校生同士でやりとりすることで解決するだろう。むしろ、大きい考え方ではこの科目で Moodle を触っておくことによって、高校生が大学に進学した際に、同様の LMS に触れる際に有効だろう。それを伝えておく方が、彼らにとって ARCS-V モデルでの「注意」や「関連性」を引き出すきっかけにもなるかもしれない。⁶⁴

6.5 オンラインだからこそ、意図してダブリ、モレを用意する。

オリエンテーションのパートは、試験形式などについての知識を伝達するため、他のパートとの重複も含まれる。例えば、次の章で説明するペーパー 1 の試験形式については、このパートでも確認でき、ペーパー 1 のパートでも確認できる。しかし、このダブリは残しておく、両方ともに必須の課題とはしないことを念頭に置いておきたい。

これは、紙の教材との特性の違いがあるからだ。オンラインの場合、どこに載っていたかを思い出すのは、物理的な紙よりも難しい。そして同じ画面にない限りはその言葉は検索キーを使っても探せない。携帯電話版の Moodle であれば、PC と異なってタブを使って複数の画面を比較することが難しい。

だから、こっちにも載っておりこっちにも載っているという作りは学習者にとっては探しやすいだろうと予測する。ただし、上に書いたように課題を重複して設けるのは禁物で、どちらも達成しないといけないというデザインはフラグを立て忘れるハマリを作りやすい。そっと参照のために置いてあり、見なくても気づかなくても進めるというのが望ましい。

⁶⁴ J.M.ケラー著 鈴木克明監訳：“学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン”，北大路書房,京都,pp47 (2010)

第7章

ペーパー1のパートと Moodle 試作版の評価

エグゼクティブサマリー

ペーパー1は、初見の文学テキストを分析し、規定時間内に手書きで小論文を書く試験形式だ。小説・戯曲・詩歌・ノンフィクションという4つの文学形式から選択されるが、学校で読んだ文学テキストからは出題されない。そのため、文学形式ごとの読み方と小論文を書くための型が身につけていれば、学年や習熟度に関わらず実施し評価できるという特性がある。そのため、本パートは実際の Moodle 上での教材の試作を行う。

問題文は著作権に配慮し「青空文庫」から引用したテキストを使用し、書き込みや印刷した際の利便性を考え PDF で表示する。回答の形式も同様に、学習者が原稿用紙を PDF 化して Moodle 上でアップロードする形をとるが、これは講師・教師が添削しフィードバックを与えることが前提となる。このパートを習熟することで、学習者は後述するペーパー2型小論文を書くための能力の涵養にもつながるため、カリキュラムとしても基本かつ重要なパートとなる。

紙での教材を作成し、それを Moodle で実装するという流れで進めたところ、試作段階で紙や教室での授業と Moodle というメディアでの差があることに気づいた。特に、具体的な作業指示がないものは Moodle では学習できないため、文字や直感的にわかるグラフィックの用意が別途必要であること、またリアルタイムの授業で暗黙知となっている部分をいかにアルゴリズムとして言語化していくかが試作段階では鍵だとわかった。

今回の試作版の評価に当たってはお二方の専門家によるご協力を頂いた。専門家レビューを経て、これまで学んできたインストラクショナルデザインを活用しながら Moodle での教材が構成できていることが確認された。一方で、IB 機構が設定したルーブリックを使用した採点は、研究目的である試作や実際のセルフポートの指導でしか使用できない。そのため、研究を越えた将来的な運用方法については現段階では結論を出さず今後の課題とする。

7.1 ペーパー1という試験形式

ペーパー1は、初見の文章を分析し、手書きで小論文を書く試験形式だ。問題は、小説・

戯曲・詩歌・ノンフィクションという 4 つの文学形式から、異なる 2 つの文学形式が選ばれて問題が作られる。文学テキストはそれぞれ 1-2 ページ程度の分量で抜粋され、「考察を促す問」と呼ばれるヒントが添えられる。スタンダードレベルの学習者は 2 題の内から 1 題を選択し 75 分で回答、ハイヤーレベルでの学習者は 115 分で 2 題とも回答する必要がある。学習者が書く量としては、スタンダードレベルは原稿用紙 4-5 枚程度、ハイヤーレベルは原稿用紙 8-10 枚程度が求められる。採点については、「理解と解釈」、「分析と評価」、「焦点と構成」、「言語」という 4 つの「規準」があり規定のルーブリックによって各規準に 5 点ずつが配点され一題が合計 20 点満点、ハイヤーレベルは 2 題それぞれ採点され合計 40 満点となる。

「日本語 A : 文学」の“ねらい”を踏まえると「さまざまな媒体や形式、異なる時代、スタイル（文体）、文化からの多様なテキストに触れる」、「話す、読む、書く、見る、発表する、およびパフォーマンスのスキルを伸ばす」、「解釈や分析、評価のスキルを伸ばす」、「テキストのフォーマルで美的な性質への感性を磨き、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる」という点に関連している。⁶⁵

この中で、最も重要なのは時間内に分析、解釈と評価することで、その力の発揮には自在に書ける表現力が重要となる。ただし、後述する「ペーパー 2」と比べ、書く枚数が少ないため論述の方法は三段論法や起承転結型のようにある程度の「型」を身に付けて書くことが有効であり、問題として提示される抜粋文の分析にも一定のパターンがある。そのため、複数の問題を解き、有効な添削を受け、自ら推敲していくことで技術を身に付けられるパートだといえる。

ペーパー 1 は、学校で本を読み終えた後の総括的評価の一つとして使われることもある。例えば、戯曲である『人形の家』（イプセン）を読み終えた後に、ペーパー 1 の過去問を使用して戯曲の文学形式を出題するという流れだ。つまり、『人形の家』という作品の内容理解と問題意識の伸長には授業内での課題を与え、戯曲という文学形式の読みと分析のスキルを確認するためにペーパー 1 型の試験が援用されるということだ。ただし、この辺の評価方法は学校や教師によって異なるため一様ではない。⁶⁶

⁶⁵ 国際バカロレア機構: “「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp. 17 (2019)

⁶⁶ 1 作品でペーパー 2 型小論文を書くスタイルや、個人口述に似せた問題を自分で作りプレゼンテーションで評価す

また、「日本語 A：文学」は学校や学年により授業中に読まれるテキストが多様なのに対して、ペーパー 1 の問題は授業中の採択テキストに依拠しない。だから、「日本語 A：文学」という科目を受講していれば、どの国でもどの学校でも同じ問題が使用できる。これはどういう意味かということ、ペーパー 2 であればどんな採択テキストでも汎用的に使えるように問題は抽象的に設定されているが、授業では学校の先生が個別で具体的な小問を設定し、その上でディスカッションを積み上げ、学習者がそれぞれの問題意識を伸ばしていく。しかし、ペーパー 1 の問題は授業で読んだテキストに依拠しないので、問題が独立している。だから、4 つ文学形式について読み方の基礎とレトリックを知り、小論文の形式に習熟することで学習者はこの試験に対応できる。逆から言うと、小論文の形式に習熟させるためにペーパー 1 を使うことで、この後のペーパー 2 への準備となるという考え方もできるだろう。

書かれた小論文は本試験の場合は外部評価として国際バカロレア機構の採点官が規定のルーブリックを元に採点する。学校の総括的な評価に用いる場合は、学校の先生が同様のルーブリックで採点を行う。試験形式がペンを用いた手書きの小論文であるため、現在の段階では紙の原紙を提出するのが基本だ。なお、添削方法については、規定のルーブリックがあるため、文学テキストと回答となる小論文の両方がテキストデータであれば、AI による採点が近い将来できる可能性が高い。敢えて言えば、正規の方法で規定のルーブリックを入手することができていれば、それを元に「このルーブリックを用いて採点を行ってください」などのプロンプトで現在でも個人なら自動採点を行えるだろう。しかし、問題は誰のためにそれが必要で、将来どこにつながるのかという知恵を働かせることだ。技術的に可能だから作って頒布してよいということにはならない。国際バカロレア機構は採点規準としてのルーブリックに著作権を所持している。ルーブリックが記載されている『「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験』を第三者が“Follett IB Store “で購入したとしても、その個人はそれを公開する権利はない。むしろ国際バカロレア機構は、著作権とその使用範囲について例示し明確な立場を取っている。だから、この点は文学テキストの著作権とともに、実際の高校生への指導でも注意を払わなくてはならない点だろう。⁶⁷

る方法を併用するなど、学校の先生は評価方法を様々に工夫している。

⁶⁷ 第三者は“Follett IB Store “での教材購入自体は可能だが、複製権は IB 認定校とその教師のみに認められる。

International Baccalaureate Organization:“ Rules for use of IB Intellectual Property”

<https://www.ibo.org/terms-and-conditions/intellectual-property/> (参照 2025.12.30)

このように、ペーパー 1 は規定時間内に抜粋文を分析し論述する小論文の形式であり、学校の先生の採択テキストに左右されずに書くスキルを伸ばすことができる。そのため、作成した問題の汎用性が高いことから、試作を作るのであればこのパートから作るべきだと判断した。

7.2 実際の試作を作る際の条件

著作権に配慮した教材で文学形式ごとの読み方を身に着け、分析のための着眼点や小論文にしていくコツをつかみ、時間内にペーパー 1 型小論文が書けるように訓練できるものを作るというのが条件だ。

まず、ペーパー 1 は文学テキストからの抜粋が必須となるため、問題となる文章は著作権の切れたテキストデータを豊富に持つ「青空文庫」から引用する。表示形式は、epub 形式の縦書きの仕様をストレスなしに読ませるには作業工数の困難さがあるため、PDF での提供とする。epub 形式の縦書きは、HTML で改行をコントロールする必要があり、太字などの装飾は CSS での入力求められるため、ワードなどのソフトを使用したほうが現状では見やすい教材になり、かつ印刷・ダウンロードも簡便だからだ。

基本的な修辞法、例えば直喩・暗喩・擬人法などの技法や原稿用紙の使い方などは、ここでは触れない。将来的には「知識分野だけを身につけるパート」に入れることもできるが、それは「日本語 A：文学」という科目の本質ではなく、ほとんどの知識はインターネット上で検索できるものだからだ。むしろ本質は、ガニエの学習成果の 5 分類における「知的技能」、「認知的方略」、「運動技能」の組み合わせにある。時間内に文章を読み取り、小論文として提出することが必要だからだ。

以上のような条件を踏まえ、高校生たちには以下の到達目標を提示し、事前に習得してほしい内容を明示する。

- ・ペーパー1の要件を知り、「分析」とは何かがわかること
- ・メモを取り、ディスカッションをすることで、分析の視点を増やすこと
- ・自分の書きやすいジャンルと、描きにくいジャンルを知ること
- ・小説/戯曲/評論（随筆）/詩歌の4ジャンルから、少なくとも2つの小論文を書くこと
- ・規準 ABCD について、自分がどこに強みがあるのか、弱点があることを知ること
- ・推敲や省察により、時間内に質の高い小論文を書き上げる条件をつかむこと

・初見のペーパー 1 の問題に、実際の 75 分間で挑戦し、手書きで書きあげること
文章のジャンルについては、『「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験』では、「文学形式」と表記されているが、教材中では理解のしやすさから「ジャンル」としている。

さて、この到達目標を元に、学びたいレベルから自分が問題を選び進めていけるようなデザインを考える。紙版の教材は左から右に読むが、Moodle 版の方は上から下への進行になるので、到達目標の上にかかれているものから、下に向かって教材が見られるようにする。つまに、前に戻りたい場合は単純に上を見ればよく、既に知っていることであれば下の方に飛ばしていけばよい。

最終的な課題の小論文は PDF を Moodle 上で提出できるようにし、指導者が規定の採点ルーブリックに基づいて採点し、学習者にフィードバックを与える仕組みを作る。最後に、困った時に指導者に相談できるためのメールアドレスやディスカッションのためのフォーラムを設定しておく。校舎では当然電話も受け Zoom でも面談ができるか、前章で想定した漣さんのケースなどを考え、ここのパートは対面型授業がなくても成立するようにしておきたい。時間内に読み、小論文を書くという問題のスタイルだからだ。

7.3 制作の手順について

今回は実際の学習塾の 2025 年冬期講習会の教材としてまず紙のバージョンで教材を制作し、その後 Moodle での実装を行った。紙の教材は 4 つの文学形式について、抜粋文を分析しながらディスカッションし、その内 2 つの文学形式についてペーパー 1 型の試験を行う流れで構成されている。

想定する授業時間は、1 日 1 コマ 80 分の授業があり計 6 コマの 480 分（8 時間）だ。これは、前章の『「日本語 A：文学」のコースデザインを考える』で書いた通り、ペーパー 1 型試験の学習に充てられる時間は 10 時間だから、条件よりも短い時間での設定になっている。紙バージョンを使った教室での授業提供は、教室での対面型と Zoom 併用型で、欠席者には録画を送る形でフォローする。同時参加人数は講師が小論文を採点する時間を考え最大 10 名とする。Moodle 版では前節のように対面型がなくても成立するデザインを目指す。

紙のバージョンの教材の基本的な部分は、既に長い時間使われ改版を重ねている。例えば、「学習目標とペーパー 1 の要件について」、「ペーパー 1-穴埋めチェックシート」、「『分析』とは何か」、「実際に書くときのポイント」という項目は 2022 年の春期講習会から実地

で使用しており、講習会は春期・夏期・冬期の年3回ある。実際には12回の機会 で延べ90人が使用している。抜粋文、つまり問題の方は毎回新しく作るのだが、今回は研究のことも考え、過去に使用した問題を多くし、新規の問題作成は詩歌のみにした。戯曲とノンフィクションは過去に10名が授業に参加したものを 選び、小説は過去5名が参加したものを 選択した。これらは、Moodle で実装し教室や Zoom での授業と比べる際、元となる教材の安定度を保障するために記載している。

紙版の教材はパワーポイントで作成し、印刷した際に無駄なページが出ないように普段は12ページか16ページ組としている。A3サイズの紙で製本するので、実際の教材の1ページのサイズはA4となる。これはB4サイズの紙がシンガポールだと希少だということと、実際に抜粋文の分析を行う際にB4サイズの用紙で作るとメモを取るスペースが十分ではないからだ。Moodle版の方は紙バージョンをPDF版にしたものをダウンロードできるものを作りつつ、そのままテキストとしても画面上で読めるようにするという二重の形式をとった。これは、携帯電話で移動中に読みたい場合などは画面での表示が縦横切り替えられる Moodle での画面が良いだろうと考え、また自宅で落ち着いて学ぶ方や印刷して書き込みたい方はPDF版があった方が便利だろうと考えたからだ。このあたりは前章の「6.4 オンラインだからこそ、意図してダブリ、モレを用意する」と同じ考えで行っている。

7.4 紙版と Moodle 試作版での実際のコンテンツの比較

以下はサンプルとして、紙版で制作した教材と、Moodle で実装した試作版を比較する。

シンプルに追加が必要だったのは、(図1) 小説の分析のページ (Moodle 版) をご覧いただく とわかる。これは教室や ZOOM での授業の時は、画面下部分のピラミッドを下向きにした図を板書し、音声で説明するだけでよかった。あるいは、基本的な小説の読解ができるタイプの高校生が集まっている場合は、「場面・出来事・心情に着目して、技法があったところだけピックアップして、中心となる内容を探して」という音声の指示だけでも分析に入れた。しかし、Moodle で学習する場合は、その学習者のレベルが画面の外からはわからない。だから、試作版の今回は必要なことは全て文字や図であらわすというシンプルな解決法を採らざるを得なかった。

同様に、同じ抜粋文を読んで教室でディスカッションする流れは Moodle 版はフォーラムを用意した。ここは、分析という考えを小さな問題に置き換え、それを考えていくことで中

心となる内容や考察を促す問に近づくような、暗黙知になっている部分を具体的なアルゴリズムへ置き換えることを試した。

このあたりは中間審査の際に副指導の喜多先生より、紙で作った教材をそのまま Moodle に移すのでは教育効果が得られにくいこと、オンラインであるからこそその障壁を打破する方策を考えるべき(=オンラインの方がむしろ指導には手数がかかるはず)という意見を頂いていたことが参考になった。現実的には、紙版の教材が 16 P で、Moodle 版の教材は 20P の文字量が必要だった。

IB日本語ペーパー1冬期 / 小説の分析

小説の分析

バルク操作

完了

■小説の分析のコツ

①まず、「何が書かれているのか?」を見つける-規準Aの読み

小説なら、場面・出来事・心情の動き、人称などの語り方を見つけること

小説はどのような要素でできているのかを考えてみます。小説を読書として読み進める場合は意識しないでしょう。しかし、分析の場合は要素に分けて、どのようなつながりになっているかを説明する必要があります。まず、読者側からの要素に分けてみると下の図のようになります。

場面は、人物・場所・時間という3つに分けられ、この後に起きる出来事の前提を作ります。もしも、回想から現在に戻ってきたという場合は時間が変わったと考え場面は変わります。新しい場所に移った時や、翌日や三年後という時間が変化した場合も場面の变化として捉えます。

出来事というのは、この場面で何が起きるかということです。小説の一つのルールとして、出来事が起きたら登場人物は何らかの反応を見せますから、次の段階の心情を読みに行きます。

心情は、直接的に描写されることはあまりなく、「表情」「行動」「台詞」に表れることが多いものです。そのため、顔と手足と台詞に注目すると登場人物の心情がつかめます。その時に一人称視点であれば、主人公が何を感じたかが直接的に書かれ、三人称視点であれば地の文で間接的に書かれます。

場面・出来事・心情・行動は因果関係で結ばれ、登場人物の性格や人物像が見えることがあります。ペーパー1で出題される文章は1-2ページでしょうから、そこまで深く読み取れない時もあります。しかし、少なくとも「目の前の出来事について、主人公はどこに注目して、何を感じたか」は、課題文の中心を読み取るのに必要です。

②「考察を促す問い」をヒントとして、筆者の意図を考える-規準Bの読み

小説なら、人称と語り方、人物関係、特徴のある表現

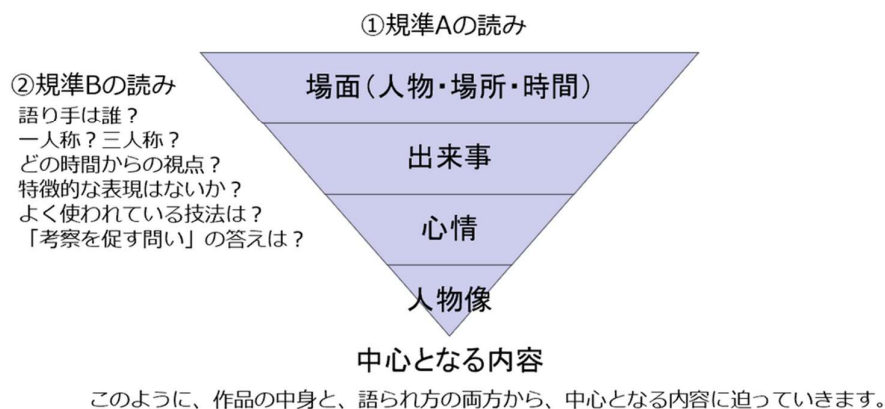
次に、「考察を促す問い」を使いながら、小説がどのように書かれているかを作者の視点から読み解いてみます。すると、以下のような要素が見えてきます。例えば、視点や語り方の特徴は何か、どのような人物が配置されているか、特徴的な表現は何かということなのです。

視点や語り方は、この場面がどのような立場から語られているのかを示します。やや極端な言い方ですが、私達は世界の全てを同時に感じることはできません。ですから、誰が見た世界で、どこから語られているのかを決めるのが視点や語り方です。例えば、全てが過去形で語られている場合、語り手はこの物語の結末を知っている可能性が高いということが暗示されます。

次に人物の配置についてです。短い場面の引用の場合は、登場人物が多数になることは少ないでしょうが、孤独なのか、対立関係なのか、主と従なのかなど、どのような配役なのかは中心となる内容につながります。二人の登場人物×三人称視点であれば、二人が共有している内容が中心になるでしょう。

最後に特徴的な表現についてです。これはモチーフ、つまり象徴的な題材として現れる場合や、ある技法が繰り返し現れる場合、また五感を使用した表現などがあります。言いたいことを効果的に伝えるのが技法（修辞法＝レトリックと言います）ですから、言葉の面にも注目します。

これらは、読者を「中心となる内容」に連れていくためのいわば、「作者が作った道案内」という言い方もできます。だから、皆さんが考えなければいけないのは、「どういう内容を効果的に伝えるために、この方法が選ばれたのか」という考え方です。



(図 7-1) 小説の分析のページ (Moodle 版)

紙面では下側にある図を板書して口頭で説明するだけだった

フォーラム
問題:芥川龍之介『手巾』の分析メモとディスカッション

フォーラム 設定 高度な設定 購読 レポート さらに▼

✓ 完了: ディスカッションを開始する。1

小説の分析メモを作ってみましょう。

小説の教材PDFに直接手書きでマークしたりメモを取ったものを写真にとってPDFとして送ってみてください。

他の人のPDFで、自分がない点が見つかったら、それをコメントとして指摘してあげてください。

全てに気づくことはできませんが、一緒に学ぶ他者から良い着眼点が得られることはよくあります。

どういう視点で分析すればよいかは、私が質問を以下に書いておきますが、全て回答しないと小論文が書けないわけではありません。

あくまで参考にどうぞ。

なお、①と②は書きながら見えてくることもよくあります。

ですから、時間が足りない場合は、③くらいまでに簡単な答えを出してから書き始めます。

①登場人物は何人いて、ここはいつで、どこでしょうか。

登場人物が初めて出てきたところで、名前にマークしてください。

今この場所や時間を表す表現があったらマークしておいてください。

ここはどこで、今は何時くらいですか、あるいは季節はいつくらいでしょうか。

②この小説は誰からの視点で描かれていますか。

それがわかる表現をマークしておいてください。

③この小説の主人公はどんな性格ですか、あるいはどのような仕事をしていますか。

それがわかる表現をマークしておいてください。

④「婦人」は何をしにここにきているのでしょうか、主人公とはどのような関係ですか。

⑤この小説の中心となる出来事は何でしょうか。

⑥主人公は中心となる出来事に対して、どのような反応を示していますか。

⑦特徴的な表現や、象徴的に使われているものはどのようなものでしたか。

⑧使われている技法や言い回しで目立った表現はどこでしたか？

⑨考察を促す問にはどのように答えればよいでしょうか。

⑩さて、この課題文の中心となる内容はどのようなものでしょうか。

フォーラムを検索する



ディスカッショントピックを追加する

(図 7-2) 小説のフォーラムページ (Moodle 版)

教室では注目する点を口頭で指示し、複数人でディスカッションしていた

「分析」とは何か

■分析とは（講師より）

分析とは、「本質的な要素または構造を明らかにするために分解」すること（『指導の手引き』より）です。これではまだわかりませんから、もう少しかみ砕きます。私の考えでは、「あなたが見つけた中心となる内容を、筆者がどのような形式や技法を用いて書いたのか」を説明することです。

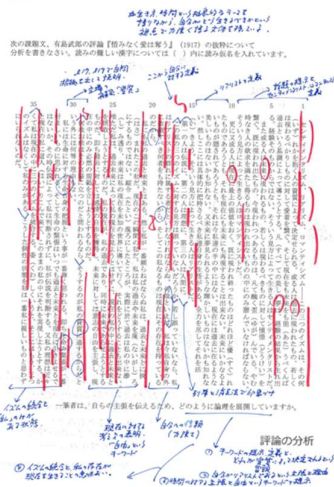
まず、テキストに書かれていることを読み、抜粋文が一体何を中心に書かれているのかを考えます。これは、ジャンルごとに習った読み方を使い、小説・詩歌なら場面（情景）・出来事・心情、評論・随筆なら筆者の主張をつかむことです。

次に、「考察を促す問い」が、形式や技法に対して言及しているので、ここから作者の意図を見つけます。これは、作者が書きたいことが、どのような手法を使って表現されているかを見つけるということです。

言い換えれば、あなたが読むことはテキストの中心となる内容を見つけることにつながり、「考察を促す問い」は形式や技法、表現の特徴からテキストの中心となる内容につながるため、内容の把握と、表現の方法の二方向からテキストの中心に迫っていくことができます。具体的には、抜粋文にメモを入れながら、明示されている要素を洗い出しておくことが最初の作業です。

次に、「理路整然とし、一貫性をもち、焦点が絞られた分析」のために、書くための要素を整理します。全てを時間内に論述することは不可能ですから、「あなたが見つけた中心となる内容を、筆者はどのような形式や技法を用いて書いたのか」を書いていきます。

書き方については、序論・本論・結論という流れで、段落構成をするのが一般的です。ヒントとしては、最初の方で全体的な意味内容を伝え、特徴的な表現を例示しながら、作者の意図に迫っていく形が、結論段落に進みやすいと思います。ただし、書き方はその人のスタイルであり、練習が必要です。よほど文章を書くことに慣れている人以外は、要素の洗い出し（メモを作ること）をせずに、完結することは不可能ではないかと考えます。しかし、練習すれば必ずかけるようになるのがペーパー1であり、初見の文章を読んで書くという条件は全世界で一緒ですから、恐れる必要はありません。



講師もこんな風に真剣にメモを取って考えています。
7-10分くらい技法や印象的な箇所についてマークします。

(図 7-3) 分析とは何か（紙バージョンの教材）

IB日本語ペーパー1冬期 / 「分析」とは何か

「分析」とは何か

✓完了

■分析とは（講師より）

分析とは、「本質的な要素または構造を明らかにするために分解」すること（『指導の手引き』より）です。これではまだわかりませんから、もう少しかみ砕きます。私の考えでは、「あなたが見つけた中心となる内容を、筆者がどのような形式や技法を用いて書いたのか」を説明することです。

まず、テキストに書かれていることを読み、抜粋文が一体何を中心に書かれているのかを考えます。これは、ジャンルごとに習った読み方を使い、小説・詩歌なら場面（情景）・出来事・心情、評論・随筆なら筆者の主張をつかむことです。

次に、「考察を促す問い」が、形式や技法に対して言及しているので、ここから作者の意図を見つけます。これは、作者が書きたいことが、どのような手法を使って表現されているかを見つけるということです。

言い換えれば、あなたが読むことはテキストの中心となる内容を見つけることにつながり、「考察を促す問い」は形式や技法、表現の特徴からテキストの中心となる内容につながるため、内容の把握と、表現の方法の二方向からテキストの中心に迫っていくことができます。具体的には、抜粋文にメモを入れながら、明示されている要素を洗い出しておくことが最初の作業です。


次に、「理路整然とし、一貫性をもち、焦点が絞られた分析」のために、書くための要素を整理します。全てを時間内に論述することは不可能ですから、「あなたが見つけた中心となる内容を、筆者がどのような形式や技法を用いて書いたのか」を書いていきます。

書き方については、序論・本論・結論という流れで、段落構成をするのが一般的です。ヒントとしては、最初の方で全体的な意味内容を伝え、特徴的な表現を例示しながら、作者の意図に迫っていく形が、結論段落に進みやすいと思います。ただし、書き方はその人のスタイルであり、練習が必要です。よっぽど文章を書くことに慣れている人以外は、要素の洗い出し（メモを作ること）をせずに、完結することは不可能ではないかと考えます。しかし、練習すれば必ずかけるようになるのがペーパー1であり、初見の文章を読んで書くという条件は全世界で一緒ですから、恐れる必要はありません。

 PDF-「分析」とは何か PDF

 TRY:遊びから考える-分析とは何か？

IB日本語ペーパー1冬期 / 「分析」とは何か / TRY:遊びから考える-分析とは何か？

 TRY:遊びから考える-分析とは何か？

フォーラム 設定 高度な設定 購読 レポート さらに▼

例えば、以下の二つの問題を考えてみてください。

- ①あなたの毎日は、どのような要素から成り立っていますか？
- ②あなたを表現するには、どのような要素を説明すればよいと思いますか？
- ③さて、①番と②番を語っているのは誰でしょう、その視点によって要素は変わりますか？

 フォーラムを検索する



ディスカッションピックを追加する

(図 7-4) 分析とは何か (Moodle 版)

Moodle 版は分析ということを他の例で考える試みが追加されている。

ペーパー1-穴埋めチェックシート

前のページから穴埋めテストを作ったので、ペーパー1の採点方法や条件をテストできます。
答えは前のページの下にありますので、答え合わせもできます。知識が必要な方はどうぞ。

■前提条件

- ・SLは、(1)分間で一題について分析する、(2)点満点
- ・HLは、(3)分で二題について分析、20点の問題が2題について採点され40点満点
- ・一題ごとの採点規準は、SL/HLで(4)。
- ・出題されるジャンルは、(5)の4ジャンル
- ・文章は完全に(6)の文章で、学校で読んだ文章からは出題されない
- ・IB指定の原稿用紙の手書きでペンで書く(縦書き・横書きの指定はない)
- ・完全な答えは存在せず、根拠や具体例によるあなたの主張の妥当さが採点規準により評価される。

■評価のされ方

規準A：(7) (5点)

明示される意味への完全かつ鋭敏な理解と、暗示される大意と微妙なニュアンスの解釈
テキストを参照し、考えが効果的に裏付けられていること
→書かれている内容と主題の把握と考えるとよい

規準B：(8) (5点)

テキストの特徴や作者の選択についての洞察力と説得力のある分析と、
それがどのように意味を形成するかについての評価
→文体・技法の効果と、作者がそれを選んだ狙いを説明すること

規準C：(9) (5点)

受験者の考えが効果的に構成され、焦点が絞られ、一貫性があるかどうか
「文学論評となってしまうよう、テキスト全体に対して
総合的に論じることは避けるべきです。
試験問題1で求められるのは、論評ではなく焦点をもったテキスト分析です。
テキストのすべての側面を徹底的に扱おうとする場合、
すべての点をカバーする前に時間切れとなってしまうこともあり、
生徒にとって不利になります。」(『言語A教師用参考資料』より)

規準D：(10) (5点)

文法、語彙、文の構造が高いレベルの正確さに達しているかと、
言語使用域とスタイルが課題に対して効果的で適切か
→論述に必要なレベルの語彙と、書き言葉での言い回し、語彙の適切さ

選択肢

- (A) 言語 (B) 焦点と構成 (C) 分析と評価 (D) 理解と解釈 (E) 初見
(F) フィクション、ノンフィクション、詩、戯曲 (G) 変わらない (H) 135 (I) 20 (J) 75

(図 7-5) ペーパー1-穴埋めチェックシート(紙バージョンの教材)

紙面では前のページに答が載っており参照できるようになっている。

以上

The screenshot displays the Moodle quiz interface. On the left is a navigation menu with the following items:

- 進行方法とテキストについて
 - PDFテキスト全て-IB日本語ペーパー1...
 - 授業参加時に必要なもの
 - ZOOMアドレス
 - 学習記録ノート
 - ■ 講習会を受けたあとのポイント
 - PDF-授業参加に必要なものと、Z...
 - 何をすればいいか、わからない方は...
- 学習目標とペーパー1の要件
 - ■ 講習会の到達目標（低次から高...
 - ■ ペーパー1型試験の前提条件
 - ■ 評価のされ方/評価規準
 - PDF-学習目標とペーパー1の要件に...
 - 質問がある方はこちらにどうぞ-学習...
- 前提条件のクイズとサンプル問題・論...
 - ペーパー1-穴埋めチェックシート
 - クイズ-4 択形式で知るペーパー1の...**
 - PDF-ペーパー1-穴埋めチェックシート...

Two quiz questions are shown:

問題 2
正解
10.00 / 10.00
問題にフラグを付ける

ハイヤーレベル (HL) は、(3) 分で二題について分析、20点の問題が2題について採点され40点満点のテストです。

- 1. (3) 105
- 2. (3) 1335
- 3. (3) 135 その通りです。単に2倍で150分ではなく、15分間少なくなっているため、書く速さと持久力が問われます。
- 4. (3) 35

あなたの答えは正解です。
正解: (3) 135

問題 3
不正解
0.00 / 10.00
問題にフラグを付ける

一題ごとの採点規準は、スタンダードレベル (SL) とハイヤーレベル (HL) で (4) 。

- 1. (4) かけがえがない そう、私たちが生きているかけがえのない地球よ...。思わず一緒に手を取り合って歌いだしそうですが、狙いはSLとHLで採点規準は変化するでしょうか、ということです。
- 2. (4) かわらはい
- 3. (4) かわらない
- 4. (4) おもしろい

(図 7-6) ペーパー1-穴埋めチェックシート (Moodle 版)

Moodle 版では4 択のクイズとして出題される。

7.5 Moodle 試作版の専門家レビューによる評価

インストラクショナルデザインと国際バカロレアの観点からは、本学の先輩でありインターナショナルスクールの理事も務められた宇野令一郎先生に見て頂いた。IDBP の「日本語 A：文学」という科目と指導の観点では、同科目で IB 機構の教師用セミナーを修了、高校生を実際に指導し、学習塾の校長を務めたご経験を持つ阿部素子先生にご覧いただいた。

宇野先生には録画で私が趣旨を説明した上で、Moodle と PDF 版に触れて頂き、メールで後日ご回答をお預かりした。阿部先生には私が口頭で趣旨を説明した後に、実際にご自身で Moodle や PDF を操作しながら、隣に私がいて口頭で感想や気づいた点をお話頂いた。

私はお二方に「第 5 章 「日本語 A：文学」のコースデザインを考える」の「5.1 解決すべき問題の設定と、対象者を仮定する」について共通して説明した。その上で以下のような質問をお二方に投げかけている。

質問：時差のあるイタリアで学ぶこの 17 歳の高校生、漣 遊さんが、このペーパー 1 型試作教材で学べるには、どのような工夫が必要だと思いますか？

質問：同期型授業が難しい際の、コースデザインや Moodle の作成上気を付けなければいけないところはどのような点だと思いますか？

回答については以下の通りで、書き言葉と話し言葉の整合性については元の意味が変わらないように考えながら筆者が調整した。同じく、研究という文体と前後の文脈に合うように補足が必要な部分は < > 表記で書き足した。

宇野先生からのレビュー

■インストラクショナルデザインの観点からの評価

- ・冒頭の穴埋め式チェックリストは先行オーガナイザーとして機能し、学習の全体像を最初に提示するという点で効果的
- ・4つの文学ジャンルを明確に分け、それぞれに「分析のコツ」を与えている点は、試験の結果を重視する、インストラクショナルデザインらしさと塾的成果志向の双方がよく表れた構成になっている

- ・「分析とは何か」というページに手書きのメモが参考として添付されている点は、学習者の主体的関与やモチベーションを高める仕掛けとして有効
- ・Moodle 上の構成もシンプルで迷いがなく、自己採点を促す設計がなされているため、講習用教材でありながら、独習+添削型でも成立する可能性がある
- ・講習ではディスカッションに時間を充て、インプットや下書きは事前・事後で行うという形を取れば、対面（または Zoom）と非同期学習を組み合わせたブレンディッド型として、非常に完成度の高い運用が可能

■国際バカロレアの観点からの評価

- ・教材は、IB 日本語 A の形式や評価規準に十分に慣れていない生徒であっても、基本情報から試験に臨む姿勢までを体系的に理解できるよう設計されており、IB の評価思想そのものが伝わる構成になっている
- ・「上手な人の技を盗む」「反省と振り返りを区別すること」というメッセージは、IB らしい学習観を体現している重要なポイント

■質問を受けた点

Q1：日本語 A を学び始めて何か月後、または試験の何年前を主な想定としている教材でしょうか。基本から入っている点を踏まえると、DP1 冬（試験約 1 年前）前後の学習者に特に効果が高い教材という印象を持ちました。

（回答）G9 から G11 年生、つまり中 3 から IBDP の初年度までの生徒が中心に想定しています。ペーパー 1 という形式に習熟した生徒には、この教材だけ渡して書いたら添削するから持ってきてくださいという自習で進行できます。下の学年を混ぜているのは、IBDP という特殊な試験形式に慣れるため、先輩の学び方を見るのが有用だからです。

Q2：本教材は、＜評価として＞3→5 レベルへの引き上げを主眼としたものか、あるいは 5→7 を狙う層までを射程に入れているのか、どのレベル帯を主対象として設計されたのかを伺いたいです。Language A とはいえ、受講者のバックグラウンドや日本語力には相当な幅があると推測されます。

(回答) 5 から 6 を狙う層が一番多いと思います。7 を取るのは「時間内で書ける力、段落構成の上手さと語彙のレベルの高さ」が鍵になり、初見の問題に対する対応力を磨く必要があるからです。そのため、7 を狙う生徒が参加の場合は、詩歌だったら詩歌の問題をディスカッションさせておいて、テスト日だけ別の初見の問題を用意してあります。

もともと、リアルな教室での講習会時は、申込者を見てレベル感を想定しています。つまり、教材は既に作ってあっても、私がどの程度しゃべれば生徒たちが解決できるのかという私の側で調整し、上のようにわざと初見の問題を混ぜるなどで難易度を変えているということです。3 から 4 のレベルの生徒は中 3 ・高 1 の学年に多いのですが、添削した教材を「全員分見られるようにする」というルールがあるので、上手に書けなくても先輩の提出物から学べます。

Q3 : 評価規準についても、公式ガイドからの引用を含めて明示されており、「何を見られているのか」を学習者が迷わず把握できる設計になっています。一方で若干気になったのは、
<試作から、知的財産権に配慮した実際の制作に移行する際に>PDF という公式からの引用が、どこまで OK か、というのは気になりました。

(回答) ここが卒業後は課題の一つになると認識していました。私も、IB 機構のループリックを公表して使うことはできないと思います。今回であれば、生徒は学校からループリックを提供されている (=プログラムリソースセンターにアクセスできる学校の教師はその学校の範囲内でリソースを使用できる) ので、生徒は既にループリックを持っています。ですから、セルフポートとして学校側から授業を委託されている講師という「裏付け」がないと、研究から実際の仕事に変化させていく時に難しいだろうと予測しています。

阿部先生からのレビュー

■ 「日本語 A : 文学」と学習者側の反応を想定した観点からの評価

- ・IB 日本語を独学で学ぶということが想像がつかなかったが、条件が細かく示されており、評価規準やステップが細かく作られているので、リアルに学ぶことができそう
- ・<レビュアー自体が>オンライン教材を触るのが苦手なタイプではあるが、ステップが細かいのはわかりやすい

- ・強いて言えば、文字情報が多めなので、<VOD などで>全体の流れをつかめたりするものがあると、そちらの方がよいという生徒もいる
- ・触りながらわかるという生徒もいる一方で、情報伝達は画像や音声で先に知り、後で文字で追うという形の方が簡便に感じる生徒もいる
- ・<全部のタブを>クリックしてしまうので、PDF 版の教材を置く位置は絞った方がよいが、逆に一か所しか見ない生徒もいるのでバランスが必要
- ・<フォーラムなどの設定で>生徒がコメントを打った時に指導者にメールが飛ぶ設定があれば、<指導者と学習者>相互の見落としが減るだろう

■質問を受けた点

Q1 : 他の方のフィードバックは見られる状態にしますか？

(回答) はい、他の人が書いたものを読むことで、小論文は書くことが上手になっていきますので、添削した答案やフィードバックは他の生徒から読めるようにします。

Q2 : 動画を載せたりもできますか？

(回答) はい、今回はリアルタイムの授業との並立を考えた設計でしたが、後日動画をアップロードし、それを見ながら考えるという方法も選べます。

Q3 : <Moodle 上で学習者が押す>完了マークは何のためにありますか？

(回答) オンラインだと、自分がどこまで読んだかわからなくなる場合もあるので、本のしおりのような意味でつけています。ただし、作業に感じる生徒もいると思うので、削ることも可能です。

Q4：解らないときに講師に質問ができる環境がありますか？

(回答) はい、リアルタイムの ZOOM の場合は音声やチャットで対応できますが、非同期の場合もフォーラムが用意され、「何をすればいいのか、わからない方はこちらへ。」というところを設けています。生徒には私のメールアドレスも直接伝えています。ただし、直接聞けるという環境が重要で、質問する人が言語化できるかどうかという問題もあるのではないかと想定しています。

7.6 専門家レビューを受けた後の考察

お二方からの専門家レビューは比較的好意的なもので、これは筆者の予想外であったことを告白する。特に、これまでに科目としてインストラクショナルデザインを履修した際に感じていた違和感、詳しく言えば理念と実際の間にある差が埋まらないことに対する割り切れない葛藤が、昇華したような感覚があった。感想では研究にならないため、なぜこのような結果となったかを考察し、今後活かせる重要な点を整理する。

第一に、今回の試作は初めて作られたものではない。紙の教材は「7.3 制作の手順について」で述べた通り、既に生徒からの数年間の形成的評価を経ており、その上で改善されている。さらに、Moodle では、ほぼ同じ内容を以前に作っていた。「7.4 紙版と Moodle 試作版での実際のコンテンツの比較」でも触れたが、私は喜多先生から紙と Moodle のメディアの違いについてアドバイスを受けている。最初に試作を作った際に喜多先生から頂いたコメントを、私は非常に重く捉えていた。制作者として、作ったことそれ自体を評価してほしい気持ちでいたことを 20 年ぶりに諫められたように感じていたからだ。そのため、今回は Moodle での行き詰りや、気づきにくい点を想定し予め回避策を作っていた。

第二に、要らないものを削いで、複数パートに分けて「日本語 A：文学」を整理する発想を持っていたことが挙げられる。これは、何でもかんでも情報を入れるとオンラインでは必要なことが伝わらないから情報を削減するという考えだった。具体的に、「日本語 A：文学」を 4 つのパートに分けて開発を進める構想は、第 50 回教育システム情報学会全国大会で発表した「国際バカロレア『日本語 A：文学』を Moodle 上で成立させるための教材デザイン

を考える」⁶⁸からあった。日本で国語として学び、学習塾で長年指導する私にとっても、IBDP の「日本語 A：文学」の全体像を把握することは時間がかかった。だから、学習者のために困難を分割するというアイデアで解決しようとしていた。

一方で、このレビューは IBDP について既に理解のある方に評価頂いたことから、まだ完全とは言えない。なぜなら、架空の存在ではあるが「時差のあるイタリアで学ぶこの 17 歳の高校生、漣 遊さん」は、IBDP のカリキュラムで学ぶのは初めてだからだ。だから、この評価を経て次に考えなくてはいけないのは、IBDP というものを魅力的でわかりやすく提示するために「オリエンテーション」のパートをどう作るかだ。学習者が途中で進まなくなる理由は、IBDP について、Moodle について、選ばれたテキストについて、具体的な間について、さらに、その学習者本人の環境要因など多岐にわたるだろう。その解決には、Moodle のデザインは最もシンプルで、かつ情報を削ぎ落とし、さらに矛盾するようだが、親切である必要がある。この辺りは、オンライン教材を触るのが得意ではない阿部先生に触って頂いたことで気づいたことがある。それは、携帯電話のアプリのデザインに解決するヒントがあるのではないかということだ。画面が小さくても、使用者が試行錯誤して進められるデザインはおそらく非言語ながら伝わる暗黙知が含まれていると考えるからだ。

最後に、IB 機構が作成した評価規準（ルーブリック）を学習者の評価のために使うことができるのは、学校の先生か、セルフポートとして認められた指導者か、IB 機構によって認められた教材の中だけだ。この点は宇野先生からご指摘頂いたが、試作版の Moodle を研究の外で発展させ、実際の高校生が触れるようにするにはまだ解決を必要とする課題がある。ここは「第 2 章 開発のコンセプト」の「2.4 『著作権を無視した過去問使用や点取り主義に堕さない』」で書いた通り、知的財産権についても当然遵守し「教育のサステイナブル化」という視点で継続して考え続けるつもりだ。

⁶⁸ 五十嵐 敢, 中野 裕司, 喜多 敏博, マジュンダール リトジット: “国際バカロレア「日本語 A：文学」を Moodle 上で成立させるための教材デザインを考える”, 第 50 回教育システム情報学会全国大会 (2025)

https://idportal.gsis.jp/files/JSiSE2025_igarashi.pdf (参照 2025.12.31)

第 8 章

ペーパー 2 のパートと Moodle で実装する条件

エグゼクティブサマリー

ペーパー 2 は、授業で学んだ文学テキストの中から 2 作品を選び、設問に対し共通点と差異点を比較しながら 105 分で手書きの小論文を書く試験形式だ。原稿用紙で 6 枚から 10 枚程度の量が求められるが、テスト会場に実際の本や資料を持ち込むことはできない。問題が抽象的で事前に作品を整理して臨む必要があるため、授業での積み上げや考えてきたことの省察が重要になる。

学校や学年により採択テキストが変わるという条件と、著作権に配慮した作りをするため、文章を読む作業は Moodle 上では行わない。その代わりに、代表的な作品について、問を設定しそのディスカッションや小論文を書いて批評しあう場の提供を行う。ここまですペーパー 2 の前半パートと呼称する。複数の作品を読み込んだ後は、ペーパー 2 の問を正しく把握し、2 作品の共通点と相違点を整理して小論文に組み上げる後半パートに移行する。

問題を解きながら高次に至るというデザインで前半パートは明確な指針をもって設定できるが、問題をかみ砕きながら、アイデアを出していくという後半パートは、個人の資質や問題意識によって進捗に差が出やすい。そのため、後半パートは同期型の Zoom でのオンライン授業が必要になってくると想定する。

文学テキストは、2 年間の学習カリキュラムでスタンダードレベルでは 7 作品以上、ハイヤーレベルでは 10 作品以上を扱うことが規定されているため、オンライン化していく中でもっとも量の多いパートになることが想定されている。

8.1 ペーパー 2 という試験形式：

ペーパー 2 は、学校の授業で学んだ文学テキストの中から 2 作品を選び、設問に対して共通点と差異点を比較しながら 105 分で手書きの小論文を書く試験形式だ。量としては原稿用紙で 6 枚から 10 枚程度が求められるが、テスト会場に実際の文学テキストや資料を持ち込むことはできず、自らの記憶に頼りながら論点を整理する必要がある。ペーパー 2 で選んだ文学テキストは、「個人口述」で同じ作品を選ぶことはできず、スタンダードレベル、ハ

イヤーレベルで問題の難易度や採点規準の違いはない。2年間の学習カリキュラムでスタンダードレベルでは7作品以上、ハイヤーレベルでは10作品以上を扱うことが規定されているため、ハイヤーレベルの方が学んできた本の中から選択肢があると言える。

4つの文学形式から出題され初見の文章を分析するペーパー1と異なり、この試験形式では授業での積み上げや考えてきたことの整理、省察が重要になると考えられる。

問題は例年4問出題され、サンプル問題として公開されている英語A:文学を見てみよう。

Answer one question. Compare and contrast two of the works you have studied.

1. How do two of the works you have studied portray the struggle to be understood?
2. Some literary texts, although set in a particular place or time, convey ideas that are universal. In what ways is this true in two of the works you have studied?
3. Discuss how two works you have studied present concepts of good and bad, not as absolute notions, but as a matter of individual perception.
4. Referring to two works you have studied, discuss how the author has created a convincing “world”.

“English A: literature – Higher and standard level – Paper 2”より引用⁶⁹

問題が4問ある中で、設問が指示する領域が重ならないようにしているのを見て取れると思う。これらは、学校の先生が選んだ文学テキストの題材によって、答えやすい、あるいは答えにくい問題が少なからずあるためだと考えている。すわなち、学習者は授業で読んだ文学作品の中から2冊を選択するので、様々な学校の生徒による膨大な作品の組み合わせがありえる。それに対して、全員が答えられるように問題を抽象化し、かつその領域が重複しないように設定されているとみるべきだろう。暗黙の了解として、文学形式としては中編以上の長さの小説 2-3 作品を選ぶことが答えやすく、短編小説や詩歌だと一篇が短いため

⁶⁹ International Baccalaureate Organization: “Sample exam papers”(2025)

<https://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/sample-exam-papers/>

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/english-a-literature-hl-paper-1-en.pdf>

(参照 2025.12.30)

複数の作品を挙げて論じなくてはならないため忌避されやすい。同様に、「オープンで柔軟性の高いコースの特性から、生徒はあらゆる学習作品を試験問題 2 で使うことができます」⁷⁰という記載があり、異なる文学形式の比較を国際バカロレア機構は禁止していないが、異なる文学形式で妥当な比較の論点を設定することは、やや手数がかかり体感する難易度が上がると考えられる。

評価規準については、2026 年の試験より、規準 A:知識、理解、解釈 (5 点)、規準 B:分析と評価 (10 点)、規準 C:焦点と構成 (5 点)、規準 D:言語 (5 点) の合計 25 点と改められる。⁷¹ここで断っておかなければいけないのが、IBDP の科目は 10 年に満たない期間で『指導の手引き』が改訂されることだ。そして、『指導の手引き』は「2021 年第 1 回試験」が最新版のカリキュラムながら、コロナ禍を経て 2026 年試験より読むべき文学テキストの数が減り、かつペーパー 2 の採点規準も変わるという過渡期にある。2026 年版の採点規準を反映した問題は存在せず、したがってペーパー 2 の問題傾向は今後も変わる可能性が残されている。なお、2025 年までは規準 A:知識、理解、解釈 (10 点)、規準 B:分析と評価 (10 点)、規準 C:焦点と構成 (5 点)、規準 D:言語 (5 点) の合計 30 点だった。⁷²この変更からは、分析と評価の技術が相対的に重視されたことが予想できる。

これらの問題に対応できるようにするにはどうすればよいか。一つの方法論としては、文学テキストを授業で読む際に、以下を整理させながら進むことだろう。①時間軸とプロットの特徴②技法と効果、語り方の特徴の洗い出し③対比される人物像の設定は何か④作品で特徴的に使用されている題材はないか⑤作品のテーマはどのように伝わっているか。つまり、文学テキストを最初から最後に向けてページごとに追っていくだけでは足りず、その部分が全体とどう呼応しているかを考えさせること、または作家はなぜその仕組みを作った

⁷⁰ 国際バカロレア機構: “「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp.53 2019 年

⁷¹ 筆者は 2025 年 4 月の IB ワークショップに参加し、今回の変更内容について理解する機会を得た。

Diploma Programme language A curriculum team: “Diploma Programme language A: literature and language and literature Summary of changes for teachers” International Baccalaureate Organization, pp.2-3(2024)

⁷² 試験問題 2 はスタンダードレベル、ハイヤーレベルで同じ採点規準が使用される。

国際バカロレア機構: “「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp.48-51 2019 年

かという視点に立つことなどが必要になると思われる。

8.2 「学習のねらい」との関連

「日本語 A：文学」の”ねらい”を踏まえると、ペーパー 2 では 2 年間に渡り複数の文学テキストを読み進めていくため、全 8 項目の内 6 項目までを網羅すると考える。具体的には、「さまざまな媒体や形式、異なる時代、スタイル（文体）、文化からの多様なテキストに触れる」、「テキストのフォーマルで美的な性質への感性を磨き、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる」、「テキストと多様なものの見方、文化的文脈、地域とグローバルな問題との関わりについて理解を深め、またそれらがどう多様な応答や複数の意味をもたらすのかを鑑賞できるようになる」という 3 点までが読む段階だ。その上で、「話す、読む、書く、見る、発表する、およびパフォーマンスのスキルを伸ばす」、「解釈や分析、評価のスキルを伸ばす」、「自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する」という表現する段階では“創造的な方法”や“協働”というキーワードも表れてくる。「言語と文学に対して、生涯にわたって関心と喜びをもつように促す」という狙いは、学習の外にあるようにも感じるが、授業での体験がその学習者にとって素晴らしいものであった場合には満たされる項目ではないか。⁷³

8.3 Moodle で実際の試作を作る際の課題-前半パート（作品を読む段階）

ここでは夏目漱石の『こころ』をサンプルとして実際の授業をデザインする。

学校や学年により採択テキストが変わるという条件と、著作権に配慮した作りをするため、文章を読む作業は Moodle 上では行わない。だから、学習者がそれぞれ本か Kindle 版を購入することを前提とする。

Moodle 上での設計は、「第 5 章『日本語 A：文学』のコースデザインを考える」で想定した通り、授業時間は 60 分を 1 コマにして、授業本体が 10 コマで、最初の導入が 1 コマ、課題とテストで 2 コマの合計 13 コマで想定する。すると、進行としては導入 1 コマ→前半 5

⁷³ 国際バカロレア機構: “「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp.17 2019 年

コマ分の間を作って進行→中間で一度課題に挑戦する→後半 5 コマ分の間を作って進行→最後にテストを行うという作りが妥当だろう。中間の課題の前、最後のテストの前のコマで省察の間を作っておいて、準備を進める(=課題やテストへの負担感を下げる)方が、マンネリを防ぎ生徒からのアウトプットがよくなるだろうと想定される。

最終的にはペーパー 2 型の問題に対応できる力を育てたいので、そこに至るまでの間は例えば、①知識としての作品背景②人物像の相関③文体と構成の特徴④主題とそこに至るための作家の意図などを盛り込む必要がある。これはテキストの解釈という意味では、知識習得のレベルから、作品の内容理解、題材や展開についての解釈、そして作者が伝えたかったことは何かという、低次から高次の問題構成にする。低次の問題は知識を確認する小テストの形式で行うことで作れる。一方で、高次のレベルは、ペーパー 2 の過去問から問をかみ砕いてトップダウンさせる形と、心情・山場・葛藤という中位の問題を学習者同士でフォーラム上でディスカッションさせて複数の視点から考えさせる方法が採れる。

実際には、初回の授業の段階から到達目標や途中で扱う小問を全て学習者に見せるという方法がこれまでの教室の経験から効果的だった。そして、最後のテストは本試験のペーパー 2 と同様に、一問ではなく複数問を用意する。つまり、やるべきことは最初から見えており、授業では低次から高次の問題に進行するわけだが、生徒にとっては自分の関心のあるペーパー 2 型問題に焦点を絞って、それに関連する問題を中心に考えることもできる。

では前掲の、“English A: literature – Higher and standard level – Paper 2”を日本語に訳出して、それを夏目漱石『こころ』を読むという例で構成してみよう。これが、13 コマ目のテストの問題として学習者に提示される。

- 1 あなたがこれまで学習してきた 2 作品では、理解されるための戦いはどのように描写されていましたか。
- 2 いくつかの文学テキストでは、特定の場所や時間が設定されながら、普遍的な考えに読者を導きます。あなたがこれまで学習してきた 2 作品ではどのような方法でこれに当てはまりますか。
- 3 あなたが学習した 2 作品について、善悪の概念はどのように提示されていたか論じなさい。ただし、それは絶対的な概念ではなく、個人の認識における捉え方とします。
- 4 あなたが学習した 2 作品を参照して、作者がどのように説得力のある“世界“を作り上げていたかを論じなさい。

最後の到達度判定テストの問題として設定するペーパー 2 型問題の例

“English A: literature – Higher and standard level – Paper 2”より筆者が翻訳したもの⁷⁴

問を正しく捉えていれば様々なアプローチは可能だと思うが、例えば、問 1 の「理解されるための戦いはどのように描写されていましたか」と、問 3「個人の認識における」「善悪の概念」は登場人物の人物像とプロットとの関連性、その描写方法や効果を考える問題になっている。問 2 の「特定の場所や時間が設定されながら、普遍的な考えに読者を導く」仕組みは、文学テキストが持つ特徴である地域性や時代性と普遍性とが両立するという問題といえる。問 4「作者がどのように説得力のある“世界“を作り上げていたか」は、作者が読者を作品に引き込むための語り方についての問題といえるだろう。

前述の通りペーパー 2 の問題は抽象度が高く、人物像・文体と構成・主題・文学のジャンルから来る問題が目立つ。問を 1 題に限定しないのは、作品を読み進めていく際に学習者が幅をもって読めるようにすることで、各自の興味や関心を掘り下げられるからだ。それによって、実際に『こころ』をペーパー 2 に選ばなくても、「個人口述」やハイヤーレベルでの「HL 小論文」でその問題意識が活かされる場合も出てくる。

また、進行によっては 1 作品だけでこの問に対する小論文を書き、学習者同士で規定のルーブリックを元に学習者に相互採点させる仕組みを作るとよい練習になる。この場合は、手書きではなくテキストデータをそのままフォーラムにアップロードし、相互コメントの形で進行させる形が良い。テキストデータで書かせるのは、他の作品を読んだ後に同様に小論文を書かせることで、2 作品比較の題材ができるようになるからだ。さらに、評価方法を小論文ではなくプレゼンテーションの形で行うことも有効だ。これは将来的に「個人口述」の形を変えたトレーニングになることと、音声による発表と文章による構成が質的に異なるものであることを経験することができるからだ。

次に、中位の問題の具体例を見てみよう。これは、ペーパー 2 の本試験問題をかみ砕いて、『こころ』という作品に即した問題として筆者が作り、実際の授業でのディスカッションに

⁷⁴ International Baccalaureate Organization: “Sample exam papers”(2025)

<https://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/sample-exam-papers/>

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/english-a-literature-hl-paper-1-en.pdf>

(参照 2025.12.30)

用いたものだ。

- (1) 「本作品には、書生であった『私』と、遺書を書いた『私』という二人の『私』がいる。
この二人の『私』の視点から語られることは、作品にどのような影響を与えるか」
(視点・時間軸・語り手による差異)
- (2) 「作品に流れる静かさと不穏さはどこから来ているのか」
(作者の選択と技法の効果、構成)
- (3) 「なぜ先生は死ななければいけなかったのか。先生や K が死なないためには何が必要だったか」
(主題)
- (4) 「K、先生、お嬢さん（未亡人の娘）はどのような関係か」
(対立する人物像)

途中の段階、7コマ目の課題として設定する問題の例

ここは、ペーパー2型問題と異なり、作品を分析的に読むために『こころ』特有の問題を設定している。だから、問のレベルとしてはある程度具体的であり、かつその問を考えることで、高次のどの領域につながっていくのかということが暗示されている。なるべく答えが一つに絞られないような問を意識して作成し、学習者同士がディスカッションを行いながら、作中から根拠や具体例を見出すような学び方が望ましい。それによって、多様な読み方を許容しながら、自分の考えていることが他者と異なる際に何を妥当性の基準とするのかを考える機会を作ることを目指しているからだ。

最後に、授業の前半で用いる低次の問題についても具体例を挙げる。これは、それぞれの学習者が『こころ』を読んでいくときに投げかけておくと、意識的に文学テキストを読むことができるようになっていく。

- (1) 凄いと思った表現、かっこいいと思った表現、使えると思った表現を10か所探し、
ポストイットを貼ってくる。そして、なぜそこが気になったのか簡単なメモを取る。
- (2) 乃木大将の自決が、先生に与えた影響は？
- (3) 先生の秘密、隠していることは何か？

- (4) 先生の自殺は止められなかった、では、なぜ？
- (5) 書生の「私」は何のために存在しているのか？
- (6) 小説の中の語り手とは、どのような役割を持っているのか？
- (7) もしこの物語が三人称視点だった場合、どういうことが起こるのか。
例えば、どちらの方が面白くなるのか、物語はどう変わっていくのか？

授業冒頭 1 コマ目の低位の問題として設定した例

本研究では読むという体験を個人の授業外の作業と想定している。その上で、それぞれのテンポと関心で本を読めるようにしつつ、表現やプロットの特徴、代表的な登場人物の理解を言語化することで、上のレベルの議論をするための土台を作るための間を選んでいる。指導を進めていく中で、本を読む速さ、遅さの問題と記憶の保持の差という、生徒間の能力や資質の差が問題になってくることがある。大胆に言えば、本を読めないままディスカッションを経て理解する学習者も一定数いる。だから、これらのレベルの質問は、ChatGPT などの AI にそのまま投入して本を読む際のガイドとしても構わないと考えている。特に長編を読む場合は、導入としての印象度の良さ、高さ、そして中盤になっての展開の意外さ、解釈によって異なる読み方の幅など、学習者の意欲を継続させるためにいくつかの工夫が必要になる。その際に、一冊独力で読めていなければ議論に参加できないという制限を設けた場合は、読むスピードの差と深さで誰も得をしない可能性が高い。例えば、読み切れない学習者は議論についていけず、先行している学習者は多様な意見に触れる機会に欠け、結果的に指導者が持っている読みのパターンを正解としてストライクゾーンを狭めた授業に陥ってしまう。一方で、議論しているうちにもう一度表現の細部に戻ることはむしろ好ましいので、最初の読みは粗くても構わない。直感が精読を上回ることもあるディスカッションの場であったり、少人数でそれぞれ答えが変わってくる問の設定など、それぞれの学習者が持ち場を發揮できるような場を作ることがこれらの問の設定の基本となっている。

このようにペーパー 2 型の授業デザインは、問題を上位・中位・低位と分けて設定した。上位の問題はペーパー 2 で出題される抽象的なレベル、中位は作品に即した議論が行える具体的なレベル、そして低位の問題は作品のポイントをつかむために与えたより具体的レベルとなっていることが伝わるだろう。

これらは、文学テキストを線的な読み方から解放し、むしろ作品の中心となるところから

トップダウンさせる形で考えられている。文学テキストが学習者に与える潜在的な魅力は本を選ぶというコースデザインの段階で決まるが、その魅力を引き出すため一作品一作品に対しどれだけ魅力ある問題を講師が作れるか、そして議論をどのように導くかという点が重要だ。Moodle の場合は先に問題を作らなければいけないという欠点があり、実際には途中で問を変えるような柔軟さが求められるだろうと予測する。この時に、時間的な余裕を作って問題を差し替えるのか、あるいは開示しない問題を途中にはさみ、驚きの要素を付け足すのかは今後の課題としたい。

8.4 実際の試作を作る際の課題-後半パート (2 作品の比較小論文を書く段階)

二作品の比較小論文を書くためには、その前の準備がある。具体的には①問を正しく把握して何を答えればよいのかを明確にすること②比較する 2 作品を決定すること③問に対して 2 作品の共通点と差異点を洗い出すこと④必要な語彙や論理性が備わっていること⑤感想文ではなく小論文を書いた経験があることの 5 点だ。④と⑤はこの科目より前の日本語経験に左右されるため割愛し、回答するのに十分な力があることを前提とする。

ペーパー 2 型の試験については、二作品をバランスよく採り上げながら論じることが必要なため、PDF のレポート形式で人間が添削することが現状では必要だと考える。ただし、前述のペーパー 1 でもし AI による添削が可能になれば、次は要件が複合的になるだけで異なる技術が必要になるわけではないので、将来的には不可能とは思わない。現実的に、IBDP の採点規準を熟知した人間でも、原稿用紙 5 枚を添削し採点するには 20-30 分程度を必要とする。⁷⁵そして、このフィードバックまでの時間が短縮され品質が高ければ、生徒にも書く勇気生まれる可能性がある。なぜなら、高校生の学習者は信頼できる人以外に評価されることを好まず、他者にその評価が知られなければ書きたいという気持ちが生まれることがあり得るからだ。ただし、現在の段階ではペーパー 2 型の問題について、AI によって安易に論点を整理したり、論文サンプルを手に入れることは「学問的誠実性」⁷⁶の観点での問題と、抽象的な問題をかみ砕く力を育てるといふ本質的な能力の伸長を削ぐことも考えう

⁷⁵ 2025 年の冬期講習会の前半期間では、原稿用紙 48 枚の小論文の添削で 3 時間程度かかった。

⁷⁶ 国際バカロレア機構: 「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp.5-6 2019 年

る。だから、本研究ではどのようなプロンプトを書けばペーパー 2 型採点が AI によって可能になるかは掘り下げず、まずは Moodle に全 150 時間の授業を実装するための設計を優先している。

以下は、井上ひさしの『父と暮せば』とアーサー・ミラーの『セールスマンの死』という戯曲の 2 作品でペーパー 2 型小論文を書けるように指導した指導例を提示する。「日本語 A：文学」において、IB ワークショップ以外で模範解答というものが開示されたことはないかと思うが、サンプルとして指導者側がある程度よくできている小論文を置いておくと、学習者には品質や量の基準ができて成長しやすい。同様に、生徒から許可を得て卒業した生徒の小論文を、ルーブリックを使って学習者に採点させると、評価規準に意識を向けさせることができる。

実際のペーパー 2 の指導例

講師はどうやってペーパー 2 を書いているのか

以下は、講師がペーパー 2 を書く際に心がけている点です。ペーパー 2 は比較小論文ですから、問に対して答えながら、2 作品の共通点と差異点について書くことが求められます。ただし、問題は①技法と効果②視点や時間軸③人物像や心情④主題と読者の受け止め方という点が中心ですから、事前に何本か小論文を書いておくことで、当日はかなり有利に進められます。もちろん、当日の問題は誰にもわかりません。ですから、①から④のパターンに対して少なくとも一本ずつ書いておくことで、事前の用意を進めることが肝心だと考えます。

実際の作業

- (1) まず、問に含まれている条件をとらえます

今回のサンプルとなる問：「物語や小説では伏線（後の方で述べる事柄をあらかじめ前の方でほのめかしておくもの）」が重要な役割を果たしていることが多くあります。この伏線にはどのような特色があり、どんな効果を生んでいましたか。学習した二作品以上を比較して論じなさい。」

この伏線にはどのような特色があり、どんな効果を生んでいましたか。学習した二作品以上を比較して論じなさい。→この部分が設問ですから、「伏線の特色と効果」を 2 作品について比較した論文が求められていることがわかります。

物語や小説では「伏線（後の方で述べる事柄をあらかじめ前の方でほのめかしておくもの）」が重要な役割を果たしていることが多くあります。→この部分が設問の前提ですから、伏線は「後の方で述べる事柄をあらかじめ前の方でほのめかしておくもの」と定義され、重要な役割を持つものとして確認しておきます。

(2) 次に、2 作品について、伏線にどのような特色があったかの具体例を出していきます。この場合は、文章ではなく、箇条書き（アイディアのメモ）で質よりも数を出すことを考えます。そのあと絞り込んでいきますが、講師の感覚としては、3 つずつ優れたアイディアを出せれば、7 枚 (2800 字) には届きます。

『父と暮せば』の伏線の例

- ・冒頭から美津江が雷におびえること
- ・美津江が左腕を押さえること
- ・竹造がお茶が飲めないこと
- ・竹造が出現したり、消えること

『セールスマンの死』の伏線の例

- ・ウイリーの疲れ/重そうなカバン/車の運転のミスがあったこと
- ・ゴムホースの切れはしの意味
- ・回想と現実の境目がわからなくなること

(3) 作品の共通点となる部分をくくり出しておきます

(例)・第二次世界大戦後という時間設定

- ・父親がなくなるという展開
- ・回想が多く、過去をどう受け入れるかが作品の中心になっている
- ・新しい生き方の選択という主題

→講師の場合は、論文の最初に作品の概要と共通点を提示することで、規準 A の得点を確保するのをルーティンにしています。

(4) 設問の答えを一言で作ってしまう

「伏線は、その後の展開を効果的にするものだ」

「後で出てくる要素を、やっぱりそうだったかと納得させるのが伏線だ」

ここは、書きながら答えを作る人もいますが、最後の段落は必ず設問に対して答えを出す必要がある
ので、事前に着地点を探しておいた方がスムーズになります。

(5) 構成は、いつもきまった形で書くと時間配分が作りやすい

- ・ 1 段落目：序論、問を正しくとらえてこれから論じるという点だけを短く
 - ・ 2 段落目：作品の概要の説明
 - ・ 3 段落目：二作品の共通点の提示
 - ・ 4 段落目：最初の作品について具体例を挙げて論じる（段落が複数になっても可）
 - ・ 5 段落目：次の作品について具体例を挙げて論じる（段落が複数になっても可）
 - ・ 6 段落目：結論、二作品の違いについて触れ、問に対しての答えを出す
-

8.5 前半パートと後半パートをどのように統合するか

ここまで見てきた前半パートと後半パートを Moodle 上で統合するデザインを考える。

一作品だけで小論文を書くなら、「8.3 Moodle で実際の試作を作る際の課題-前半パート（作品を読む段階）」のように、問のレベルを上位・中位・低位と設定し、抽象から具体へとかみ砕く方法が考えられた。これは 1 冊の文学テキストについて 13 コマの設定で、導入・前半の授業・課題・後半の授業・テストという流れで構成することができた。

後半パート、つまりペーパー 2 の試験への対応は、10 コマで進めることが想定されている。実際の試験時間は 105 分だから 2 コマ分と考え、8 コマでできることを考える必要がある。IBDP 本試験の時までには最低 3 本程度の完成されたペーパー 2 型小論文を書いておき、当日はその論点の組み合わせで対応するというのが学習者にとっては現実的な対策となるだろう。完全に内容を覚えこむ必要は当然なく、問に対して比較する文学テキストを選択し、論点を設定する時間を短縮するために、事前に何本か書いて準備する必要があるのだ。

さて、書くために必要な準備は①問を正しく把握して何を答えればよいのかを明確にすること②比較する 2 作品を決定すること③問に対して 2 作品の共通点と差異点を洗い出す

こと④必要な語彙や論理性が備わっていること⑤感想文ではなく小論文を書いた経験があることという5点で、その内①②③をこの Moodle で取り扱う設定となっていた。だから、問題を細かく分割して考えを具体的にしていくためには、以下のような問を設定しておけばよいのではないかと考察する。いわば、上にあった「ペーパー2の指導例」が教科書となる部分で、下が練習問題としてのサンプルとなっている。

練習問題としてのサンプル

①現在のあなたは、問に対してどのような答えをもっていますか。

ぼんやりとしたものでもかまいませんが、小論文を書く方向がこれで見えてきます。

難しい場合はここは飛ばして、次の問題を移ってください。

① 問を正しく把握して何を答えればよいのかを明確にすること

このペーパー2の問題で問われていることは何でしょうか。それを上位・下位のようなモデル図にして、あなたが書かなければいけない項目を整理してみてください。

キーワード：主題、人物像、設定、プロット、視点、技法と効果、世界観、
対比される登場人物、時代や場所の設定、特徴的な題材、語り方の特徴など

② 比較する2作品を決定すること

あなたの選択する作品と問には、どのような関連がありますか、箇条書きにして10項目程度書き出してください。

例)『こころ』は語り手が2人いるから、作品世界の提示の方法が多面的になる

例)『父と暮せば』は冒頭から竹造が架空の人物だということが示唆される

例)『セールスマンの死』では、ゴムホースなどの小道具が伏線となって提示される

③ 問に対して2作品の共通点と差異点を洗い出すこと

あなたが選んだ問と2作品は、どのような共通点と差異点がありますが、①のキーワードや

②の作品の特徴から、共通点を3点、差異点を3点箇条書きにしてみてください。

①-2 さて、1番から3番までの作業をしながら、問に対してのあなたの答えはどのような

ものでしょうか。あるいは、作品のレベルを超え、文学テキストが持つ特性や普遍性という観点から答えを出せますか？

実際の教室での授業では、このステップは90分くらいで答えが洗い出せる。そして、その次は「では来週まで書いて来てください」として、途中で行き詰った場合はメールなどで相談を受けている。つまづきやすいのは、②と③番の段階でアイデアが出ないことと、③番のところと比較がかみ合う論点を設定できないことだ。その際は、指導者が実際にいて、リアルタイムで質問を受けるのがもっとも効率が良い。問題を解きながら高次に至るというデザインでは前半パートは明確な指針をもって設定できたが、問題をかみ砕きながら、アイデアを出していくという後半パートは、個人の資質や問題意識によって進捗に差が出やすい。

だから、現在考えられるデザインは、「実際のペーパー2指導例」を事前に学習者に読んでもらっておき、その後講師がZoomのオンライン形式でもう一度音声と画像で説明する。その後、Moodleで各自練習問題のサンプルを開いてフォーラム上に書いてもらいながら、講師がその場において質問、疑問点に答えるという形が良いのではないかと思う。この部分は個別の問題意識によって質問も変わってくることもあるが、1、2本ペーパー2型小論文を書き上げることができれば、その後は個人でも進められるので、「実際のペーパー2指導例」は録画の形式をMoodle上に残しておき、質問を受けるZoomのコマだけを定例化しておくともスムーズかもしれない。

第9章

個人口述のパートと Moodle で実装する条件

エグゼクティブサマリー

「自分で選んだグローバルな問題が、学習した2つの作品の内容と形式を通してどのように表現されているか分析しなさい」というプロンプトが与えられ、口頭で答えるのが個人口述だ。本人が自らグローバルな問題を設定し、抜粋部分を選んでプレゼンテーションをした、その音声のみが評価される。ペーパー2の本試験で選ぶ作品を重複して使用できないことと、2作品のうち一つは翻訳作品、もう一つは日本語原典の作品でなければいけないことが条件だ。内部評価と呼ばれるこの試験形式は学校の先生により採点され、IB機構の採点官によって調整される。

問題意識を育てそれを作品の中から抜粋部分として見つけ、10分ないしは15分のプレゼンテーションを作っていくが、学問的誠実性を遵守しリハーサルの実施やスクリプトの事前確認は許されない。そのため、最後に質を磨き上げていく点は指導者が入れないため、要件や発想を育てる点の指導を重視し、最後は待つという姿勢が求められる。

9.1 個人口述という試験形式

「自分で選んだグローバルな問題が、学習した2つの作品の内容と形式を通してどのように表現されているか分析しなさい」というプロンプトが与えられ、口頭で答えるのが個人口述だ。ペーパー2が学習した2作品を使用した比較小論文であるのに対し、個人口述は2作品を使った音声によるプレゼンテーションだという違いがある。ペーパー2で選んだ作品を重複して使用してはいけないことと、2作品の内一つは翻訳作品、もう一つは日本語原典の作品でなければいけないことが条件だ。⁷⁷

プレゼンテーションの形式は、固定観念があると理解しにくい。まず、スライドは使わず、身振り手振りを含めた動きは対象とならない。本人が用意できるのは、2作品からの抜粋それぞれ40行以内、そして自分の話したい要点を書き出したA4サイズ1枚のアウトライン

⁷⁷ 国際バカロレア機構:「言語 A：文学」指導の手引き 2021年第1回試験”,非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, pp.69 2019年

ただだ。その抜粋 2 点とアウトライン 1 点の、計 3 枚程度の書類だけを使用して学習者はプレゼンテーションを行う。時間は 10 分間でその後学校の先生から 5 分間の質問を受ける。この質問は、本人の説明で足りていない部分に対して投げかけられ、学習者はそれに答えることで発表内容を充実させることができる。セルフポートの場合は、先生側は質問することができず、15 分間本人が発表するだけとなる。

評価は学習者の音声に対してなされる。ペーパー 1 やペーパー 2 が「外部評価」といわれ IB の採点官が採点するのに対し、個人口述は「内部評価」といわれる通り学校の先生によって採点が行われ、録音された音声データは IB の採点官によるモデレーション（評価の適正化）が入る。スタンダードレベル、ハイヤーレベルに関わらず得点は 40 点満点で、規準 A が知識、理解、解釈、規準 B が分析と評価、規準 C が焦点と構成、言語 D が言語と各 10 点ずつが配点されている。⁷⁸

最もこの試験で特徴的なのは、事前のリハーサルができず、録音も一度しか行われれないということだ。また、「学問的誠実性」⁷⁹が重視され、グローバル 이슈を他者が指定したり、プレゼンテーションの抜粋箇所やアウトラインを他者が制作したりすることは許されない。だから、自分の興味のあるグローバルな問題を立て、2 作品のそれぞれの抜粋に自分の問題意識がどのように表現されているのかを、言語化していくのが学習者の作業になる。

また、他の試験形式では問が与えられるのに対して、この試験形式では自ら問いを作らなくては行けない。そして、その問に対して作品との関連性を主張する際に、妥当であるかどうかを検証しなければ行けない。つまり、前述の「自分で選んだグローバルな問題が、学習した 2 つの作品の内容と形式を通してどのように表現されているか分析しなさい」というのは、試験における指示であり、「グローバルな問題」を自分の問題意識に合わせて設定し、学んできた作品の中にその問題がどのように表現されているかを見出すのが学習者の作業だということだ。サンプルとして筆者作成のアウトライン例を提示する。

⁷⁸ 国際バカロレア機構:「「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験」,非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva,pp.69-72 2019 年

⁷⁹ 同上,pp.5-6 2019 年

個人口述のためのアウトライン

■作品

- ・『セールスマンの死』（アーサーミラー）、脚本・1940年代・アメリカ・男性が主人公
- ・『石垣りん 詩集』（石垣 りん）、詩歌、1979年・日本・女性が主人公

■グローバルな問題

経験があっても、能力があっても、年齢で人は差別されていないか
(どんなに世界の変化が早くても、年長者が生きられる社会が正しいのではないか)

■現在の状況

グローバリズムを反映した国をまたいだ能力主義の浸透
先進国の少子高齢化と日本の年金問題

■作品のトーン、スタイル

『セールスマンの死』：先代から仕える主人公をすげなく解雇する二代目
「定年」：相手は会社であり、人間はいなかったという諦念

■技法・手法・意図

『セールスマンの死』：呼びかけ、やや崩れたトーン（あたし・あんた）、具体的な数字
「定年」：擬人法、人間・会社という一般化、「から」の反復、「いやしなかった」の表現

■共通点と差異点

- ・共通点：30年余りに渡って会社に、社会に貢献してきたことが評価されない社会
- ・差異点：理不尽さが狂気になる『セールスマンの死』と、
擬人化してユーモアに変える「定年」

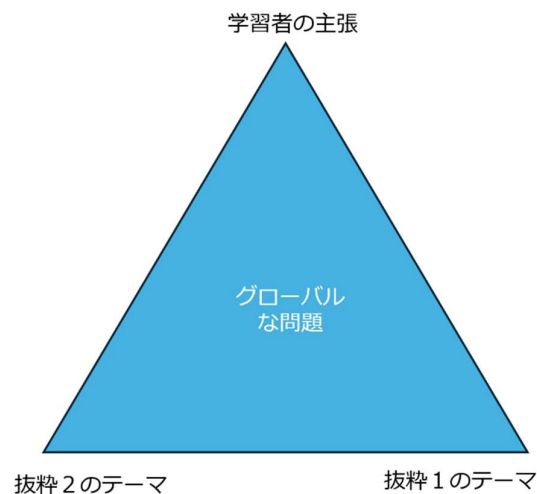
■結論

現在の社会は経験が陳腐化され、年長者は生きるアイデンティティの危機を迎えている。
仕事はその人のアイデンティティの大部分を占め、その喪失は世界的な問題となっている。

(図 9-1) アウトラインフォームの例 (筆者作成)

9.2 何ができるようになればいいのか

この個人口述では技術として何ができるようになればいいのか。ペーパー1 が初見の文章の分析、ペーパー2 が二作品の比較小論文であることはこれまでに触れた。その比較で考えるなら、個人口述の2 作品の抜粋を作る作業は、文章の主題に触れ、かつ学習者のグローバルな問題意識と触れるページを抜き出すという意味で、ペーパー1 と2 の両方が求められるといえる。もう少しかみ砕いて言うと、自分で設定したグローバルな問題があり、その作品の中でそれが表れていて、かつその作品の主題とつながるようなページを探す。学習者は自分がそのグローバルな問題について主張したいことを話す。それが、二作品の抜粋から外れずに、かつグローバルな問題に対しての説明になっているように心がける。そうすると、ちょうど「学習者の主張、抜粋1 のテーマ、抜粋2 のテーマ」が三角形になり、その重心の位置に「グローバルな問題」が来るようになる。この比喻は、グローバルな問題の設定が悪いと三角形のつり合いが取れないという感覚的な理解も表している。



(図 9-2) グローバルを中心とした抜粋と主張のイメージ図 (筆者作成)

そうすると、学習者ができるようにならないといけないのは、グローバルな問題を定めることと、これまで読んできた作品にどのように表れているかを示すために適切なページを

選ぶことだ。作品のテーマやここぞという場面をつかむのはペーパー2 型理解で経験してきているから、初めて取り組むのは自分で問題意識をもって「グローバルな問題」を決定することだといえる。

9.3 グローバルな問題とは何か、どう絞り込むか

グローバルな問題は「広範な規模で重要性をもつ」「国境をこえて存在する」「地域の日々の生活に影響を及ぼす」という特徴を備えているものと定義されている。そして、具体的な探究領域として「文化、アイデンティティ、コミュニティ」、「信念、価値観、教育」、「政治、権力、正義」、「芸術、創造性、想像力」、「科学、テクノロジー、環境」などが提示されている。ただし、この中から一つを選ぶものではなく、領域の重複や、それ以外の問題を考えることも許されている。そうすると、学習者は10分（セルフトートなら15分）という時間制限や、これまで学習してきた作品の中心となるテーマから、自分が扱える大きさの問題を言葉にして掘り出すという作業が求められる。⁸⁰

筆者の経験からすると、学習者たちは個人口述という現実的な課題に向き合いながら、自分が普段感じている疑問や矛盾や欺瞞、もう少し彼ら彼女らの側に立てば、社会に対して思っている漠然とした「抑圧」のようなものに言葉を与えていくように見える。つまり、文学という過去のテキストを読みながら、現在の世界の問題を考えることは、自分という存在が真ん中に入って初めて生まれることで、そこを丁寧に聞いていくと学習者の側が言葉を紡ぎ出すような時間が生まれる。

すると、ポイントはその学習者の問題意識をどうやって言葉にしていくかなのだが、それは残念なことに、現在だと答えは早く見つけ出されてしまう。例えば、ChatGPT に以下のように質問してみよう。「私は個人の働く喜びが、高齢になったことで奪われてしまう社会制度に問題を感じています。アーサー・ミラーの『セールスマンの死』と石垣りんの詩「定年」から、それらのテーマを読み取るには、どのような問題を設定すればよいでしょうか。問題は50字程度の一文で構成してください。」この回答は以下ようになった。「以下のような問題設定が適切です：高齢によって働く喜びや存在意義を奪われる社会の構造的要因とは

⁸⁰ 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp.70-72 2019 年

何か。他にも少し視点を変えたバリエーションを挙げます：労働を通じて得られる自己価値は、社会制度によってどのように左右されるのか。年齢によって人の労働価値を低く見なす社会は、個人の尊厳をどのように損なうのか。働くことの意味は、老いや制度の中でどのように変化していくのか。いずれも、『セールスマンの死』のウィリーの挫折と、石垣りんの「定年」における喪失感を対比しながら、「労働と人間の尊厳」「制度と個人の幸福」という普遍的テーマを探るのに適した問いです。」なお、前述の通り私が設定していたグローバルな問いは「経験があっても、能力があっても、年齢で人は差別されていないか」だった。ここはツールとして AI を使ってしまえば、問題のキャッチフレーズ化は比較的簡単だということを描するにとどめる。AI に入力するのに最適なプロンプトを用意することは、課題を解決する時間短縮にはなるかもしれないが、問を立てる喜びを学習者から奪ってしまうからだ。また、インスタントな知で得られたものだけで、10 分ないしは 15 分の音声だけのプレゼンテーションを自分の言葉で説得力を持って語ることはできないだろう。

一方で、問題意識を短い言葉で見つめていくためには、グループ化や共通点を見つける訓練と、絶対に外せないキーワードだけを見つける練習をさせることが必要だ。すなわち、当初の段階はグローバルな問題は明確でなくてもいいので、抜粋 1 でこの辺、抜粋 2 でこの辺を選びながら、何が私は言いたいんだろう…ということをつぶつぶつ言いながらキーワードに巡り合う方が、急がば回れで完成度が高い「グローバルな問題」が見つかるということも指摘しておきたい。

9.4 学問的誠実性を守りながらどう導くか

教師には、学問的誠実性に関連する概念、特に課題が本当に生徒本人が取り組んだものであること、および知的財産についての基本的な意味と重要性をすべての生徒に確実に理解させる責任があります。教師は必ず、すべての評価課題が要件に沿って取り組まれていることを確認しなければなりません。また、内部評価課題が完全に生徒自身によるものでなければならないことを生徒に対して明確に説明しなければなりません。

「指導と『生徒本人が取り組んだものであること』の認証」より⁸¹

⁸¹ 国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp.66-67 2019 年

結局、指導者の前でリハーサルができず、グローバルな問題、抜粋部分、アウトラインの作成を本人がしなければいけないのであれば、指導者に残されているのは問うことと、その答えに対してアドバイスを送ることだけだ。だから、①個人口述と何か②学問的誠実性とは何か③課題に対してどのような要件が設定されているかを説明した後は、学習者の中で情報が発酵していくのを待ち、適度なタイミングで問を投げかけることが求められるだろう。

具体的には、学習者への質問は二種類あり、①自分の問題意識や、選ぶ作品で言及するテーマと抜粋部分を決めていくための質問②アウトラインに基づいてプレゼンテーション自体を魅力的にする質問に分けられる。前者は、ぼんやりしている考えに対して問を与えていくことで、自分の考えていることを言葉で意識させる方法だ。後者は、実際の 10 分間ないしは 15 分間の構成を考える際に、どこに焦点を絞って話すか、組み合わせを意識させる方法だ。

①自分の問題意識や、選ぶ作品で言及するテーマと抜粋部分を決めていくための質問例

- ・個人口述で使いたい、翻訳作品は何ですか。
- ・個人口述で使いたい、日本語原典の作品は何ですか。
- ・その二作品は、現在の社会に対して何を訴えていますか。
- ・あなたがどうしても使いたいシーンはどこですか、それはどうしてですか。
- ・あなたがどうしても許せない、理不尽だと思う社会の問題は何ですか。
- ・あなたが学んできた作品の中で、この社会をよくするどのようなヒントがありましたか。
- ・あなたが最も印象的だと思ったシーンはどこですか、それはどうしてですか。
- ・もしこの社会に全く問題がないなら、文学の役割とは娯楽でしかないのでしょうか。
- ・あなたが自分の仕事として関わってもよいと思える社会問題は何ですか。

②アウトラインに基づいてプレゼンテーション自体を魅力的にする質問例

- ・あなたの言いたいことを 1 分間で話すときどのようなことになりますか。
- ・あなたは怒っているのですが、悲しいのですか、伝えたいのですか。
- ・あなたの考えに関心を持ってもらうには、どこを強調すべきですか。
- ・全てを伝えることはできず、3 つしか伝えられないなら、何を捨てますか。
- ・あなたのグローバルな問題は、あなたとどのような関係がありますか。

- ・どのような構成なら、あなたのことを知らない人が聞いても理解しやすいと思いますか。
- ・その言葉は、目で見なくても、耳で聞いただけわかりやすいものですか。
- ・本文からの引用は効果的ですか。
- ・本文の中にある言語的、文学形式としての技法は指摘できていますか。
- ・あなたの主張は、本文のテーマとグローバルな問題にどうつながりますか。

9.5 Moodle 上で実装する時の試案

最終的な録音を評価して評価することは、リハーサルになってしまうため指導者が行うことはできない。もちろん、「第5章『日本語 A：文学』のコースデザインを考える」で想定したように、セルフポートを担当する学校の先生がオンラインで課題を受理する場合はその限りでない。ここでは個人口述という課題を、学習者が学校で本番の試験形式で行う前の段階を補佐するものとして作る。

- ①実際に「個人口述を作るまで」のプロセスを動画で見せる
- ②サンプルとしての2つの抜粋とアウトラインを見られるようにする
- ③実際に発表したものをテキスト化してその量を提示する

これらは最初に完成版のイメージをつかむために開示するが、学習者が授業で採択されていない文学テキストからサンプルを作る必要がある。

- ④グローバルな問題とは何か、探究領域から考える
- ⑤これまでに読んだ作品のテーマは何だったのか
- ⑥抜粋とグローバルな問題とのつながりを考える
- ⑦アウトラインの作成

ここは「学問的誠実性を守りながらどう導くか」の部分に小問を書いているが、他の学習者との協働作業として行うかは他パートを Moodle で実装してから考えたい。もし同じ学校の生徒なら協働作業としてもできるだろう。しかし、もし場所も離れ、顔もわからない相手と「学問的誠実性」を守りながら協働作業が可能かどうかは、それを可能にする高次のアイデアが必要そうだからだ。そのため、第8章の「8.5 前半パートと後半パートをどのように統合するか」で書いたように、現在はこのタスク群を生身の指導者が Zoom のオンライン

型授業でフォローする形で発想を見守るという形で想定する。

- ⑧ アイディアの結合といたいことの整理
- ⑨ 自分の伝えたいことを 5 分間に凝縮して話す
- ⑩ 指導者の手を離れた学習者同士の相互練習の場

8 番から 10 番は指導者はアドバイスを送ることはできない。ただし、間違いなく学習者相互に練習させた方が切磋琢磨して質の向上が見られるところだ。対面型の指導でも、生徒がそれぞれ自分の発表を他者に聞いてもらって磨き上げるという学習方法が見られる。ここはスクリプトを作って綿密に練り上げていきたいタイプの学習者と、アウトラインから音声によるメリハリで効果的に演出していききたい学習者に大きく二つに分かれる。前者はテキストトゥスピーチを使った技術が時間の読みや言い回しの自然さを助けることができるだろう。後者は発声したものを音声認識でテキスト化することで、音声と文字を相互に鍛え上げていくことできそう。しかし、指導者の側はここはぐっと我慢で見守り、何もアドバイスは送らず、最終的なアウトラインや発表は見ず、ただだまって生徒を本番まで送り届ける義務がある。

第 10 章

結論と展望のための断章

10.1 結論—「IB 日本語 A：文学」を Moodle で実装する段階的な運用について

ここまで、国際バカロレアのディプロマプログラム（以下 IBDP）における「IB 日本語 A：文学」全体のコースデザインや、4 パートに分けた実際の Moodle への実装の条件を考え、汎用性の高いペーパー 1 部分は試作と評価を行った。

そこでわかったのは、オリエンテーションやペーパー 1 のように Moodle だけで成立できるパートと、ペーパー 2 や個人口述のように同期型授業と合わせた授業提供が必要なパートがあるという見通しだった。つまり、Moodle だけで完全に独学で学べる仕組みを作ることは現段階では難しい。

また、今回は、スタンダードレベルに焦点を当ててコースデザインを行ったため、「HL 小論文」をどのように指導するかはデザインから除外しており、こちらも別途検討が必要になるだろう。ここまでの考察で同期型授業が必要だと判断したのも、ペーパー 2 の比較小論文で問をかみ砕いて共通点と差異点を整理するところと、個人口述のグローバルな問題を設定する時のアイデアを育むところだった。だから、アイデアを出したり、発想を広げるという意味で、問題意識の種をまき、本人の中で育ってくる過程はどうしても人間が必要な部分ではないかと考えた。

一方で、オリエンテーションやペーパー 1 のパートは、学校での採択テキストによらず学習が進められる点でオンライン化の恩恵が非常に大きく、実際に作成するの他のパートよりは困難がない。だから、全てのパートを Moodle 上で実装していく時に、まずはこの 2 つのパートを充実させていき、それで得られた知見をペーパー 2 に移していくことが現実的だろう。

ペーパー 2 の場合は、理論上は採択テキストが数百冊に渡るだろうが、学校で選択される本は共通することも多い。だから、まずは選ばれやすい作品から Moodle で授業ができるように構築していく。ここは、読むパートである前半と、ペーパー 2 小論文を書くパートの後半に分けたが、Moodle 上で構築するのは前半パートが良いだろう。

その後、ペーパー 2 の読むパートが 10 冊程度完成したら、ペーパー 2 小論文が Moodle だけで書けるようになるかももう一度考察する。「書け」と言って、課題を提出させるのは

教材とは言えないから、書けるようにするために Moodle でのオンラインのテキストで何ができるかは、Moodle の仕様にもっと精通する必要があるようだ。

最後に個人口述のパートだが、ここはアイデアを出した段階では実現できそうに見えるが、学問的誠実性を保ちながら、指導者が最終成果物を確認しないというルールを守りながら成果物の質を上げるための非同期での指導解決法が生まれなかった。だから最も実装が難しいだろうと考える。

ただし、この個人口述のパートで「見守る」というキーワードが出てくるが、これは大切な要素ではないかと気づくことがあった。本研究の目的は「IB 日本語 A : 文学」を Moodle 上で学べるようにすることで、世界の日本人高校生に貢献することだったが、それが単に時間短縮などのイージーな問題解決になってはいけないということだ。学習者の中で問題意識が生まれ、それが育ち、形として小論文やプレゼンテーションとして現れるには、オンライン上であっても「見守る」、「待つ」という姿勢が必要なのではないか。

このように、本研究は IBDP と「IB 日本語 A : 文学」を概観した上で、Moodle 上でのコースデザインと実装方法について検討し、その実現性について論じてきた。ここまでにも述べたように、IBDP はオンライン化のパイロットプログラムが進行中⁸²で、2030 年にはプログラムの刷新を控えている⁸³など変わり続ける。だから、現段階の結論はここに置くが、たゆまぬ変化に対応しながらも、変えてはいけないところもあると考え、以下はこれからの展望を“断章”として思索段階の考えを記す。

10.2 断章-人を育てるのは人だけだ

私の考えは、全てを Moodle 上で完結させ人間の指導者を疎外するものではない。また、現段階では「日本語 A : 文学」をただ Moodle 上に移植しても独り立ちできる教材にはならない。だから、Moodle 上でできることは Moodle 上で行うが、オンライン学習ならではの学

⁸² International Baccalaureate Organization:“ Online DP pilot”

<https://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/dp-online/online-dp-pilot/> (参照 2025.12.30)

⁸³ International Baccalaureate Organization:“ Collaborative review of the DP and CP”

<https://www.ibo.org/programmes/collaborative-review-of-the-dp-and-cp/> (参照 2025.12.31)

習者の困難を助けることが指導者には求められる。

具体的な指導者の役割は、①相談相手がおらず手詰まりになってしまう②誰も伴走する人がおらず継続する勇気がもてない③自分が目標としたいロールモデルがなく先が見えないという3点に段階的な解決法のヒントを見せ、相談に乗ることだ。つまり、その学習者が成長することをイメージしながら、アドバイスできるのは人だけだ。

そして、ここは意欲の問題が大きく、コースのデザインと学習者支援の両方に ARCS-V モデルの考え方が援用できることがわかった。⁸⁴ただし、オンライン上で教材を構築していく中で、紙とオンラインとのメディアの違いを考慮したデザインが必須であり、行き詰まりと挫折がどこから来るのかというより人間的な考察が必要だろう。

最後に、もし学習者の数が増えた場合にはいずれ AI による自動採点という課題が出現することが予想される。この時に、学校の先生であれば規定のルーブリックと指導側のコソを条件として読み込ませることで点数としてはある程度妥当なものが出るだろう。しかし、AI にできないのは今の学習者の姿とこれから成長するだろうというイメージをもって、アドバイスを寸止めにする事だ。ここは研究としてもっと別の観点が必要なため AI 採点は可能性指摘の段階に留めた。

繰り返すが、Moodle で「日本語 A : 文学」を学べる場が提供できても、IBPD の2年間を走り切るには指導者のフォローと一緒に学ぶ仲間が欠かせない。その一因は、学習者にとって、相談できる相手がいて、目標はそれぞれでも同じ地平で悩む仲間がいて、ロールモデルが見つかる環境ができて、初めて勇気が持て、続けようとするからだ。もちろん、参考書のみで本と自分と対話し、考える力をつけていくような学習者もいるだろう。それは否定しないが、それでは IBDP では学ぶ方法が足りない。なぜなら、「日本語 A : 文学」では、「自信をもち、創造的な方法でコミュニケーションをとり、協働する」が、“ねらい”として設定されており、他者との協働は不可欠なデザインになっているからだ。⁸⁵

では、チャットボットが入り FAQ に素早くアクセスできるか、あるいはテキストや音声に

⁸⁴ 「第5章「日本語 A : 文学」のコースデザインを考える」で何度もこの本に言及している。

J.M.ケラー著 鈴木克明監訳：“学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン”，北大路書房,京都 (2010)

⁸⁵ 国際バカロレア機構：“「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構，Geneva, pp. 17-18 (2019)

よる質問を ChatGPT などのプラグイン AI が受け付けるシステムがありさえすればそれで事足りるのかといえ、それも正しくない。問題は「意欲」にあるからだ。「～たい」という気持ちを醸成し、維持するために指導者や仲間が必要だ。FAQ や AI は行き詰りを解決する方法ではあるかもしれないが、学びたい、向上したいという気持ちの維持には人がいる。それは、証明が必要な命題というよりも、人が他者を真似しながら自分の行動を作っていく動物だという自明の事実を提示すれば事足りるのではないか。逆の立場から言うのであれば、人がおらず、オンラインの教材とそれを支援する AI だけあれば、学びというのは完成すると一点の曇りもなく言える指導者はいるだろうか。言うまでもなく、人を育てるのは人だけだ。ここは『情報化社会と教師の仕事』(沼野一男)⁸⁶からも影響を受けた。

だから、この「特定課題研究」では、時間と場所と紙資源を節約し、作業過程が学習者に気づきをもたらすオンライン型学習の利点を生かしつつも、コミュニケーションの不全を防ぎ、人間を知りオンライン型学習の特性を知ったガイドとなる指導者がいるべきという立場に立つ。そのため、小見出しは「人を育てるのは、人だけだ。」とした。

10.3 断章-今後の Moodle での教材デザインのために必要な考え方

Moodle での学習は三次元の中で、触覚や嗅覚や聴覚や味覚の刺激が乏しいために、学習者は作成者の意図しないところでストレスを受ける可能性が高い。それは、本を紙で読み人間と音声で対話するという既存の方法から、画面上のどこかある情報を探して読み、それが有用か否かを自分で判断するという主に視覚に頼らざるを得ないメディアの特性があるからだ。

また、本と違い、画面の中のヒントは、心理的な盲点になっていて書かれているのに気づかないという経験をした人も多いだろう。紙のページをめくるという動作は、動きの中の連続性があり、半分前のページを出しながら、新しいページを折って同時に見るということもできる。しかし、オンライン上の画面は、ボタンを押したら次のページに 100%進んでしまおうし、2つのウィンドウを並べておいても、動きの中で紙をペラペラめくるのとは身体に入ってくる情報に違いがある。もちろん、汚い手書きのメモを残すこともできなければ、オンラインのページには煙草の葉を巻いて吸うこともできない。だから、オンラインでの学習は、

⁸⁶ 沼野一男,：“情報化社会と教師の仕事”, 国土社, 東京 (1986)

学ぶためのコンテンツの質を高めていくことと並行して、インターフェイスやユーザエクスペリエンスも考慮したデザインにすることも必要だ。そのために Moodle の仕様により精通する必要があり、ここは経験を要する。

さらに、前項でも述べた「～たい」という意欲の問題を解決する必要があるが、インストラクショナルデザインのモデルは全ての学習者に同様の結果をもたらす自然科学の法則とは異なることに注意したい。もっと言えば、学習者ほど指導者が何を狙っているかを敏感に察知する存在はいない。先生がテストで出すだろう内容、どのくらいで叱られるか、どんな生徒が好みかなど、学習者の側は学習する内容よりも「それがどういう仕組みなのか」を見抜く。だから、意欲を維持、向上するようなデザインを心がけるのだが、ポイントはそれが前面に出ないように、あくまで学んでいるうちに面白くなるように「隠した」デザインにすることだ。このあたりは、未熟な教師が学校で学んできた学習理論をすぐ実地で使おうとして生徒たちに反感を持たれる例を挙げておけば充分ではないか。デザインは、それが自然すぎて気づかないほど、洗練されたものでなくてはいけないのだ。

10.4 断章-ループリックを使った AI による採点の可能性

国際バカロレア「日本語 A：文学」を Moodle で全て実装できたのちに、学習者の人数が増加するにつれて解決しなければいけない問題が、小論文の採点だ。それは、実際に答案を読み、ループリックに基づいて採点し、学習者が高得点の小論文が書けるようにフィードバックを与えることは、指導者にとって少なからず負担のあることだからだ。具体的に筆者の経験で言えば、得点をつけ、誤字・脱字とよりよい表現を指摘し、表現や論旨の妥当性についてのメモを書くと、ペーパー 1 なら一人分で 20 分程度、ペーパー 2 なら 30 分程度かかる。だから、学習者たちに何本も小論文を書かせることは、指導者にとっても負担が増えるため諸刃の刃となる。

学習者たちが小論文を書くのは、スコアを上げたいからはもちろん、作品を理解したいからということも言える。つまり、問に合わせて小論文を書いていくことで、作品が何を読者に対して語っているのかを言語化していきながら、意識できるものにしていくのだ。だから、問に対して答えを作っていく作業の他に、書きながら何かをつかんでいくということも言える。また、試験で新しいスタイルを試すのには怖いから、他の問題で新しい構成を使って書けるかを試すこともある。例えば、ペーパー 1 で文章の流れに応じて分析していく流れを

止めて、技法や文体、会話文の使い方など複数の観点で横断的に書いてみるなどは上手に時間内に書けるようにするためにはよい挑戦だと思う。その時に、その方法が良いのかを定めるのが採点によるフィードバックの重要性だ。

だから、書くことによって試したい、あるいはこういう内容の小論文であれば何点になるのか判定したいというのは、学習者にとっての利益になるはずである。そして同時に、何本も書いてみるということは小論文が上達するための王道だから、指導者にとっても利益がある。しかし、学習者のために課題を与え、書かれた小論文に一生懸命に応えようとする数と時間の限界が来る。だから中期的な問題は、どのようにすれば国際バカロレア機構の著作権に配慮しながら採点とフィードバックを自動化し、人間的な視点で学習者の成長を見守ることができるかだ。

10.5 断章-「学習者の孤独」という問題

eラーニングで国と時間に関係なく学べる環境を提供することは、学習者にとってこれまでになかった学習機会が増えることには間違いない。しかし、そのeラーニングだけで学習者の意欲が維持できるのか、あるいは学習者の痒い所に手が届くフォローができるのかといえば、答えは否ではあろう。もちろんデザインとしての工夫が必要であり、一方で受講する学習者の側にある困難にも目を向ける必要がある。

eラーニングの弱点のひとつに、『学習者の孤独』があります。自己管理能力があまり高くなく、eラーニング環境に慣れていない学習者の場合、クラスメートの姿がみえない状況は不安と自身喪失を招きます。学習者を励まし、モチベーションを維持させるためには、プロアクティブなチュータリングを行う必要があります。学習者は適切なタイミングに、ポジティブなフィードバックを与えられることで初めて積極的に学習に取り組むようになるのです。⁸⁷

これは企業内での研修の文脈で、「成功するeラーニングに欠かせないもの」という項目で説明された内容の引用だ。成人教育について語っており、今回の対象である高校生に全く同じ結果が起こるとは限らない。しかし、成人教育でさえ上記のようであれば、学び方を学

⁸⁷ 日本イーラーニングコンソシアム編,：“eラーニング活用ガイド”,東京電機大学出版局,東京,pp.83(2007)

んでいる段階の高校生たちには、より困難があるだろうと予想できる。

では、どのように解決するのか。私はラジオからのアナロジーで考えたい。Youtube やインターネットがなかったころ、同じ時間に同じ情報を聞くということはリスナー同士に連帯感を作る働きがあった。なぜ、一方的な情報送信のはずのラジオがリスナー同士で連帯感を作ることができたのかと言えば、その一因が「ハガキ」にあった。つまり、リスナーと呼ばれる聴取者は自分のタイミングでハガキというメディアを使って参加し、それが読まれるかどうかという期待感をもってオンエアを待っていたのだ。だから、聞くだけの参加の人もいれば、「ハガキ職人」と呼ばれる常連もいて、参加者側のアイデアが何かしら番組で放送されるだろうという、それぞれの楽しみ方があった。そして、それぞれの楽しみ方があるのに、放送は同じ時間に流れるから連帯感を生む。ハガキは今は e メールになっただろうが、ラジオで聴取者からの投稿を求める手法は変わらない。むしろ、youtube のようにネット上のメディアになっても、スーパーチャットなどの方法で VTuber とコミュニケーションを取り、そのコメントが読まれることを待つスタイルは加速しているようにさえ見える。だから、一つの方法としては「ZOOM で、あるいは音声だけでも、決まった時間に、指導者と会える、コメントがもらえる」という場を作ることが孤独を防げるのではないだろうか。

もう一つは伴走者としてのメンター、あるいはチューターの必要性だ。ここでのメンターは「学習者に継続的・心理的にサポートし学習の継続を促進する役割を持つ。学習者にとって信頼のおける助言者」、チューターは「質問への回答、採点結果の解説など学習内容に関するサポートを行う」存在という意味で使用する。⁸⁸全体への定期的なフォローがクラスとしての連帯感を作るものだとするれば、こちらは個別の対応を用意するものだ。特に、e ラーニングの場合は、わからない時にどうすればよいかわからないという弱点がある。もう少し言えば、何がわからないのかがわからず、どうすれば解決できるのかがわからず、それを表現できないから無言で去っていくというのが一部の学習者の実相ではないか。これをお読みの方も、企業のサービスでチャット bot などに誘導されるも、結局上手に質問することが難しく、解決できないという経験をお持ちの方はいるのではないだろうか。音声の電話の場合であれば、相手の言いたいことを推察することで、こうではないかという提案をすることもできるが、オンライン上の文字によるコミュニケーションだとそもそも質問を上手にするということが難しい。

⁸⁸ 日本イーラーニングコンソシアム編, : “ e ラーニング活用ガイド”, 東京電機大学出版局, 東京, pp. 54 (2007)

理想的なのはメンターとチューターが同一人物であり、そのコースを設計した人物であることだ。いわば、本の著者と直接やり取りができる環境を裏側で用意しておくことだともいえる。ただし、現実的には質問するためのメールアドレスを作っておき、ZOOM などの同期型の相談もできるようにしておき、質問したことや進捗がはかどらないことはマイナスにならず、むしろ課題を進めるためにはプラスになるという足場架けが必要になるだろう。最も大切なのは、メンターやチューターからもらったメールのテキストで学習者が傷つく可能性を頭に入れておくことだ。アドバイスのつもりで送ったメッセージが学習者にとっては、自らを脅迫する刃物に見える可能性があるからだ。指導者と学習者という立場の非対称性を意識しながら、テキストによって相手から考えを引き出すのは容易ではないから、ZOOM という密室の方が有効になる場合がある。また、企業の問い合わせフォームのように、ある程度定型の質問フォームがある方が聞きやすいかもしれないが、いずれも他の学習者から見えないという心理的な安全を担保しておくことも、学習者のプライドを守るために必要だと考える。

10.6 断章-過渡期の記録

ここまでの問題の設定と解決案は、過去から未来を透視するものだ。2007 年から 2026 年の現在までシンガポールで日本人の子供たちを見てきた経験と、2020 年からのコロナ禍でオンライン型教育との両立を始め、2024 年から熊本大学大学院社会文化科学教育部 博士前期課程 教授システム学専攻で学び、今までの経験に言葉を与える機会を頂いた。

インストラクショナルデザインについて学ぶことはこれまでの我流に対していくつかのモデル思考を与え、自らをコーチングするような結果をもたらしたが、その一方で何冊本を読んでも、何科目オンラインで受講しても解決できないものがあつた。

それは、相手を個としてみる発想が欠けているのではないかということだ。これは、理論としてモデル化していく中で個という具体的なものは失われていくこと仕方がないとする考え方もあるかもしれない。設計と実際は完全一致はしないというのも真実だろう。また、インストラクショナルデザインからくる理論は一つのモデルであって、物理法則とは異なる。だから、これを使えばある程度妥当な結果は求められるかもしれないが、100%を保証する魔法の杖ではないだろう。だから、この理論が入っているからこのデザインは優れているという書き方をすることは、原因と結果の逆転ではないかと思うことがあつた。

この時に、ひらめいたのは「過渡期」という言葉だった。IBDP が変化していくように、インストラクショナルデザインも変化していく。それを途中の段階として記録したのが研究で、「止まっている画面」なのだ。すると、こちらがしなくてはいけないことは、一人の指導者として連続する学習者の個を見続けること、記録の中に含まれる鋭い知の結晶を見抜くこと、そして自分も一緒に変化しつづけていくということだ。

だから、この最後はまとまりがないため“断章”としたが、これらの中から次の自分や読んでいただいた方が紡ぐ次章へのアイデアが含まれていると信じ、本研究ではここでキーボードを打つのを止める。

参考文献・参考資料

第1章 なぜこの研究に価値があるのか

International Baccalaureate Organization: “Digital examinations for the DP and CP”

<https://ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/digital-examinations-for-the-dp-and-cp/>

(参照 2025. 12. 21)

第2章 開発のコンセプト

サイトウ・アキヒロ: “ビジネスを変える「ゲームニクス」”, 日経BP, 東京(2013)

International Baccalaureate organization: “Artificial intelligence (AI) tools – common questions and

concerns”, <https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/shared-resources/pdfs/artificial-intelligence-questions-and-concerns-en.pdf> (参照 2025. 12. 31)

Follett Content Solutions:

<https://www.follettibstore.com/> (参照 2025. 12. 30)

International Baccalaureate organization: “Rules for use of IB Intellectual Property”,

<https://www.ibo.org/terms-and-conditions/intellectual-property/> (参照 2025. 12. 30)

第3章 国際バカロレアを概観する

国際バカロレア機構: “国際バカロレア (IB) の教育とは”, (2019)

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/what-is-an-ib-education-ja.pdf>

(参照 2025. 12. 30)

国際バカロレア機構: “IBの学習者像”, (2022)

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/ib-learner-profile-brochure-j.pdf>

(参照 2025. 12. 30)

International Baccalaureate Organization: “Collaborative review of the DP and CP”,

<https://www.ibo.org/programmes/collaborative-review-of-the-dp-and-cp/> (参照 2025.12.31)

Cambridge University Press & Assessment: “Cambridge IGCSE”,

<https://www.cambridgeinternational.org/jp/programmes-qualifications/cambridge-igcse/> (参照 2025. 12. 30)

海外教育マガジン Spring: “特別企画 国際 AS&A Level、IGCSE とはなにか”,

<https://www.spring-js.com/global/6350/> (参照 2025. 12. 30)

文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム:” DP (ディプロマ・プログラム) とは” ,

<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/dp/> (参照 2025. 12. 30)

International Baccalaureate Organization:“ Facts and figures” ,

<https://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/> (参照 2025. 12. 30)

Hachette Learning:“ IB WORLD SCHOOLS YEARBOOK 2025”

<https://www.ibyo.org/ib-world-schools-yearbook-2025-digital-edition> (参照 2025. 12. 30)

文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム:” IB 認定校・候補校” ,

<https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/school/> (参照 2025. 12. 30)

文部科学省:” 11. 学齢児童生徒をいわゆるインターナショナルスクールに通わせた場合の就学義務について” ,

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shugaku/detail/1422252.htm (参照 2025. 12. 30)

文部科学省:” 海外で学ぶ日本の子供たち” ,

https://www.mext.go.jp/content/20250408-mext_kyokoku-100002004_02.pdf (参照 2025. 12. 30)

早稲田渋谷シンガポール校

<https://www.waseda-shibuya.edu.sg/> (参照 2025. 12. 30)

外務省:” 海外在留邦人数調査統計 令和 7 年 (2025 年) 10 月 1 日現在” , (2025)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100957047.pdf> (参照 2025. 12. 30)

文部科学省:” 認定した在外教育施設一覧” ,

<https://www.mext.go.jp/content/000352298.pdf> (参照 2025. 12. 30)

第 4 章 「日本語 A : 文学」を概観する

国際バカロレア機構:” 「言語 A : 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験” , 非営利教育財団 国際バカロレア機構,

Geneva, (2019)

Diploma Programme language A curriculum team:”Diploma Programme language A: literature and language and literature Summary of changes for teachers” International Baccalaureate Organization,(2024)

国際バカロレア機構:” IB の学習者像” ,

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/brochures-and-infographics/pdfs/ib-learner-profile-brochure-j.pdf>

(参照 2025.12.29)

国際バカロレア機構:” 国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要 DP の「コア」: 知の理論 (TOK) 2022 年第 1 回試験” ,

https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/core-tok-2022_jp.pdf (参照 2025.12.30)

International Baccalaureate Organization: “Diploma Programme and Career-Related Programme statistical bulletins”, <https://www.ibo.org/about-the-ib/facts-and-figures/statistical-bulletins/diploma-programme-and-career-related-programme-statistical-bulletin/> (参照 2025.12.31)

文部科学省: “国際バカロレアの普及促進に向けた検討に係る有識者会議取りまとめ”(2023),
https://www.mext.go.jp/content/20230328-mxt_kokusai01-000022346_1.pdf (参照 2025.12.30)

第5章「日本語 A : 文学」のコースデザインを考える

国際バカロレア機構: “「言語 A: 文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, (2019)

International Baccalaureate Organization: “Diploma Programme and Career-Related Programme statistical bulletins”
https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/about-the-ib/pdfs/dpcp-final-statistical-bulletin-may-2025_en.pdf
(参照 2025.12.30)

Prescribed reading list <https://ibpublishing.ibo.org/prl/> (参照 2025.12.30)

松村 貴由: “シンガポール — COVID-19 対策の優等生? それとも?”
<https://www.covid19-jma-medical-expert-meeting.jp/topic/4566> (参照 2025.12.30)

鈴木克明: “学習経験の質を左右する要因についてのモデル”, 教育システム情報学会研究報告, 24 (4), pp.74-77 (2009)
<https://idportal.gsis.jp/~idportal/wp-content/uploads/a91120jsise.pdf> (参照 2025.12.30)

鈴木克明・美馬のゆり編著: “学習設計マニュアル 「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン”, 北大路書房, 京都 (2018)

J.M.ケラー著 鈴木克明監訳: “学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン”, 北大路書房, 京都 (2010)

第6章「オリエンテーション」のパートの条件

鈴木克明: “教材設計マニュアル 独学を支援するために”, 北大路書房, 京都 (2002)

鈴木克明・美馬のゆり編著: “学習設計マニュアル 「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン”, 北大路書房, 京都 (2018)

J.M.ケラー著 鈴木克明監訳: “学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン”, 北大路書房, 京都, pp47 (2010)

第 7 章 ペーパー 1 のパートと Moodle 試作版の評価

国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva (2019)

International Baccalaureate Organization：“ Rules for use of IB Intellectual Property”

<https://www.ibo.org/terms-and-conditions/intellectual-property/> (参照 2025.12.30)

五十嵐 敢, 中野 裕司, 喜多 敏博, マジュンダール リトジット：“国際バカロレア「日本語 A：文学」を Moodle 上で成立させるための教材デザインを考える”，第 50 回教育システム情報学会全国大会 (2025)

https://idportal.gsis.jp/files/JSiSE2025_igarashi.pdf (参照 2025.12.31)

第 8 章 ペーパー 2 のパートと Moodle で実装する条件

International Baccalaureate Organization：“ Sample exam papers”(2025)

<https://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/assessment-and-exams/sample-exam-papers/>

<https://www.ibo.org/globalassets/new-structure/programmes/dp/pdfs/english-a-literature-hl-paper-1-en.pdf>

(参照 2025.12.30)

国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, 2019 年

Diploma Programme language A curriculum team：“Diploma Programme language A: literature and language and literature Summary of changes for teachers” International Baccalaureate Organization (2024)

第 9 章 個人口述のパートと Moodle で実装する条件

国際バカロレア機構：“「言語 A：文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”，非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva, 2019 年

第 10 章 結論と展望のための断章

International Baccalaureate Organization：“ Online DP pilot”

<https://www.ibo.org/programmes/diploma-programme/dp-online/online-dp-pilot/> (参照 2025.12.30)

International Baccalaureate Organization：“ Collaborative review of the DP and CP”

<https://www.ibo.org/programmes/collaborative-review-of-the-dp-and-cp/> (参照 2025.12.30)

J.M.ケラー著 鈴木克明監訳：“学習意欲をデザインする ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン”，北大

路書房,京都 (2010)

国際バカロレア機構:「言語 A:文学」指導の手引き 2021 年第 1 回試験”, 非営利教育財団 国際バカロレア機構, Geneva
(2019)

沼野一男, : “情報化社会と教師の仕事”, 国土社, 東京 (1986)

日本イーラーニングコンソシアム編, : “ e ラーニング活用ガイド”, 東京電機大学出版局, 東京 (2007)

追伸 :

中野先生、本当にありがとうございました。

私、中野先生でなければ、2年間のオンラインだけの学びはやり遂げられませんでした。

教材も研究も人あってこそという基本を教えてくれたのが中野先生でした。